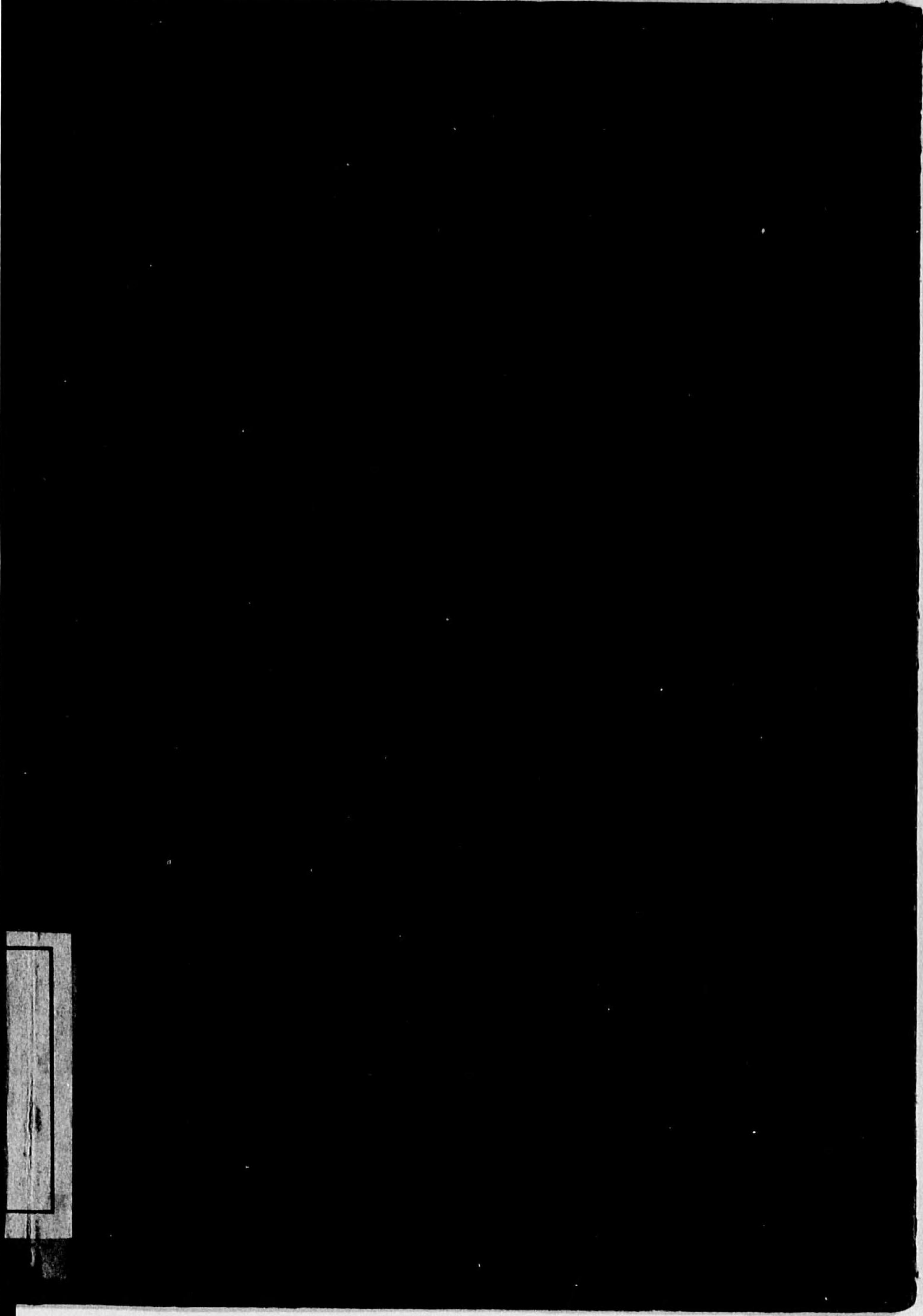


始



~~628~~ 526.7
~~44~~ K049

25 (K049)

25 525

2701

國立公園二建ツ

S26.7
K049

山小屋建築

設計圖案集



國立公園協會
建築學會

65/11

は し が き

国立公園設定の議は漸く其の機熟し、趣意書にも誌してある通り、曩に内務大臣が国立公園委員会をして諮問選定せしめたる十二箇所の候補地中、「雲仙、霧島、瀬戸内海」の三箇所は既に決定を見るに至つたのである。国立公園協會は之れに先ち、国立公園に於ける最も重要な施設として理想的な山小屋建設に對する指導を企劃されたのである。

其の方法として、汎く我建築家より懸賞募集により優秀なる圖案を得ることを最も勁捷なりと思考され、建築學會へ協力を申込まれたのである。學會はこの申込みを欣然應諾し兩會より委員を選び、慎重協議の結果、昨年11月20日懸賞募集規程を決定し、之れに依つて兩會會員より設計圖案を懸賞募集したのである。

此の企は建築界に非常なる興味と期待とを以て迎へられ、2月10日の締切までに、全國は固より遙か滿鮮地方よりの應募もあつて、其の總數198通の好成績を收め得たのである。

審査は2月13、14日の兩日に亘り行つたのであるが、今回の懸賞は一つは建物の特殊性にも因るところなるも、應募者の眞摯なる研究は幾多の問題の解決に努力を拂はれて居ることが明かに看取された。

其の結果、爰に輯録した圖案が最も優秀なるものとして當選の榮譽を擔ふ事になつたのであるが全體に亘つて良き作品が多かつた事は、誠に欣快に堪へないところである。

兩會は之れ等の優秀圖案に依つて、佳き山小屋が普及され、將來の国立公園利用價值をしていよいよ高からしめられん事を切望し、併せて審査員、委員を始め應募されたる諸君に對し深厚の謝意を表する次第である。

昭和9年3月

国立公園に建つ

山小屋設計懸賞募集委員會委員長 大熊喜邦

國立公園に建つ山小屋建築設計圖案懸賞募集趣意書

曩に國立公園委員會より内務大臣の諮問に對し我國の國立公園とするに適當なりとして選定答申ありたる十二箇所の候補地「阿寒」「大雪山」「十和田」「日光」「富士」「日本アルプス」「吉野及熊野」「瀬戸内海」「大山」「阿蘇」「雲仙」「霧島」は所定の調査手續を了へ、近く夫々正式指定の運に至る趣にして之等候補地につき道路、宿舎等の建設に着手する向のもの尠からず、殊に山小屋の建設に至りては相當多數計畫せられつゝあるを以て、外觀（周圍の自然的風致との調和）建築材料及構造（附近にて得らるゝ材料を用ひて堅牢なること）設備（登山者の疲勞を醫するに足り快適にして衛生的なること）等につき優秀なる設計圖案を得て普く之を推舉せんとす、依て此際國立公園協會と建築學會とは協力して國立公園に建つ山小屋の建築設計圖案を次の規程に依り募集す、特に斯の道に經驗と興味とを有せらるる各位の應募を希望す

昭和八年十一月

國立公園協會
建築學會

懸賞募集規程

- 第一條 國立公園協會及建築學會ハ本規程ニ依リ國立公園ニ建ツ山小屋ノ建築設計圖案ヲ募集ス
- 第二條 應募者ハ國立公園協會及建築學會ノ會員ニ限ル
- 第三條 應募圖案ノ提出期限ハ昭和九年二月十日(土)正午トス
- 第四條 應募圖案ハ東京市京橋區銀座西三丁目一番地建築學會事務所ニ提出スヘシ
- 第五條 應募設計條件次ノ如シ
- 一、使用目的 夏季冬季兼用
 - 二、位置 國立公園區域内森林限界以上ノ高地、森林地帯、草原、湖畔等
 - 三、敷地 自由
 - 四、延面積 約百五十平方米ヨリ約二百平方米ノ範圍
 - 五、收容人員 五十人乃至八十人
 - 六、所要室 ホール兼食堂、寢室、炊事場、浴室、便所、小屋番及人夫部屋、物置、スキー置場、乾燥室等
但建設地ノ狀況ニ應ジ適當ニ取捨スルコトヲ得
 - 七、構造 自由
 - 八、建築費 三千圓内外

第六條 應募圖案ハ次ノ圖面及書類ヲ具備スルコトヲ要ス

- 一、平面圖 縮尺百分ノ一
- 二、立面圖 縮尺百分ノ一 二面以上
- 三、断面圖 縮尺百分ノ一
- 四、透視圖
- 五、設計説明書 假定シタル國立公園名及位置(第五條二)ヲ示シ設計概要ヲ簡明ニ記載スヘシ
- 六、設備ニ付特ニ考案シタル點ハ之ヲ圖示スルコト

第七條 圖面ハ原圖紙ニ墨又ハ鉛筆ヲ以テ畫キ數字以外ノ文字ハ邦字ヲ用ヒ寸法ハメートル法ニ依ルヘシ 但透視圖ニ限り色彩ヲ施スコトヲ得

第八條 圖面及書類ニハ總テ署名ニ代フルニ每葉暗號(簡單ナル邦字)ヲ記載シ別ニ暗號ノミヲ表記セル封筒内ニ應募者ノ住所、氏名及暗號ヲ明記シタル紙片ヲ封入シ圖面及書類ト共ニ一括シテ適當ナル包裝ヲ爲シ其表面ニハ宛名ト應募者ノ暗號及應募圖案タルコトノミヲ記載スヘシ

第九條 應募ニ要スル一切ノ費用ハ應募者ノ負擔トス

第十條 審査ニ關スル事項次ノ如シ

- 一、審査員ハ應募ニ加ハリ又ハ應募者ニ補助ヲ與フルコトヲ得ス
- 二、審査ニ對シテハ説明ヲ求メ又ハ異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得ス
- 三、審査ノ結果ハ直チニ當選者ニ通知シ且最近ノ會誌國立公園及建築雜誌ニ之ヲ發表スヘシ (五十音順)

- 四、審査員次ノ如シ
- | | | | | |
|------------|---|---|---|---|
| | 今 | 井 | 兼 | 次 |
| | 岸 | 田 | 日 | 出 |
| | 清 | 水 | 幸 | 重 |
| | 下 | 元 | | 連 |
| 國立公園協會常務理事 | 田 | 村 | | 剛 |
| 國立公園協會常務理事 | 藤 | 原 | 孝 | 夫 |
| | 堀 | 越 | 三 | 郎 |

第十一條 賞金「國立公園協會賞」次ノ如シ

- 壹等 金貳百圓也 一名
- 貳等 金百圓也 三名

第十二條 當選設計圖案ニ付應募者ノ有スル一切ノ權利ハ當選ト同時ニ國立公園協會ニ歸屬ス

第十三條 當選セサル圖案ハ之ヲ返送ス

第十四條 應募設計圖案ノ取扱ニ關シテハ充分ノ注意ヲ爲スト雖モ萬一損害ヲ生シタル場合ニハ其ノ責ニ任セス

第十五條 應募設計圖案ハ審査終了後適當ナル方法ヲ以テ公表スルコトアルヘシ

以上

目次

はしがき.....

懸賞募集趣意書及規程.....

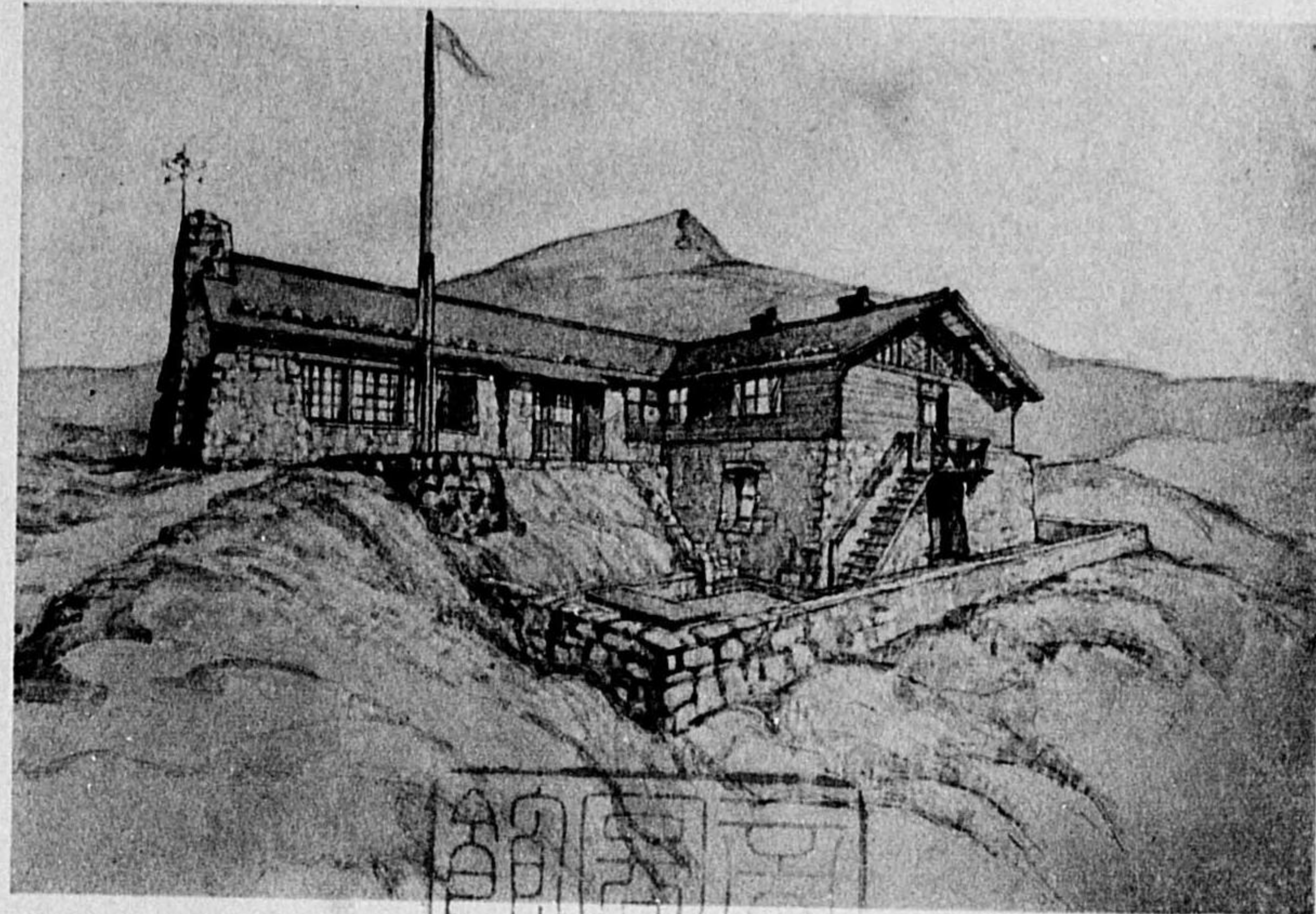
當選

一等	建築學會員	間野貞吉君作(東京).....	1
二等一席	同准員	相澤珠壺君作(同).....	7
同二席	同正員	村田政真君作(同).....	12
同三席	同准員	相澤珠壺君作(同).....	16
等外佳作	同正員	出隆雄君作(兵庫).....	21
同	同准員	小栗武夫君作(愛知).....	25
同	同准員	吉田治徳君作(東京).....	29
同	同准員	藤岡憲吾君作(廣島).....	33
同	同正員	谷一東君作(東京).....	37

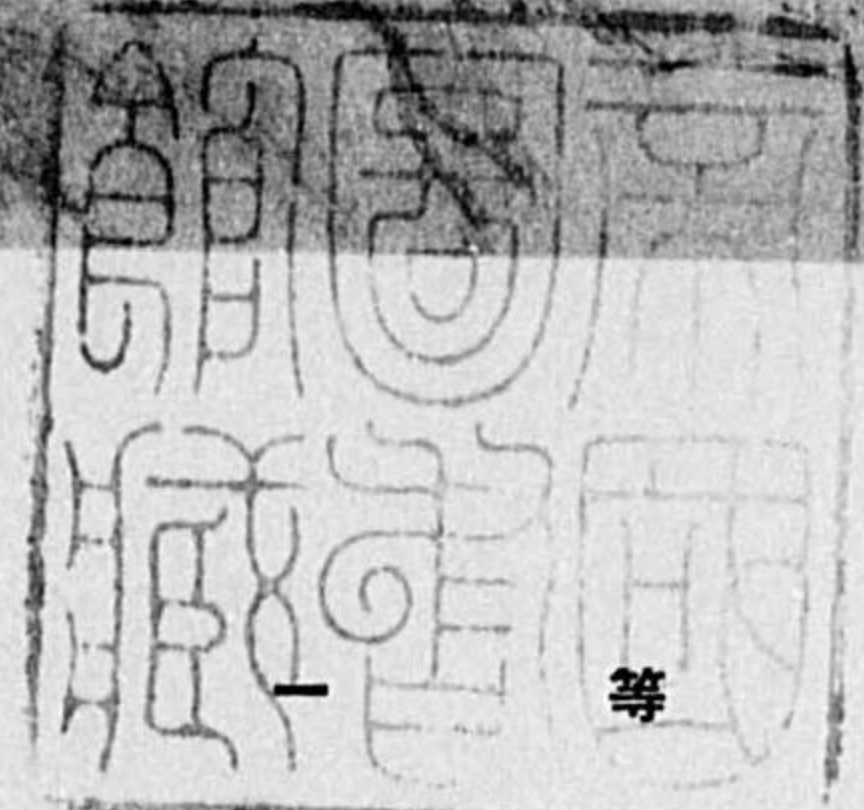
以上

15.6.6

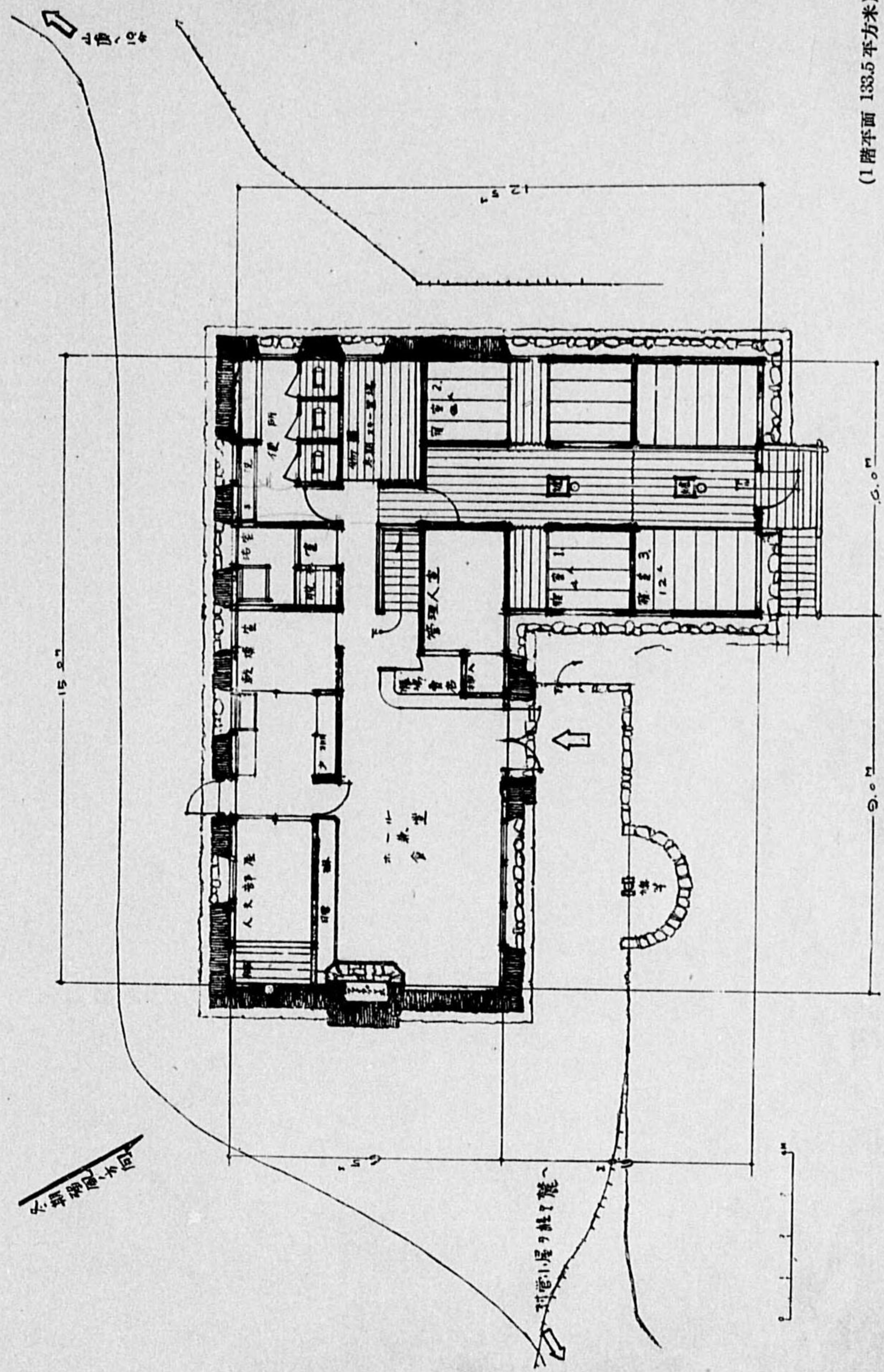
• 1



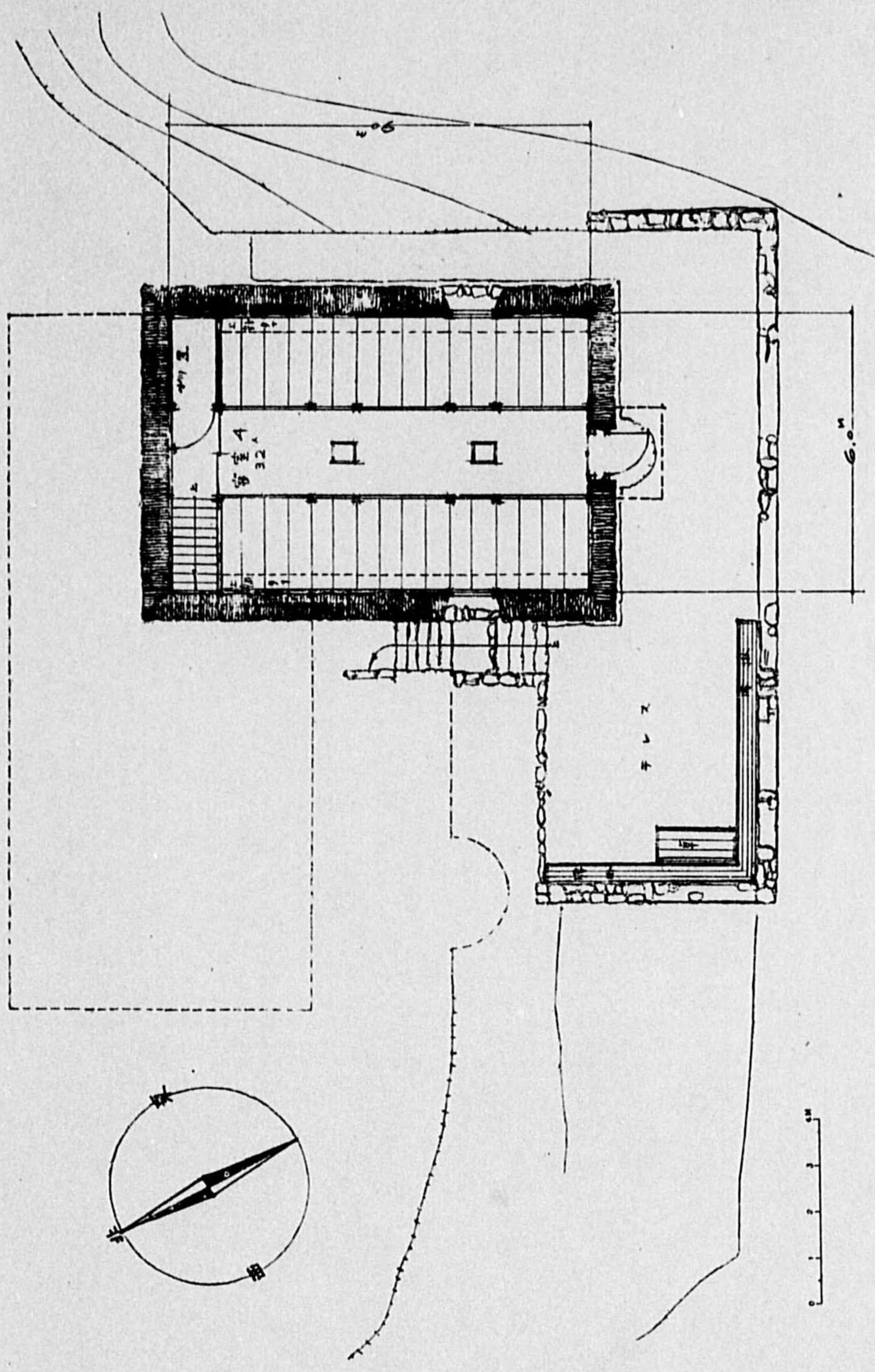
(透視圖)



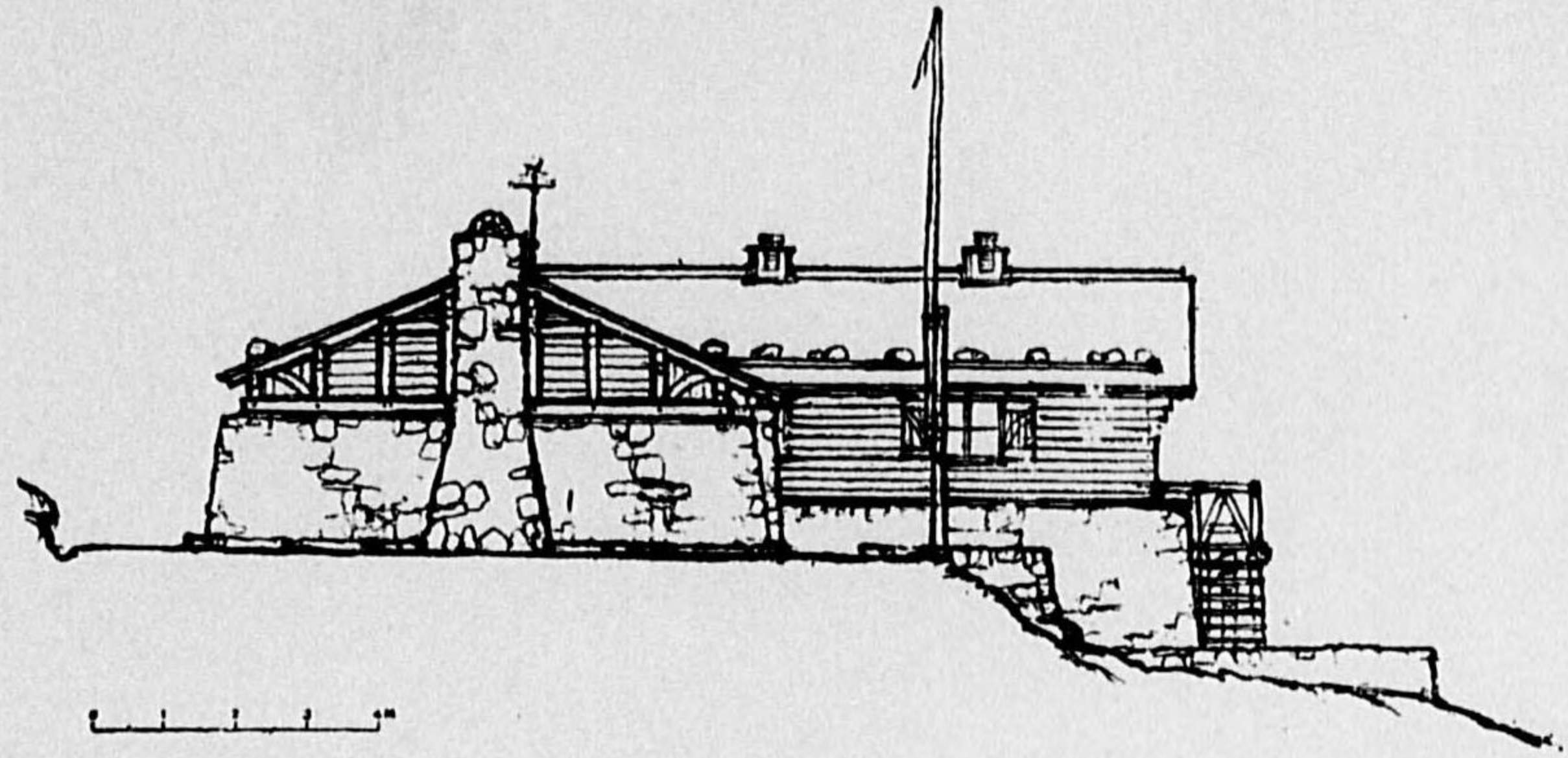
間野真吉君作



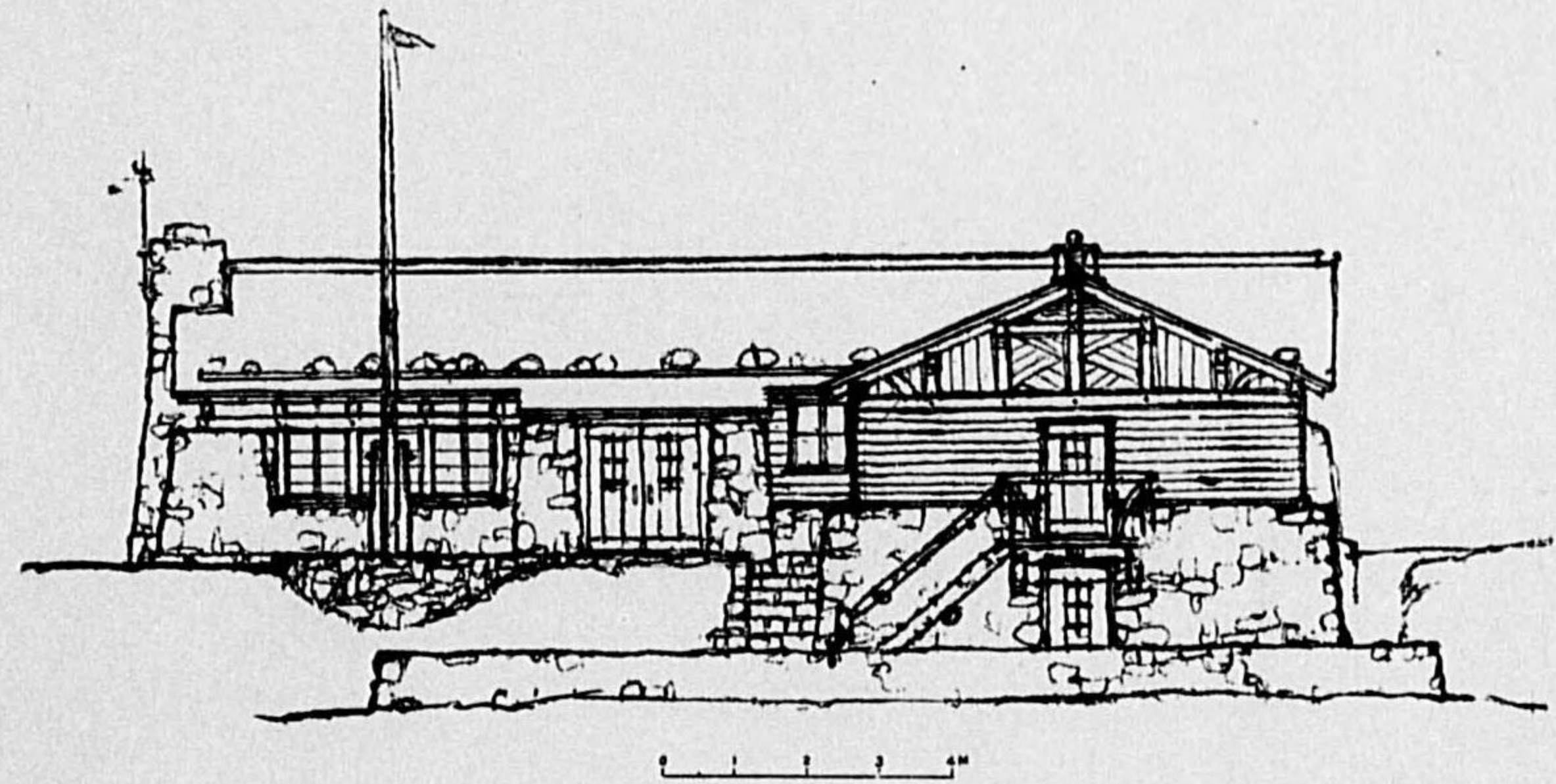
(1 階平面 133.5 平方米)



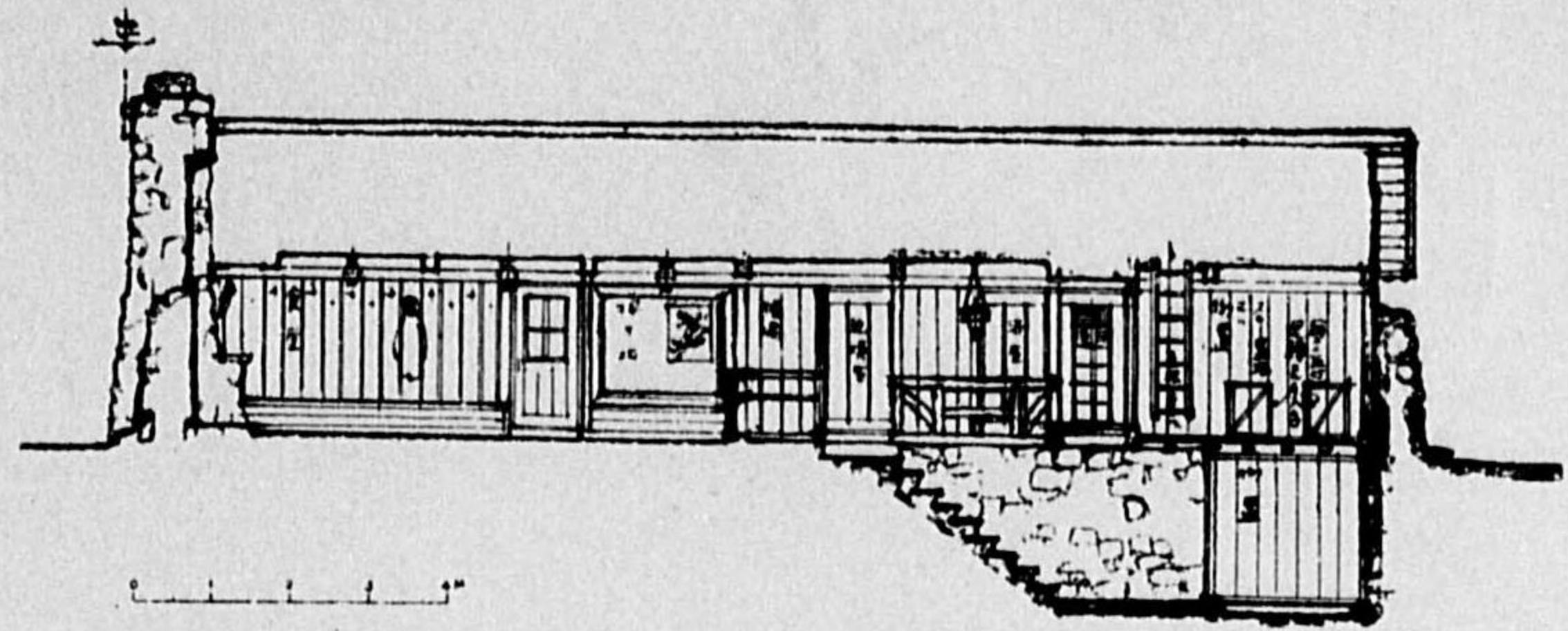
(地 階 54.0 平方米)



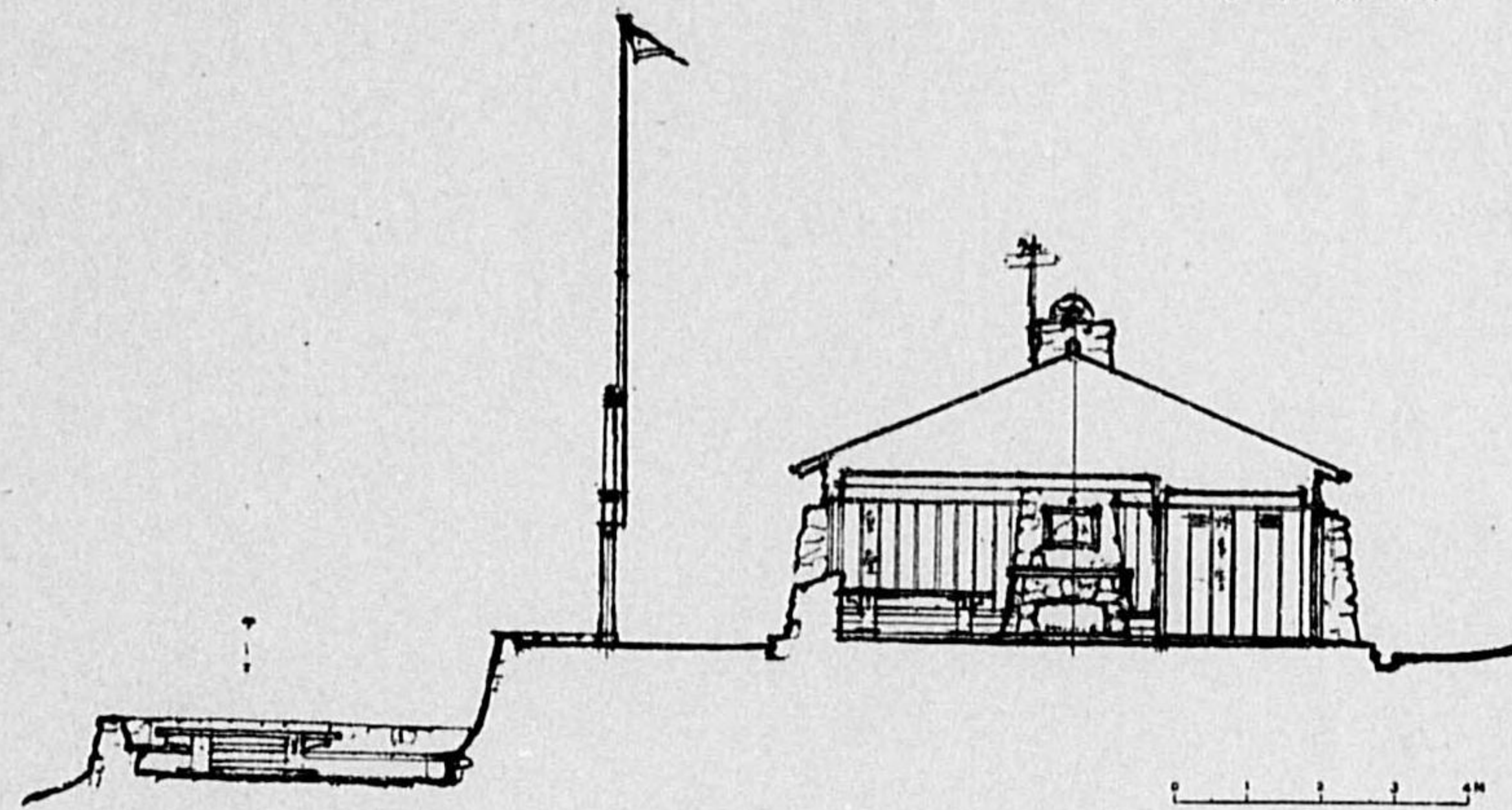
(西 側 面)



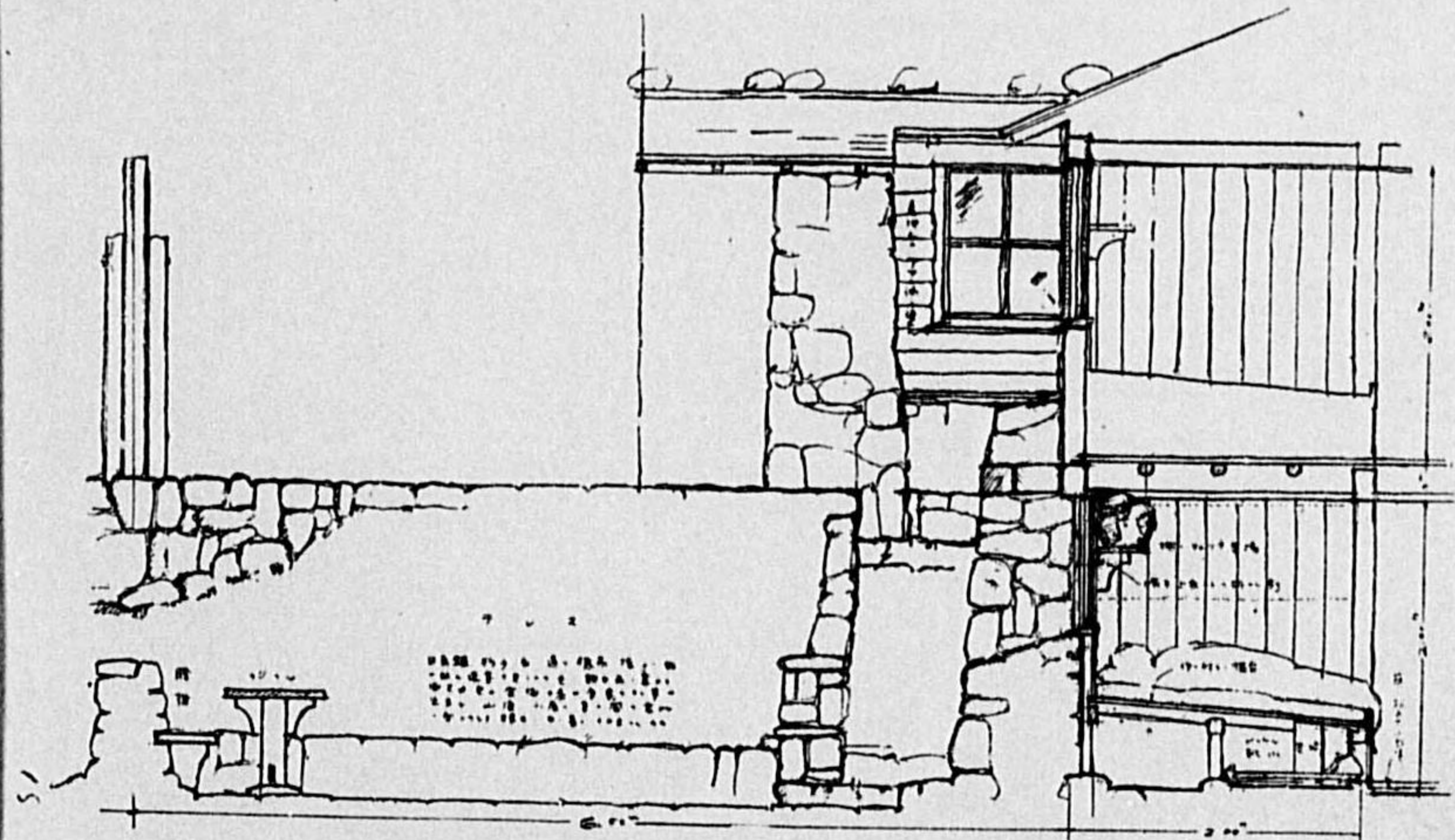
(南 側 面)



(南北斷面)



(東西斷面)



(寢室部分詳細)

設 計 説 明

假 定 建 設 地 「日 本 ア ル プ ス」

概 要

- 位 置** 白馬山、森林限界以上の高地（現存頂上小屋附近を探る）
- 外 観** 信州地方の民家の感じを探り、稍々「スキス」風を加ふ。色は明るき茶褐色と淡黄色を主調とし、冴へたる空と淡黄褐色の石と砂及僅少緑色との調和を図る。
- 材料及構造** 假定せる土地は岩石及砂を主とす。冬期は西北の強風、積雪は2米前後、地下3尺～5尺に亘りて凍結を見る。

故に一部を石積となして、基礎を地表より3尺～5尺に下げ凍害を防ぐと同時に強風並に積雪に對する防備とす。之に要する石材・砂・水は現地であり、セメントのみ搬入を要す。

木造部分は丸太及野角物を主として用ひ、木材の種類は山麓猿倉、四谷方面にて入手し易き物、落葉松・杉・唐檜・檜・栗等、場所により自由に使用す。又運搬に便なる爲に柱、梁其他總て短小にして輕き物を用ひ得る様に設計せり。

小屋は眞東小屋とす。間仕切は板張りとし、屋根は柿葺とす。上に棧を渡して石を載せて置く。運搬にも樂で、又修繕を手輕く然も相當に屋根葺材としての使命を完ふするが爲である。

- 設 備** 山小屋は「満員につきお断り申す」と云ふ事は許されない。尙又、疲れて辿り着くのであるから、横になれば熟睡出来る故に、必要に應じては食堂にも、亦寢室内の通路にも補助寢臺を持ち出す事もある。本設計に於ては1人の占むる場所を長さ2米幅50釐としてある。上寢室は其の通路を出来る丈け1ヶ所に集めて非常時の際に有利にしてある。

白馬山頂小屋は、冬期の登山は現在では未だ餘り多くない。其の上相當の練達之士でなければ此の小屋を利用出来ない。併し僅かではあるが其の人々の爲に冬は南端の階段より出入出来る様に設計した。

尙便所の設備を良くして同一家屋内に取り入れ、又帳場と賣店とを一緒にして管理人室と連絡したのも小屋を利用する上に於て好都合であると考えられる。更に「テレス」として小屋の附近に約50平方メートルの廣場を設けたるは、夏期之を屋外の食堂として又談話室として愛用する爲である。

本設計に於ける建築面積は次の通りである。

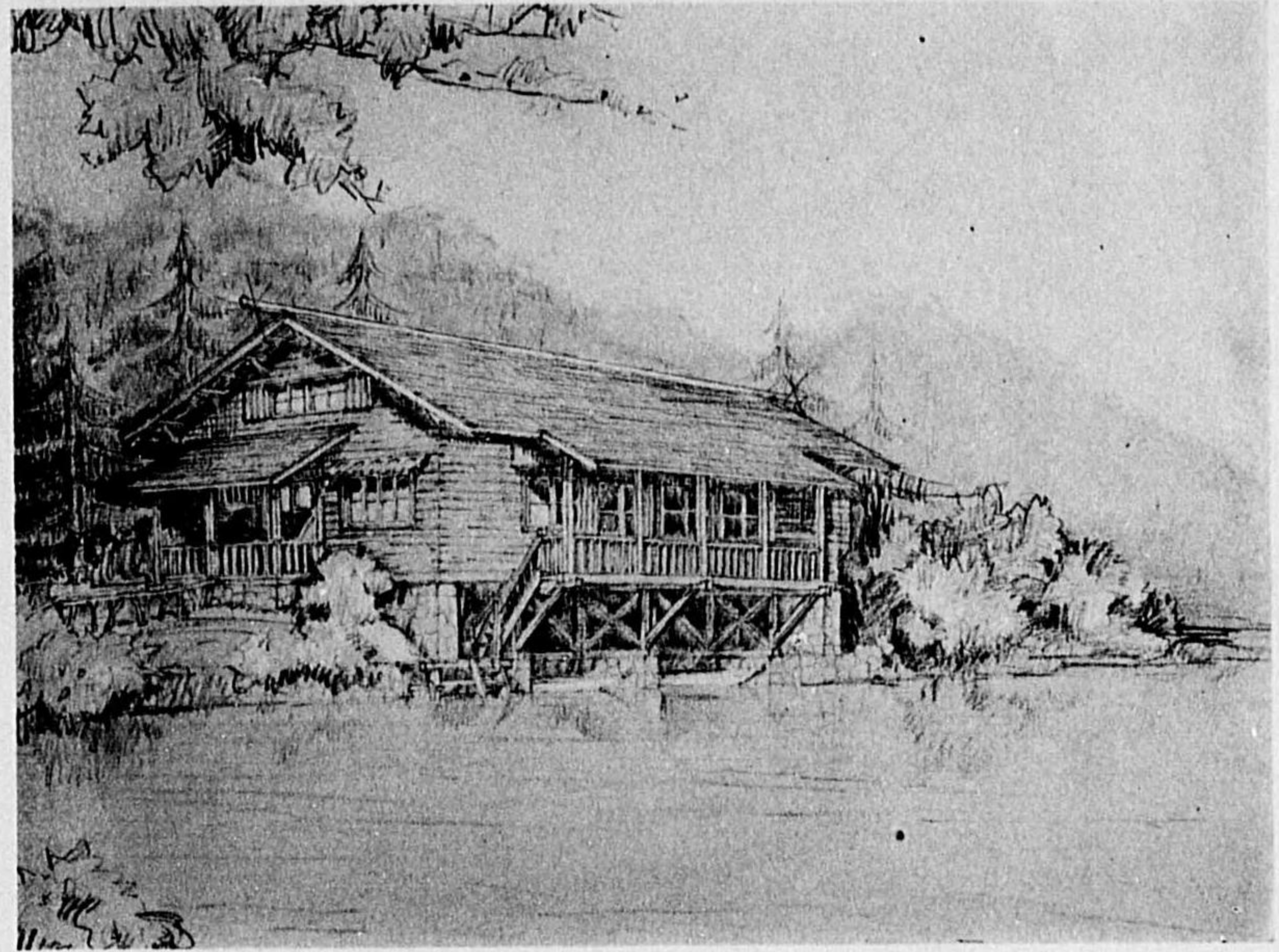
1 階	133.5 平方米
地階	54.0 "
計	187.5 "

他にテレス約50.0 平方米

建築費は延1 平方メートルに付約12 圓程度、他に運搬其他の雜費として 1,000 圓程度計約 3,300 圓

- 附 記** 山上にては運搬の都合上、燃料は薪と木炭とを使用するものとして煖房にも此の兩者を併用する設計である。

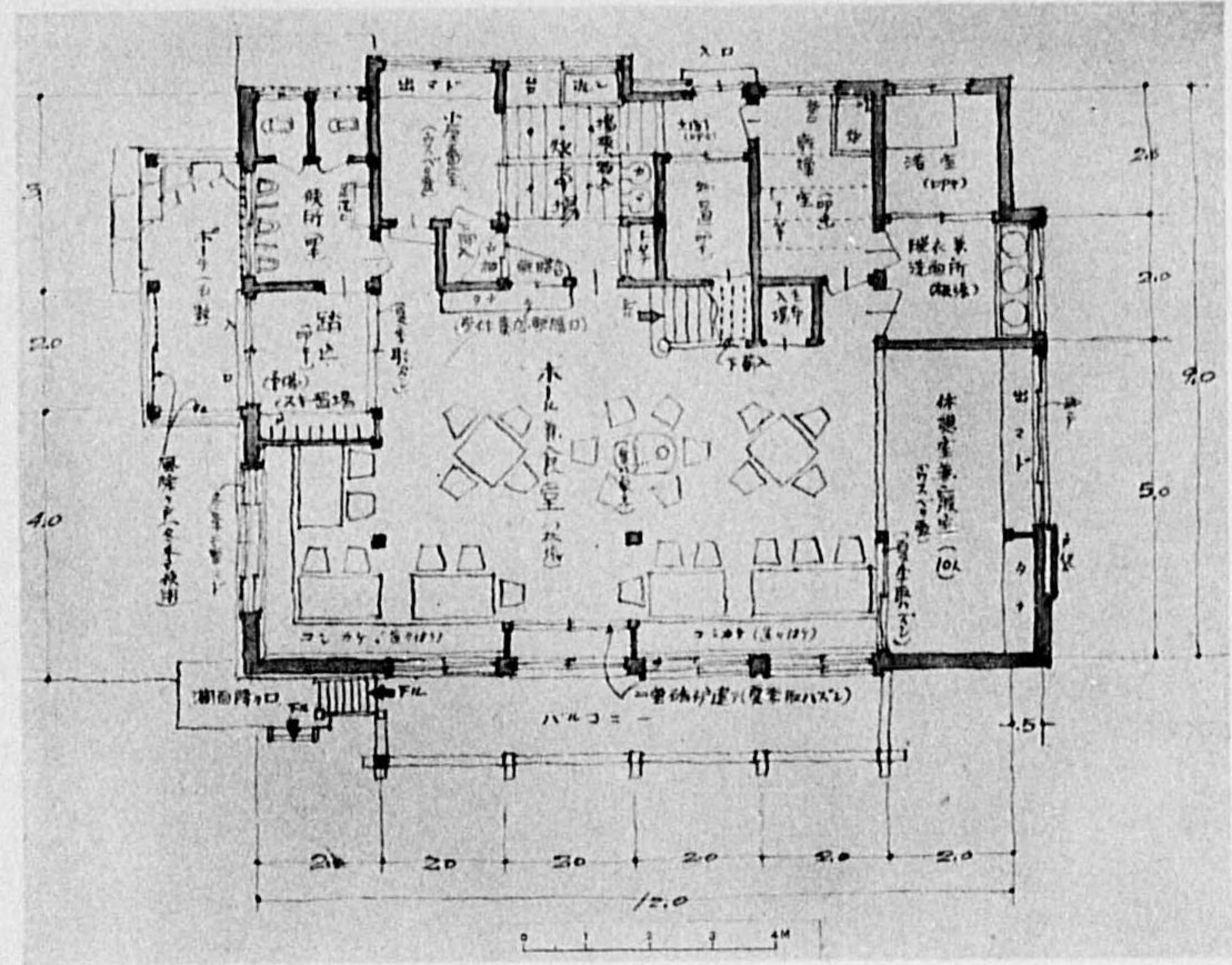
收容人員 地階 32人 1 階 (1) 4人 (2) 8人 (3) 12人 計 56人



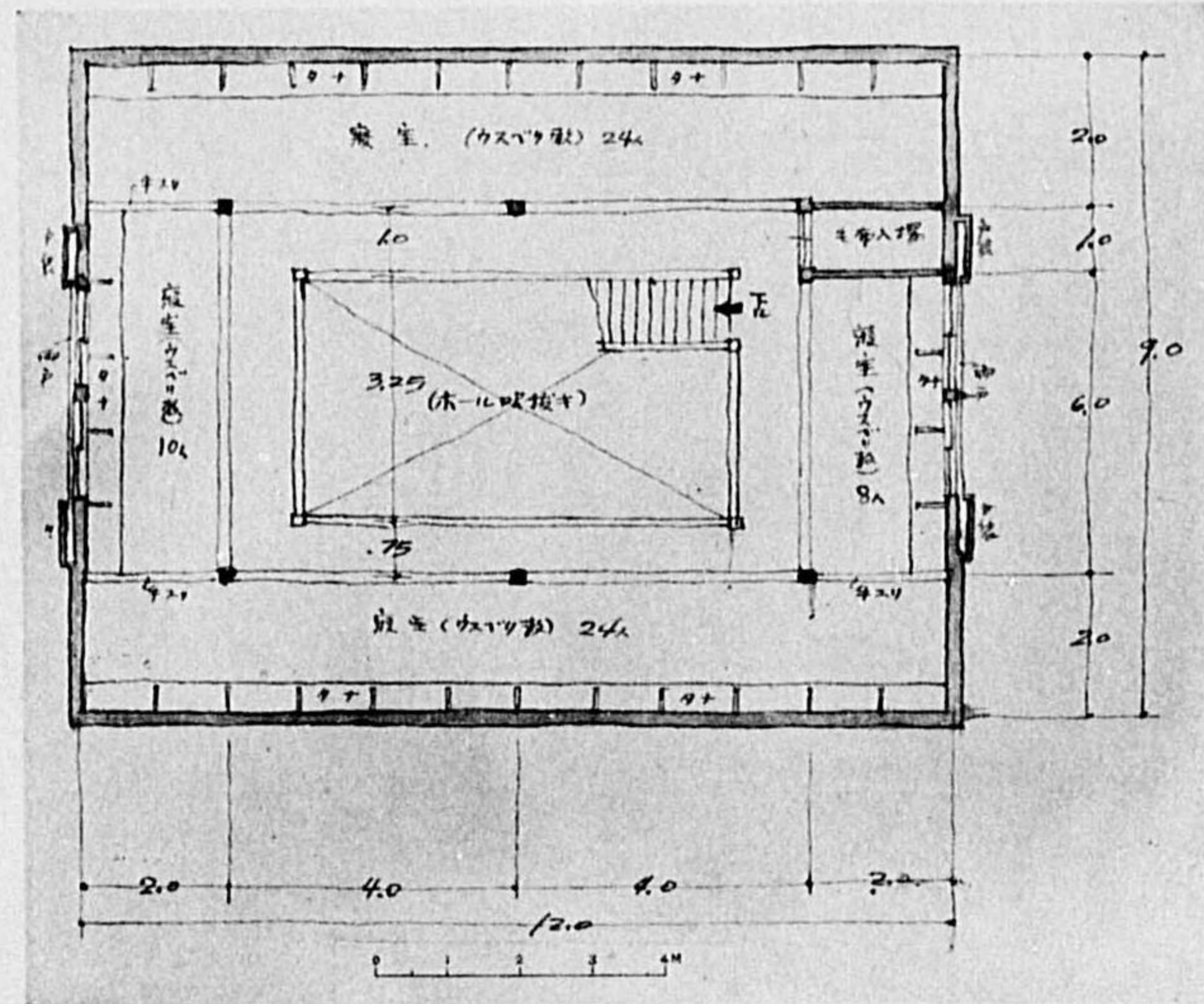
(透 視 圖)

二 等 一 席

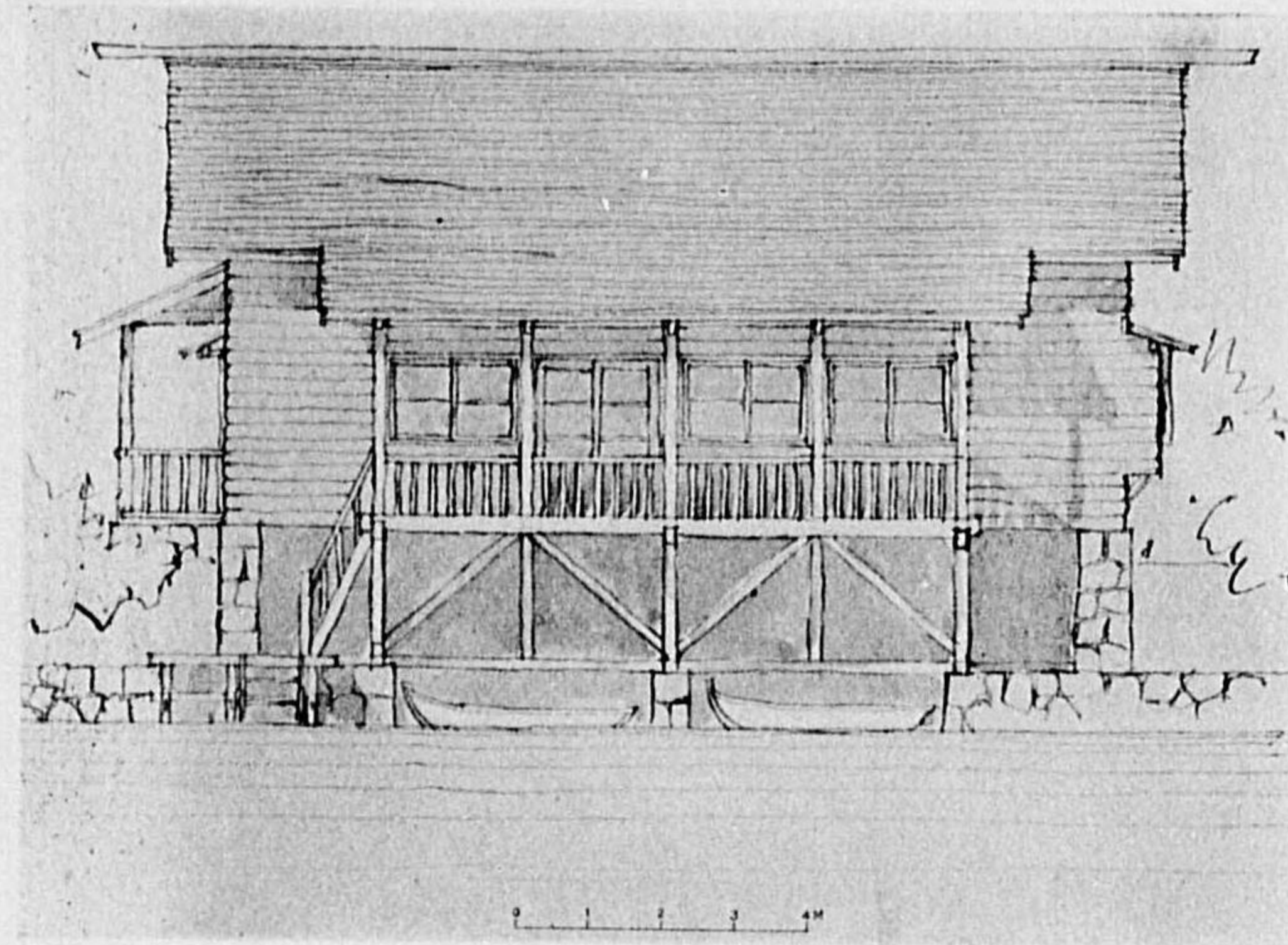
相 澤 珠 壺 君 作



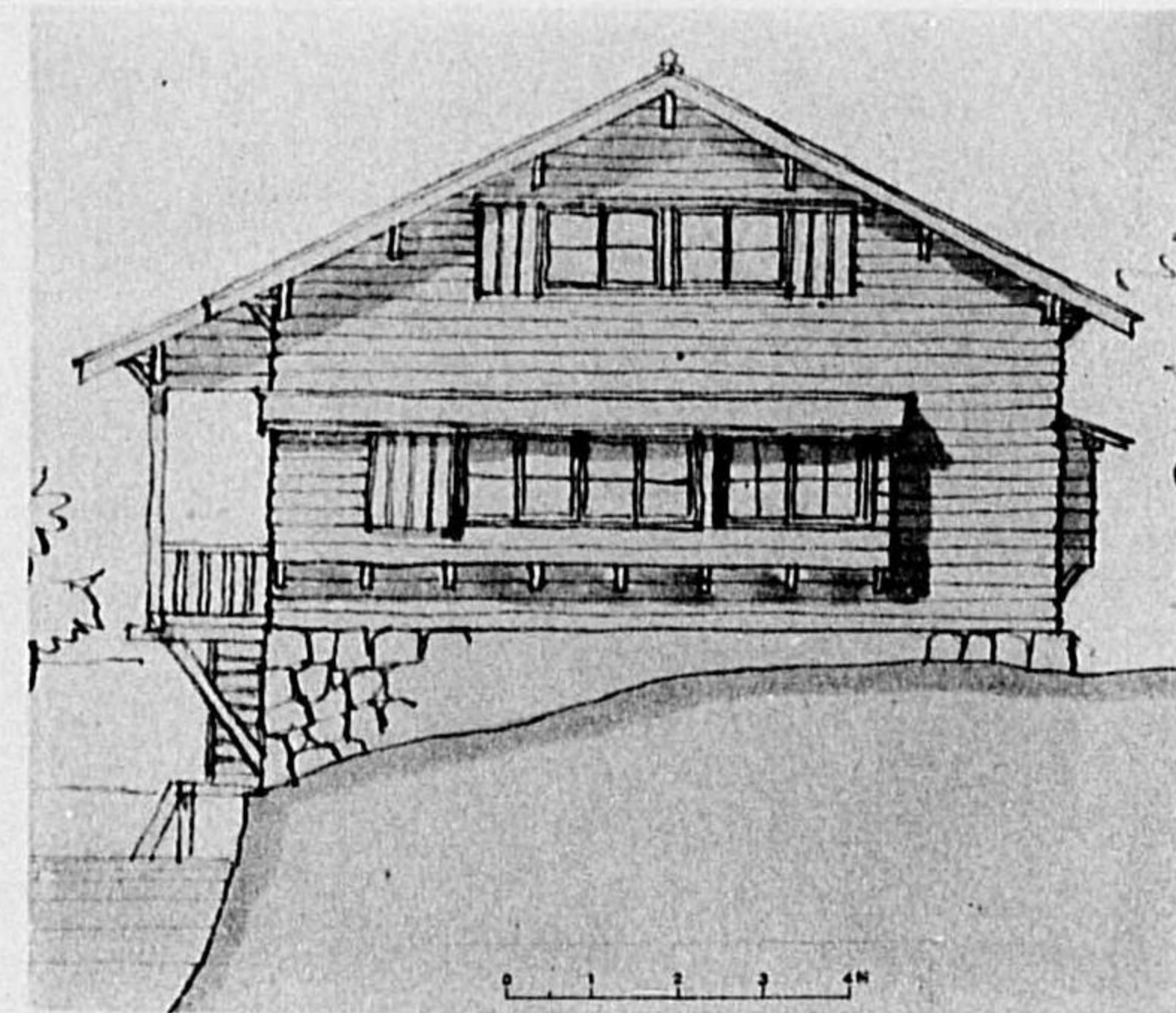
(1階平面)



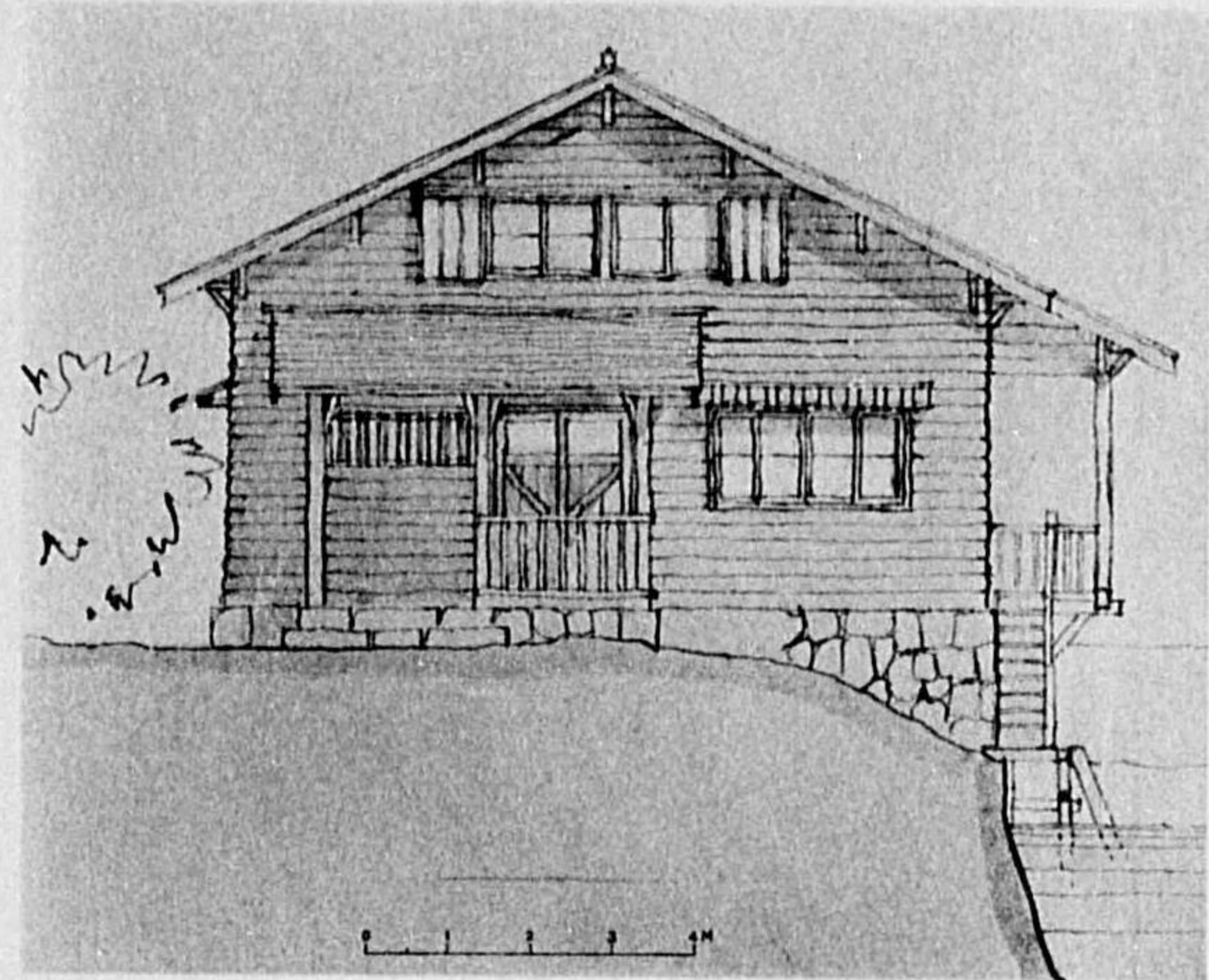
(2階平面)



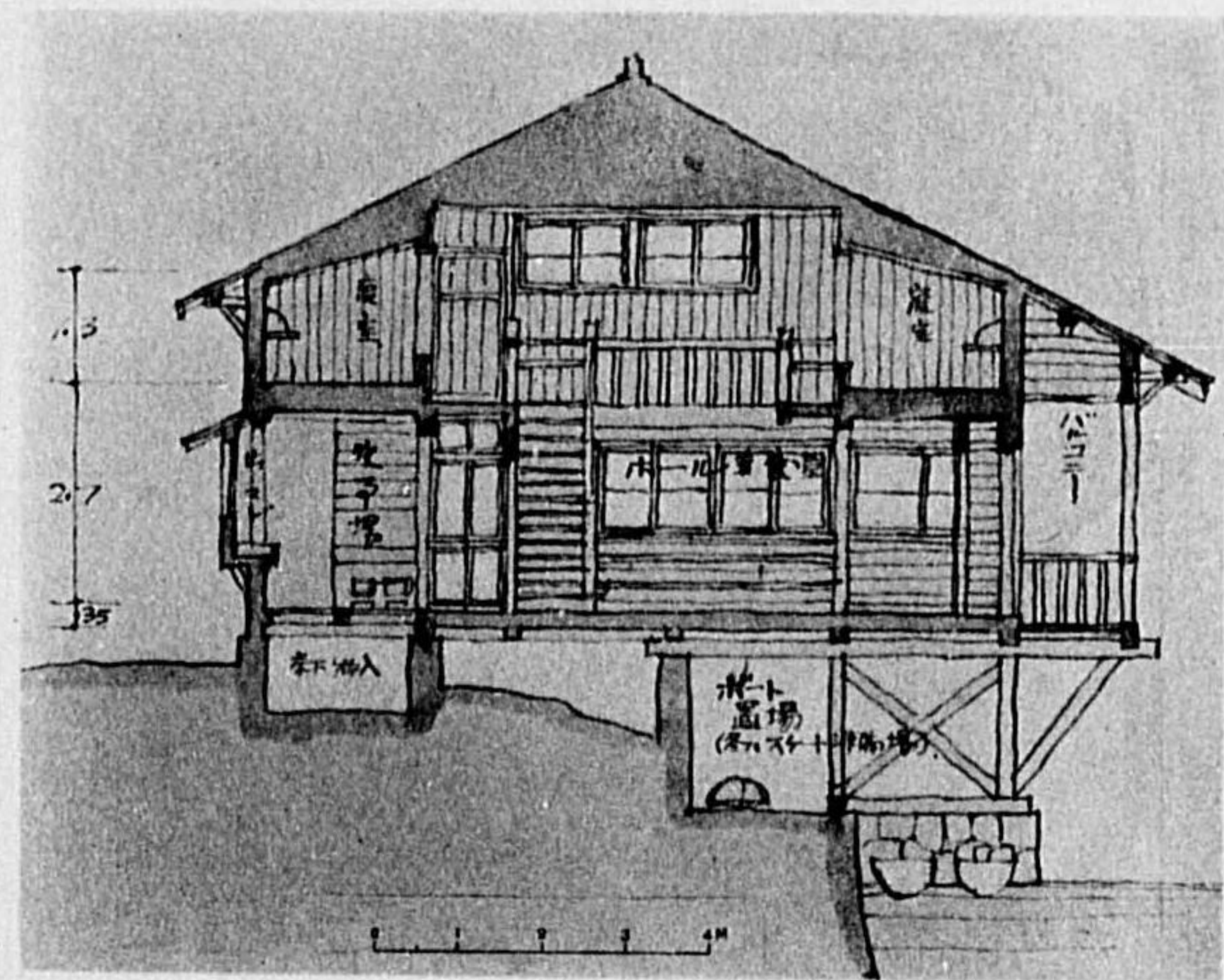
(西南側面)



(南東側面)



(北西側面)



(横断面)

設 計 説 明

假 定 建 設 地 「十 和 田」湖 畔

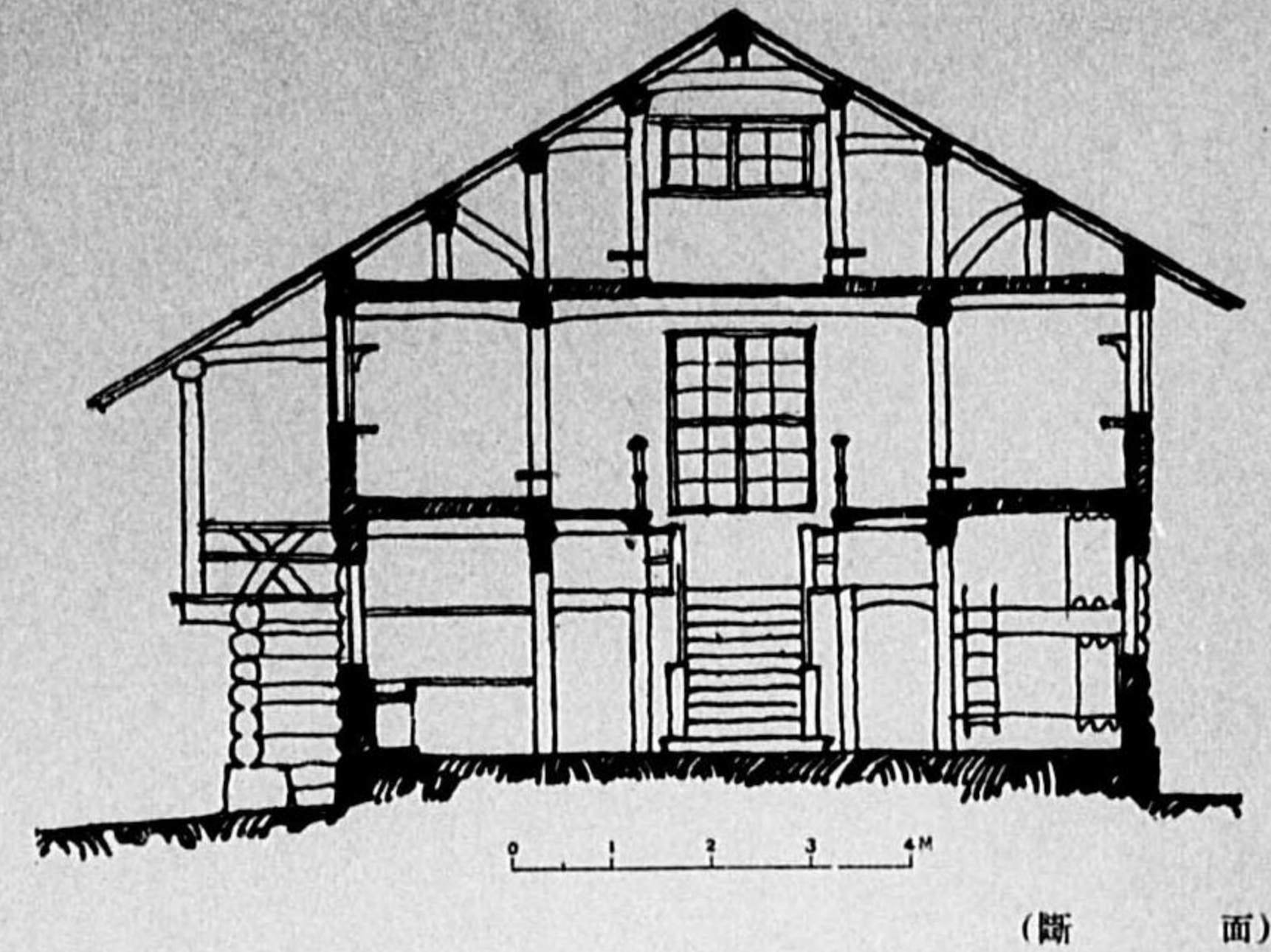
概 要

位 置 十和田湖畔の探勝に適當の地帯を選び、夏のボート、冬のスケート等も可能の様、且つ附近の景勝に沿ふ様考案せり。

建 築 面 積 及 收 容 人 員	1. 建築面積	
	1 階	108.0 平方米
	2 階	78.5 "
	計	186.5 "
2. 收容人員		
1 階	10人	
2 階	66人	
計	76人	

構 造 其 他	
1. 基 礎	附近より産する石材を用ひ、建物腰積ポーチ、石段等乱積とす。
2. 壁	外壁は大壁造り、野地胴縁打、木摺打ちの上、1號ルーフィングを張り其の上に敷目板敷き背板(附近産樹木)横板打ちとす。 内壁は横羽目、縦羽目等。
3. 床	踏込・便所・物置・浴室・乾燥室はコンクリート叩き、ホール床及炊事室・小屋番室・脱衣室・寢室等は木造板張り床、一部薄縁敷揚板とす。寢室床内部は乾草類を填充し、保温の用に供せしむ。
4. 天 井	ホール・寢室等は棹縁板天井とし、中2階部分1階天井は2階根太下に打上板打ちとす。バルコニー・ポーチ等は天井なし。
5. 屋 根	小屋梁は松丸太を用ひ、檼は約0.33米間に渡し、野地板割相決り張り下地1號ルーフィングを敷き、スレート葺とす。棟木飾り、出窓庇等は銅板葺、普通窓は板庇とす。
6. 建 具	外部出入口窓は特に引違ひ引戸構造となし、必要の箇所は雨戸或は硝子戸二重建てとす。内部は出来る丈け開放的に扱ひ、スクリーン等の建具も夏季は取外し得るものとす。
7. 其 他	便所は溜樹コンクリート造にして分離せる汚水は適當の位置に溜樹を設け、之れに導くものとす。

欠



設計説明

假定建設地「日本アルプス」白馬岳麓森林地帯に建つ

概要

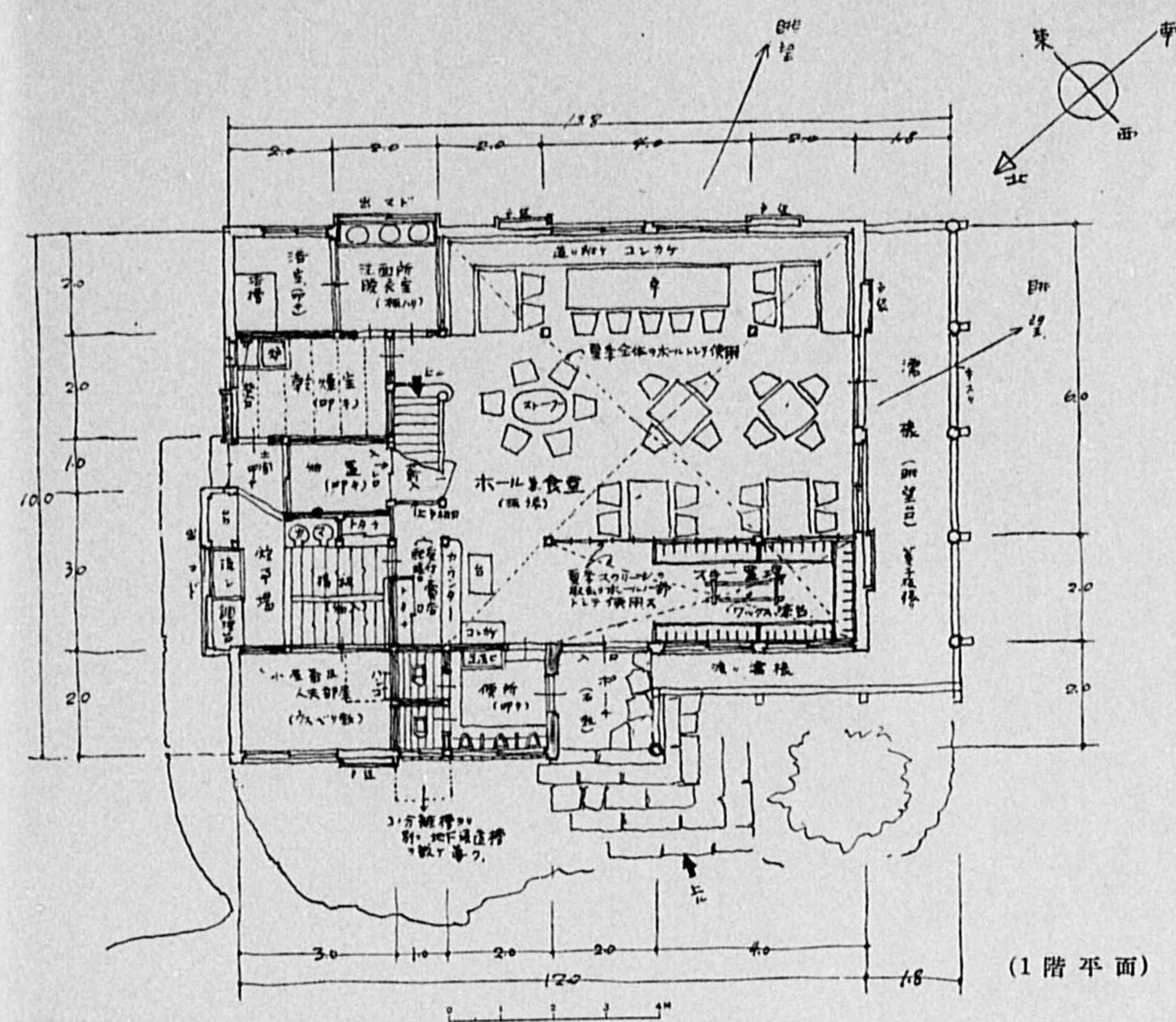
- 構造** 木骨大壁式の構造とし、屋根は日本小屋組とす。
- 外壁** 1階は皮付丸太を井籠組にす。
2階は化粧材を見せ白モルタル塗りとす。
- 内壁** 玄関及ホール食堂廻りは春板張りとす。
寢室其他の部屋は板張りとし防寒の爲、板の下に新聞紙を豫め貼り付く。
- 屋根** 亜鉛引鐵板葺とす。
- 窓** 二重窓とし外側は外開き、内側は引違ひ又は上げ下げとす。
- 出入口** 夏季は眺望良き「テレス」より直接ホール及食堂に通ず。
冬季は殆んど1階は雪に没する爲、中2階より出入し直接外氣の吹き込み様玄関を経て「スキー」置場に入る。
- 寢室** 1階は上下二段の寢臺式とし、2・3階は區劃を廢して、登山客の多少に應じ、約100名までは宿泊出来る様にする。
- 暖房** ホール兼食堂の中央部に「ガソリントラック」を改造せる薪「ストーブ」を設備す。
各階共吹抜式なる爲、従來の山小屋の如く煙に苦しむ憂なし。
- 採光** 冬季1階が雪に没するも中2階及2階より充分採光し得。
- 其他** 總て實用に重きを置き、なるべく原始的に考案し、構造材自身を裝飾とせり。



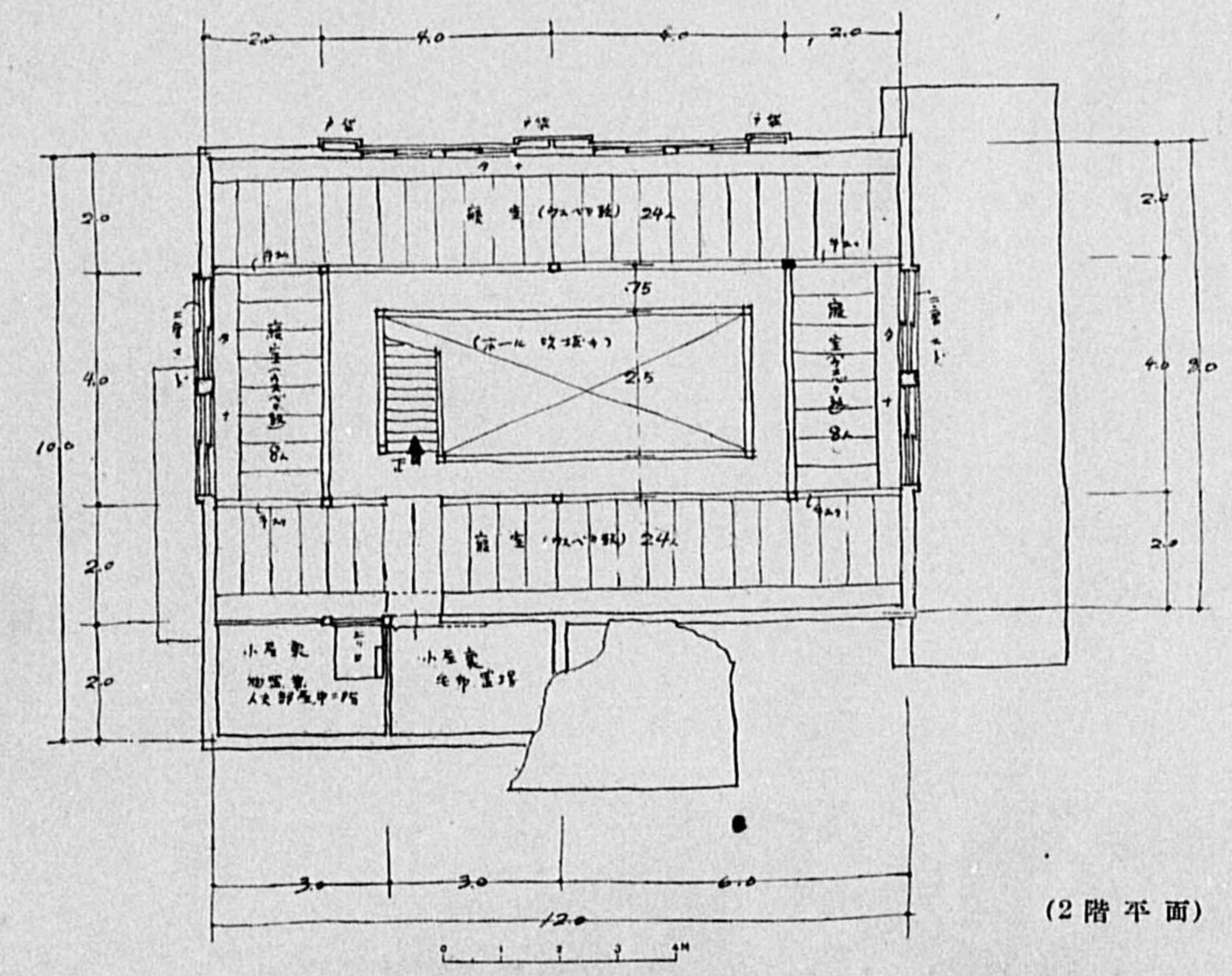
(透視圖)

二等三席

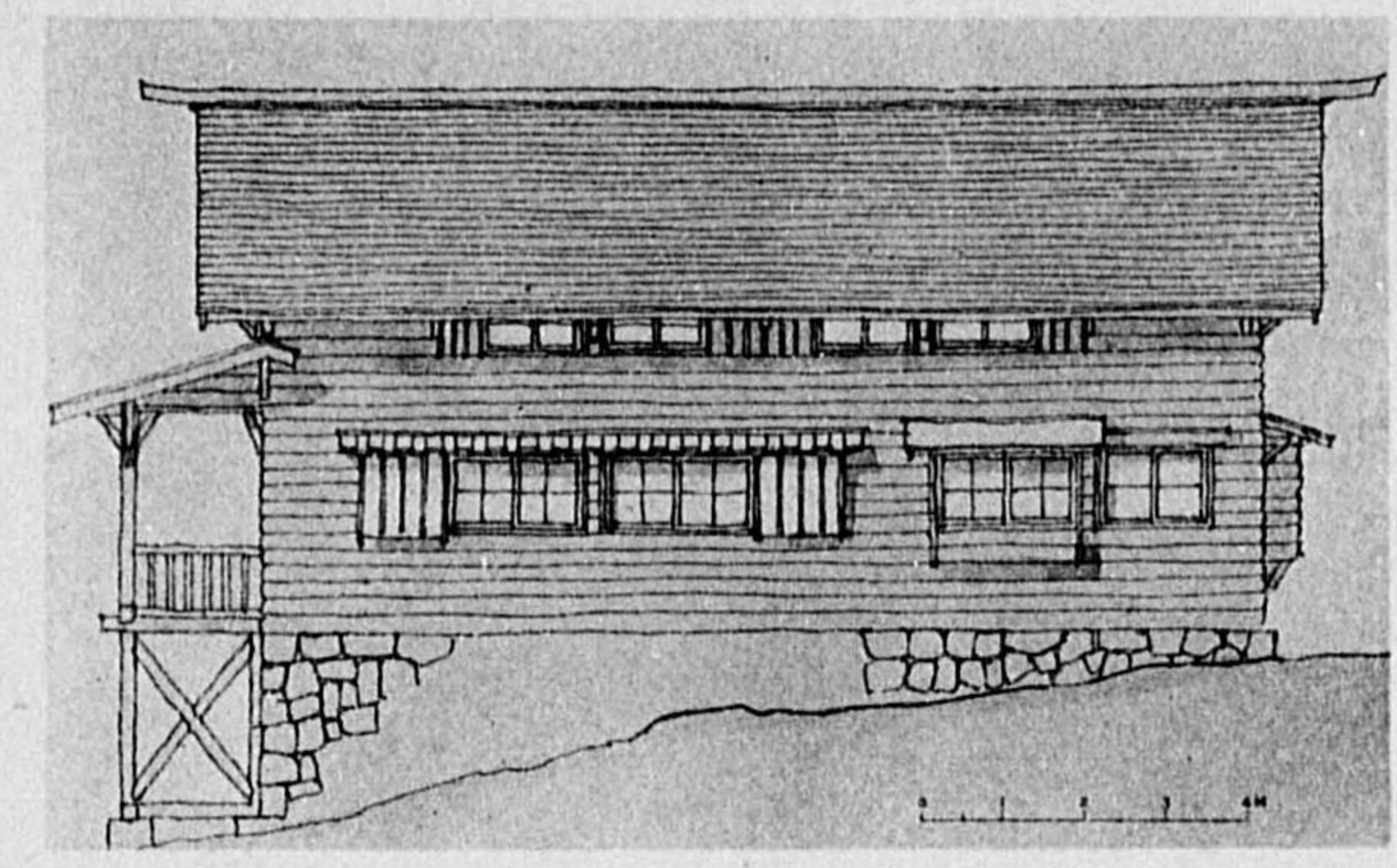
相澤珠壺君作



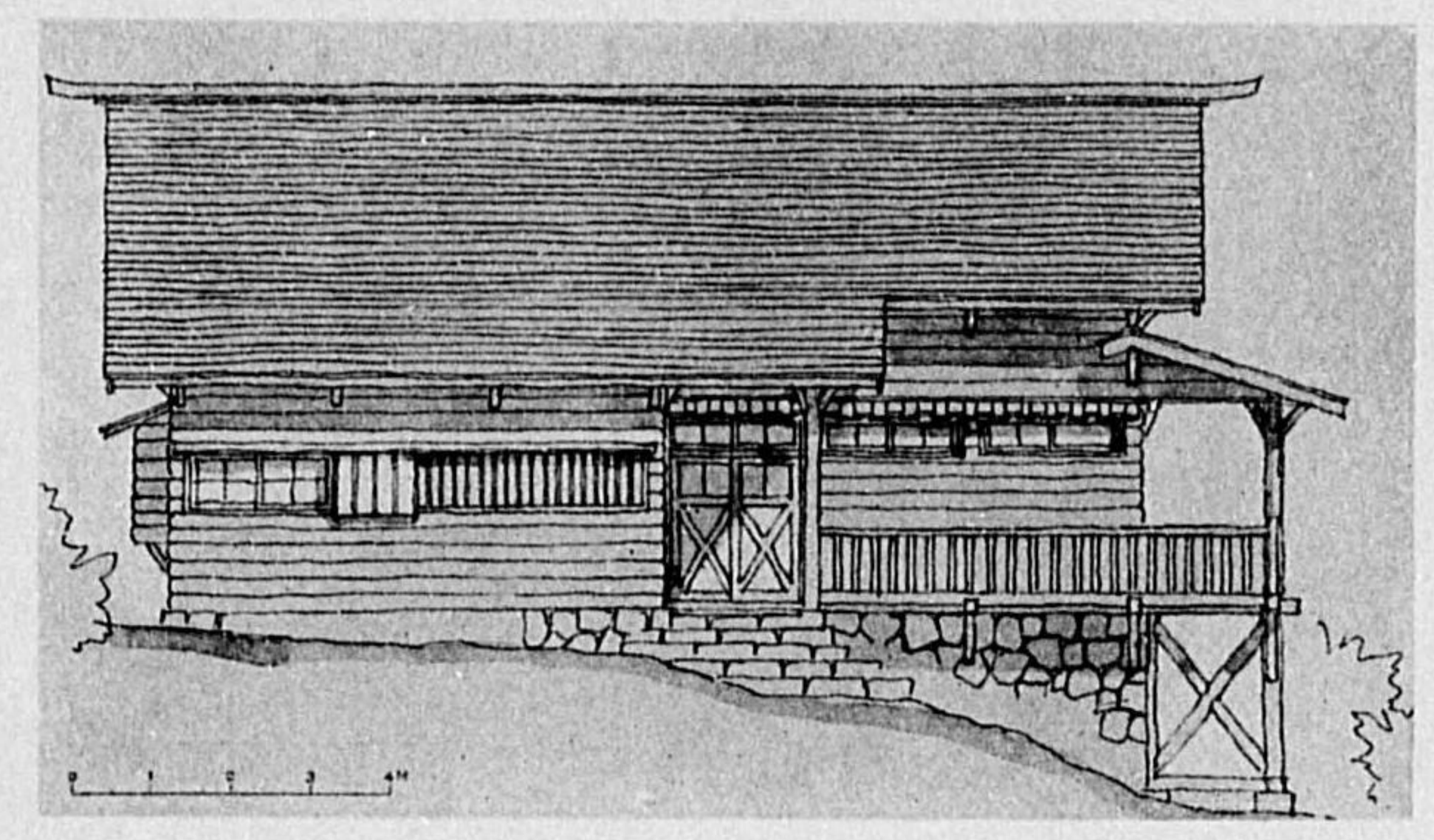
(1階平面)



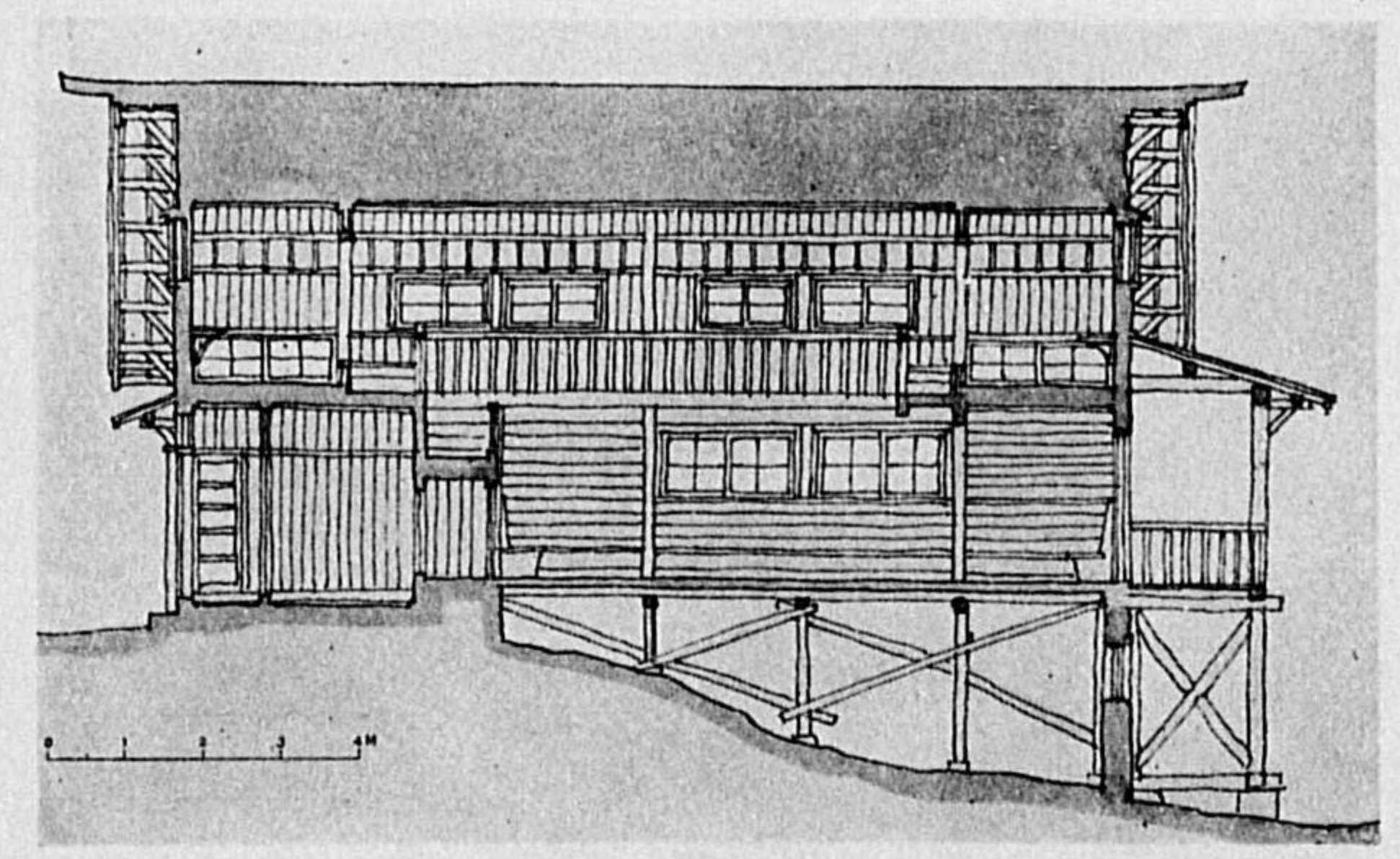
(2階平面)



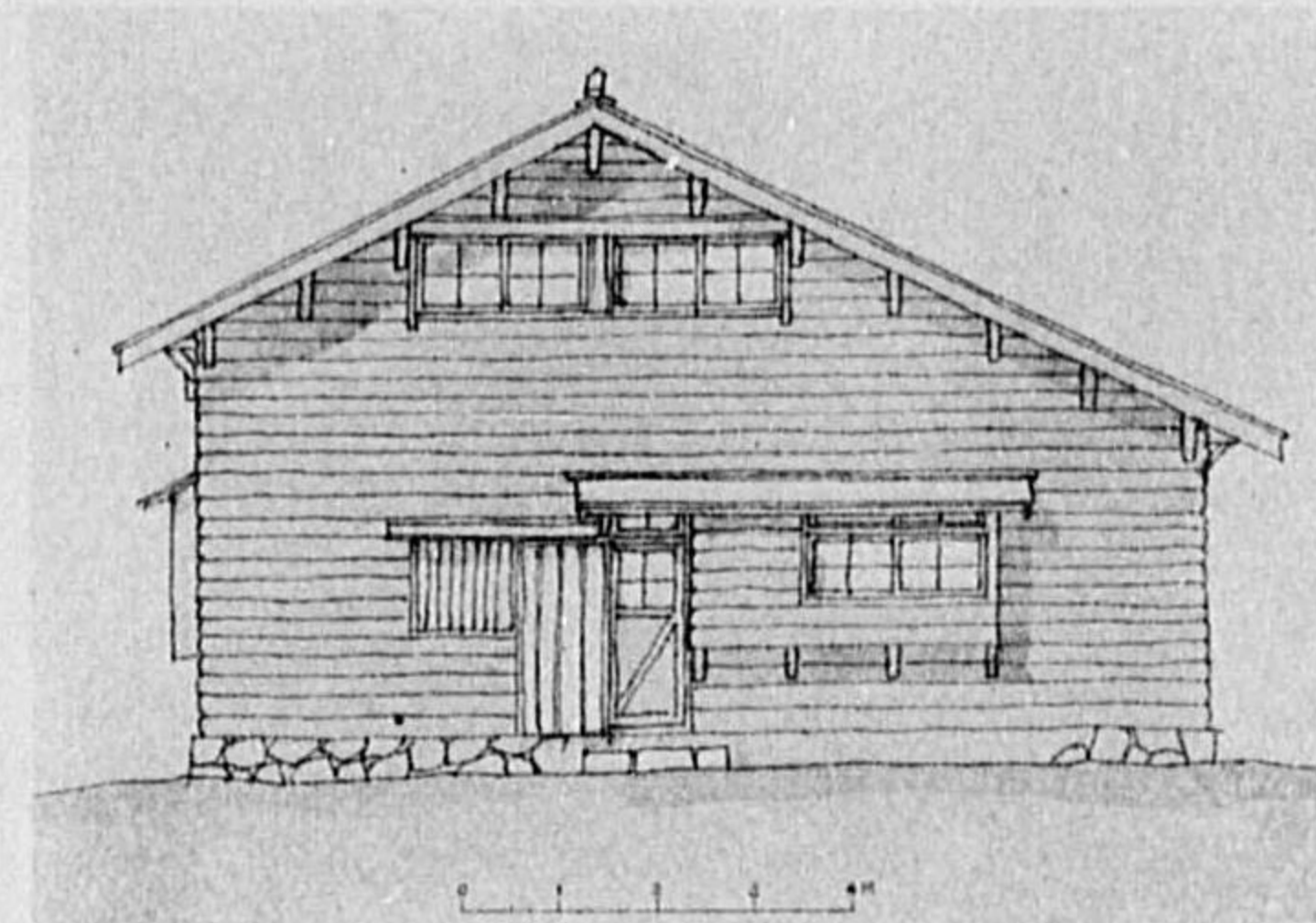
(南東側面)



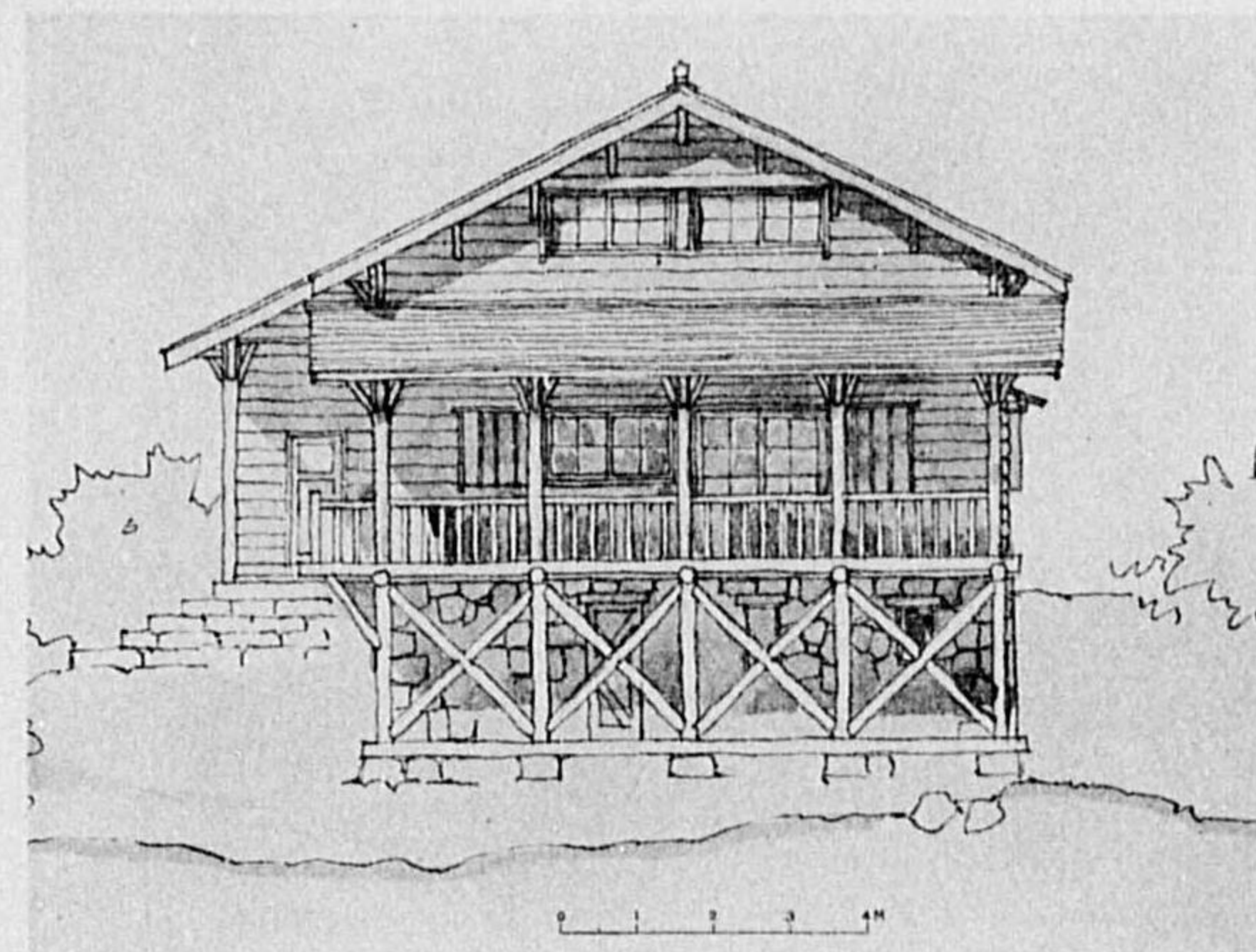
(北西側面)



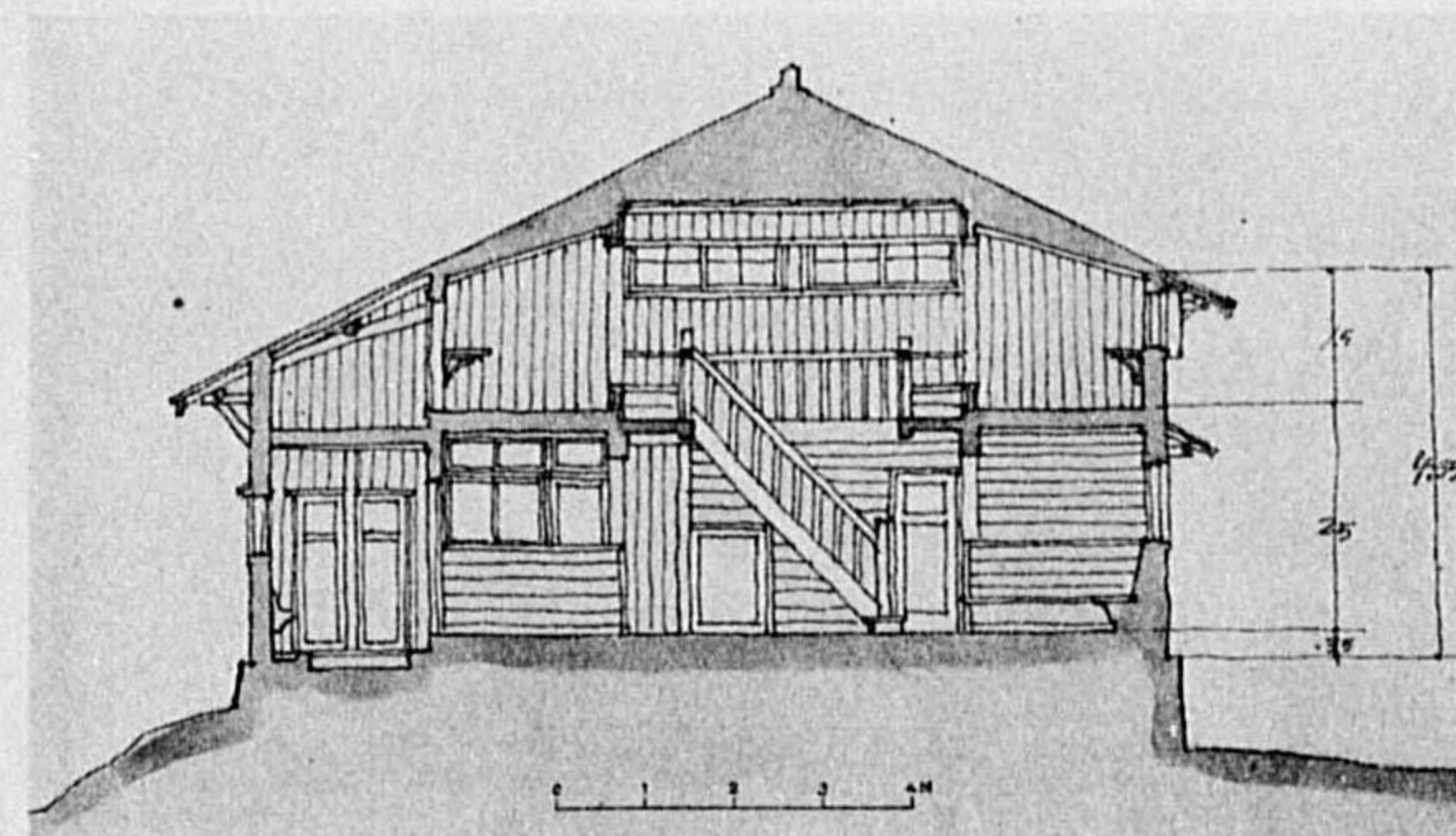
(縦断面)



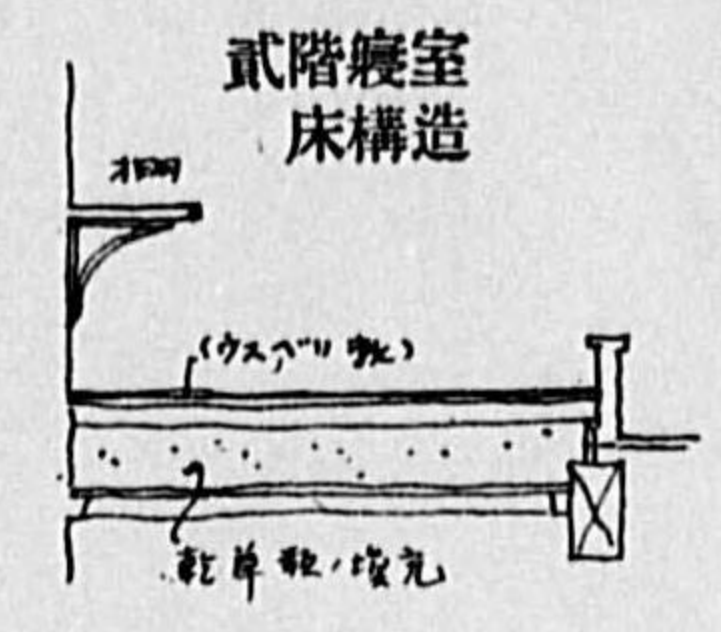
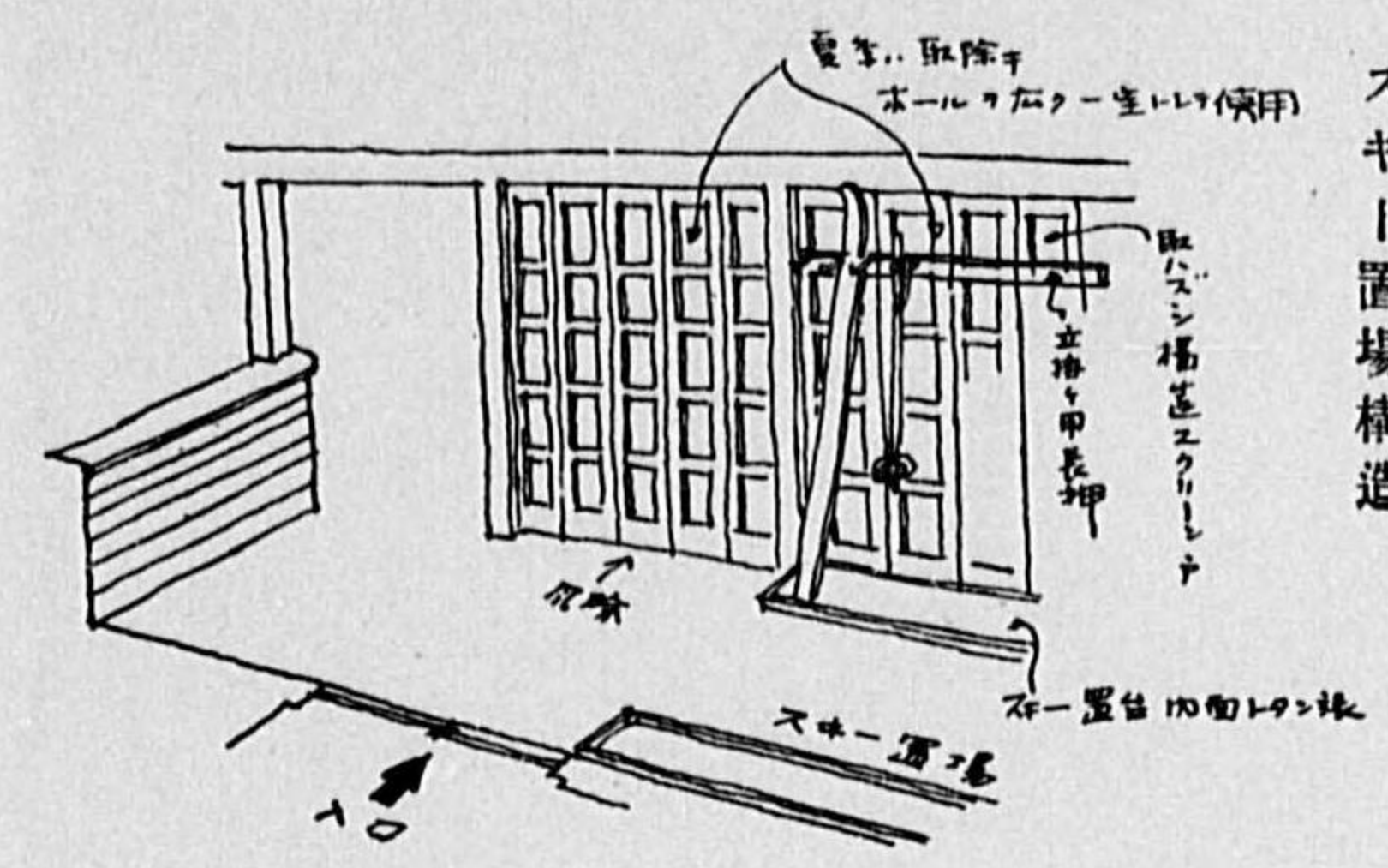
(東北側面)



(西南側面)



(橫斷面)



設計説明

假定建設地 「日本アルプス」 森林地帯

概要

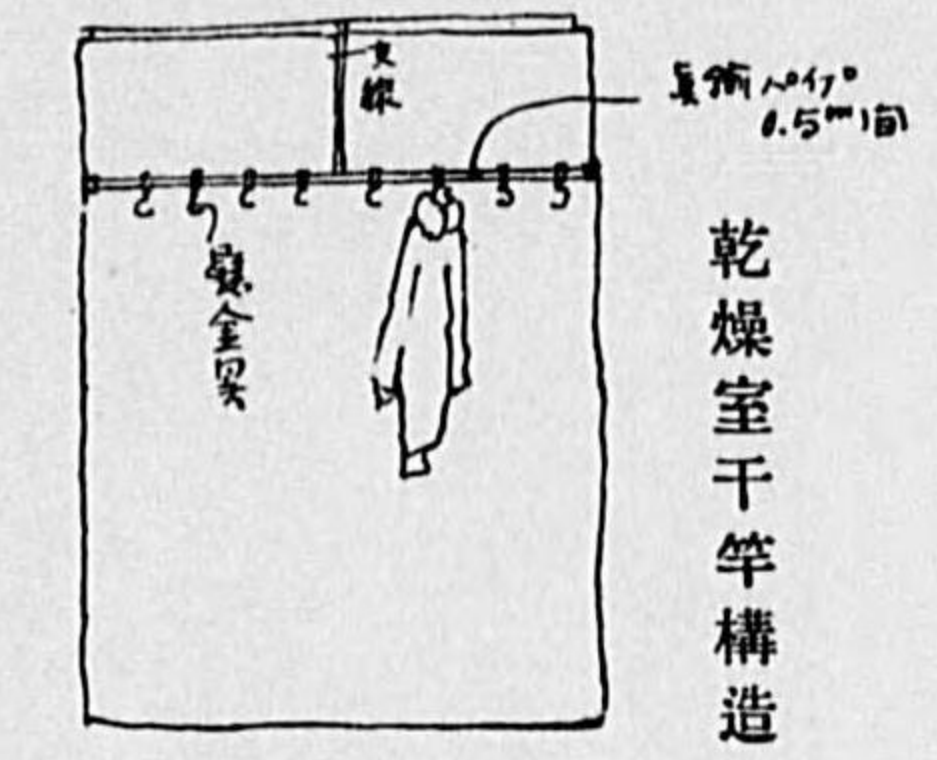
位置 日本アルプス黒部川上流に沿ふ森林地帯に位置を假定し、剣岳・立山等の登山の根據地の意味を想定して着案せり。意匠も出来るだけ大自然に調和する様に工夫したり。

建築面積・収容人員

1. 建築面積	1 階	108.0 平方米
	2 階	80.375 "
	計延面積	188.375 "
2. 収容人員		64人

構 其他

1. 基礎 附近より産出する石材を用ひ、建物腰積ポーチ石段等乱積とす。
2. 外壁 大壁造り、野地は胴縁打の上木摺打ちとなし1號ルーフィングを張り、其上に數目板敷き背板(附近産樹木)横板打ちとす。
3. 内壁 内壁は横羽目及縦羽目打。
4. 床 便所・物置・浴室・乾燥室等はコンクリート叩き、ホール床小屋番室・炊事場・洗面所・寢室等は木造板張り床とし、一部薄縁敷揚板とす。寢室床内部には乾草類の保温材を填充す。
5. 天井 ホール・寢室等は樟縁板天井、中2階下の部分は2階根太下に打上板張りとす。ポーチ・濡縁等は天井なし。
6. 屋根 小屋梁は松丸太を用ひ、母屋1米間、檼0.33米間野地板割相決り張り、下地ルーフィングを敷き、スレート葺とす。出窓庇・棟木飾等は銅板葺とす。普通庇は板庇。
7. 建具 外部出入口・窓は特に引違ひ引戸構造となし、必要箇所には雨戸又は硝子障子二重建てとす。内部は出来るだけ開放的扱ひとなし、スクリーン等は夏場取外し得る構造とす。
8. 其他 便所は溜樹コンクリート造の分離槽より適當の位置に自然浸透槽を造りて之れに導くものとす。
夏場の用水には堅桶により天水桶に導くも可なり。

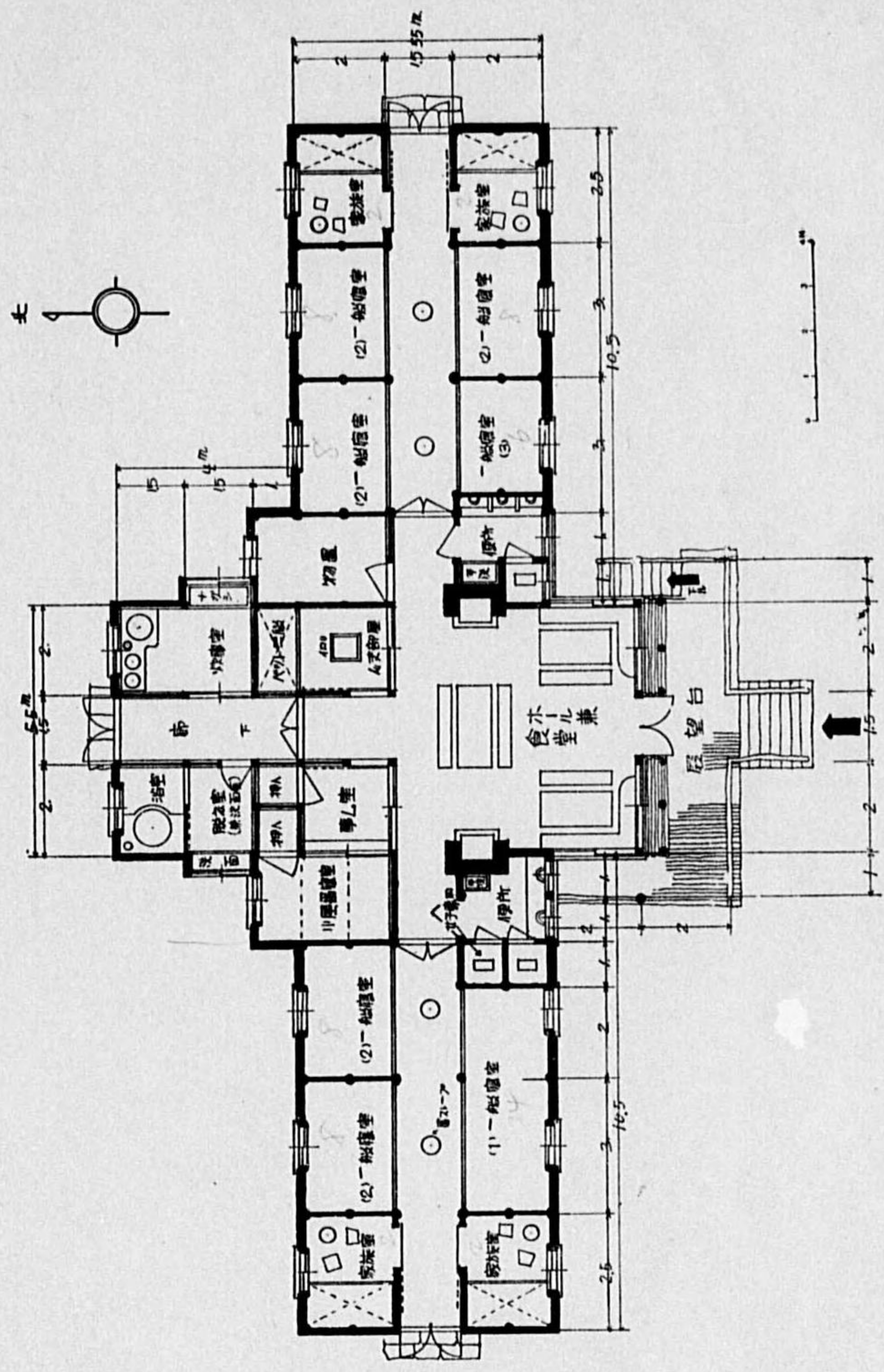
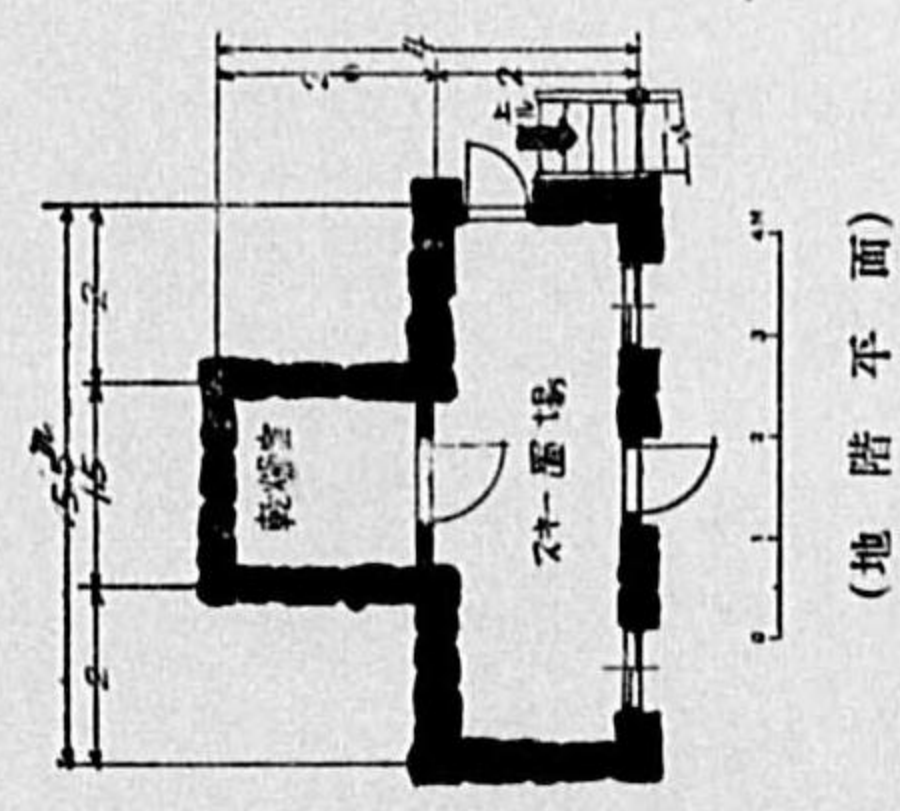




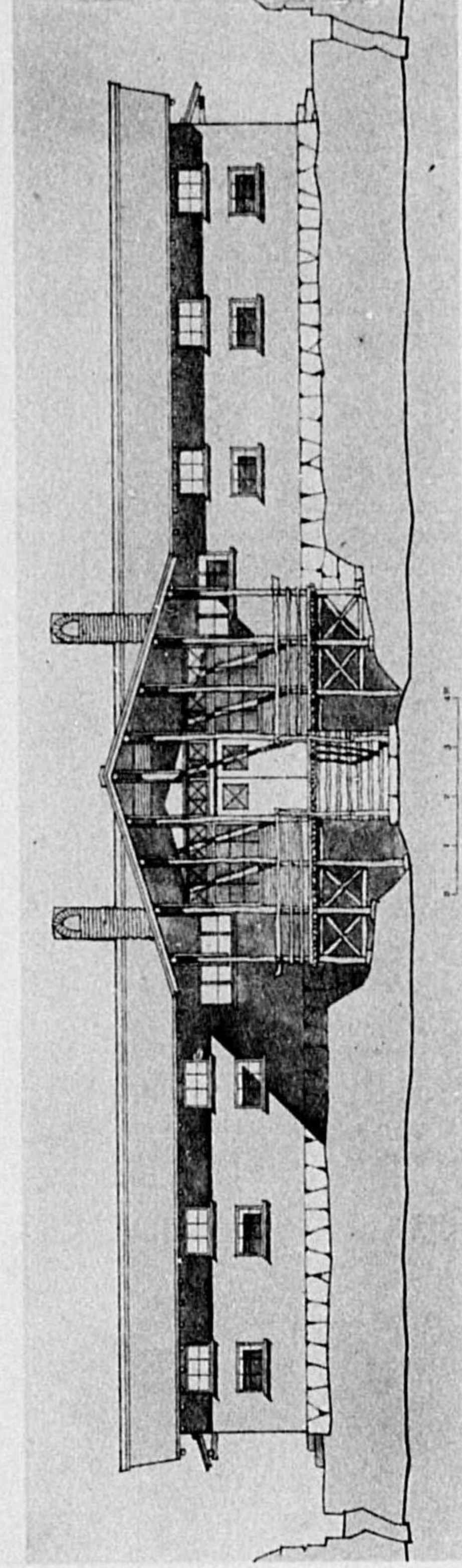
(透視圖)

佳 作

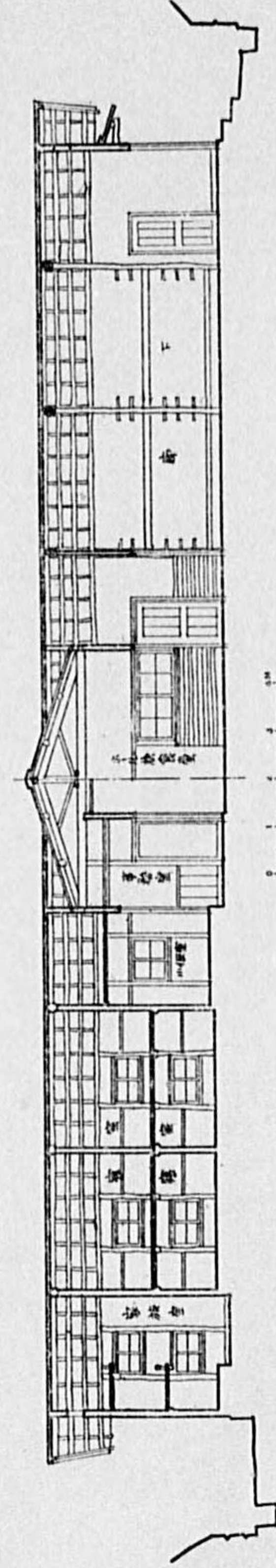
出 隆 雄 君 作



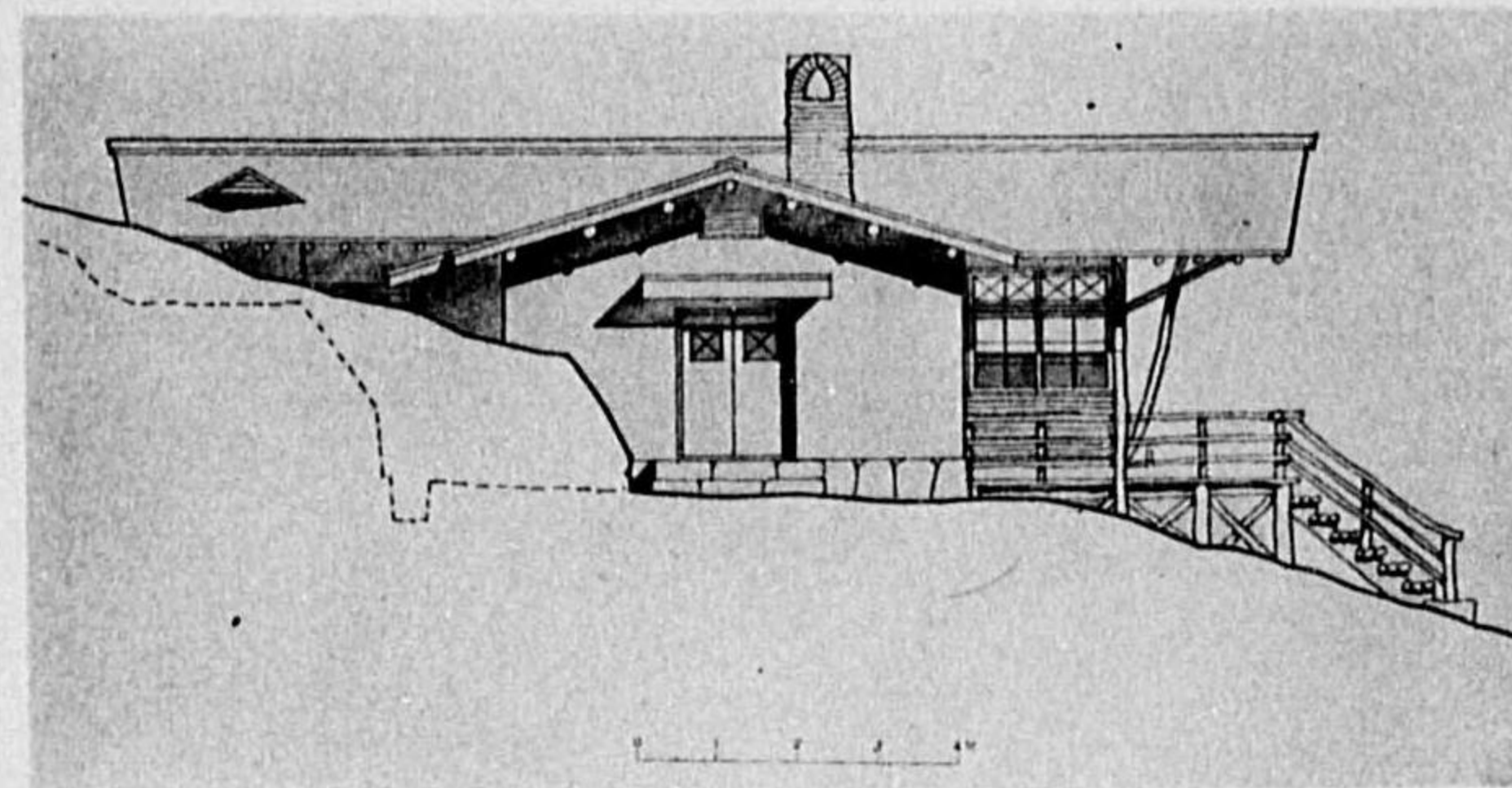
(1階平面)



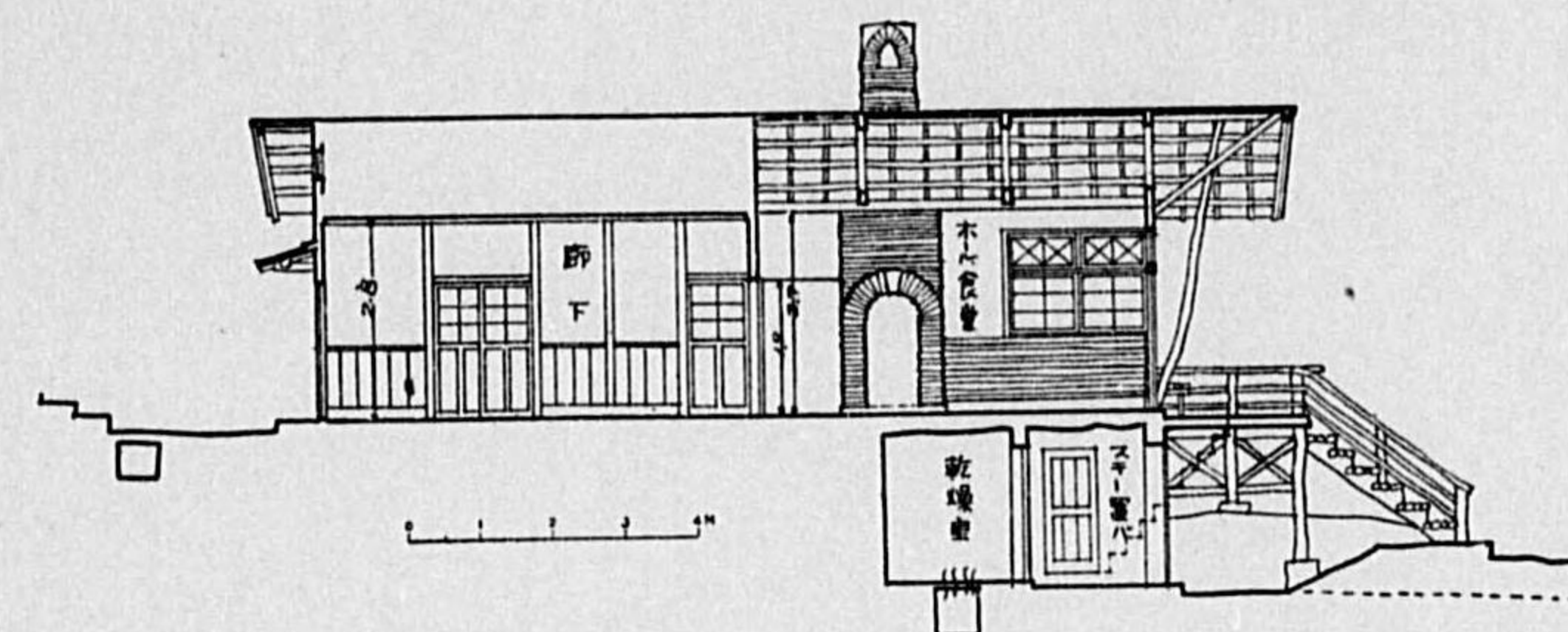
(南側面)



(縦断面)



(西側面)



(横断面)

設計説明

假定建設地 「日本アルプス」 森林地帯の高地

面積 地階 14.00 平方米
1階 182.75 〃
計延面積 196.75 〃

収容人員 68 人

内 譯 家族室 4 室(1室^{上段1人}計2人) 8人
(1) 一般寢室 1 室(1室^{上段7人}計14人) 14人
(2) 一般寢室 5 室(1室^{上段4人}計8人) 40人
(3) 一般寢室 1 室(1室^{上段3人}計6人) 6人

構造其他
設計概要

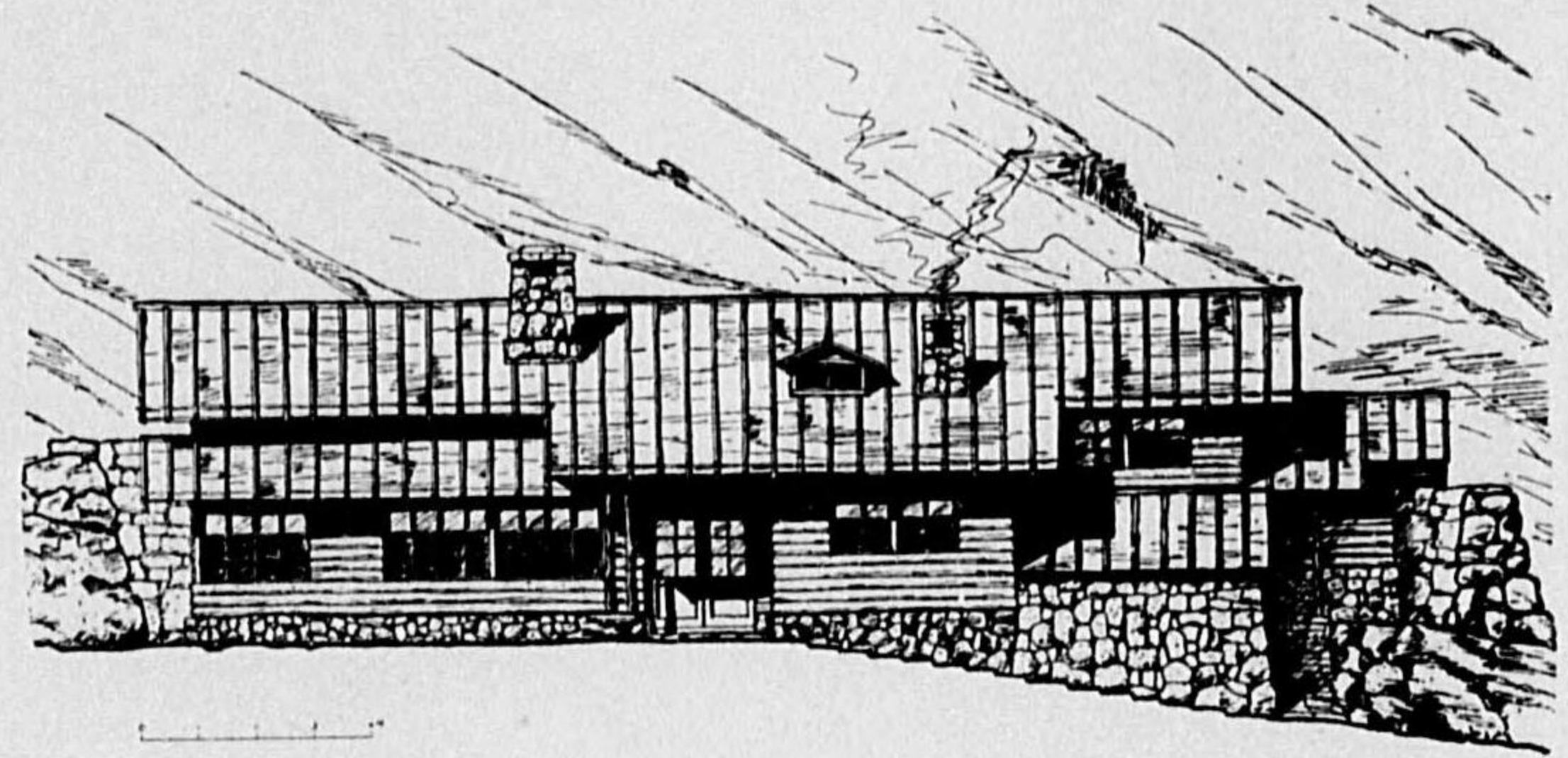
- 敷地は眺望佳き高地の斜面を掘取り南面せしめ、北よりの烈風を防ぐ位置に建築するものとする。
- 構造木造平家建一部地階付。
- 基礎コンクリート造り腰は石積み、又はコンクリート造りとする。
- 壁は外部大壁石灰入り「モルタル」粗面仕上げ、内部は「ホール」兼食堂大壁漆喰塗り、其他は眞壁漆喰塗りとする。
- 屋根「ルーフィング」2枚張りとする。
- 腰、外側、展望臺及内部「ホール」兼食堂は丸太二つ割材を横に打付け、其他は羽目板張り又は巾木仕舞とする。
- 柱は4寸角寢室廻りは凡て末口5寸丸太を使用し、小屋は中央部西洋小屋組、寢室は丸太和式合掌小屋組みとする。
- 窓は寢室外窓を二重とし、内側引違ひ外側は嵌殺しとし、一部外開きとし、其他の室は一重とする。
- 寢臺は乾草を敷き其上に「アンベラ」を敷き込むものとする。
- 煖房は「ストーブ」にて燃料は薪炭、便所は汲取式とする。



(透視圖)

佳 作

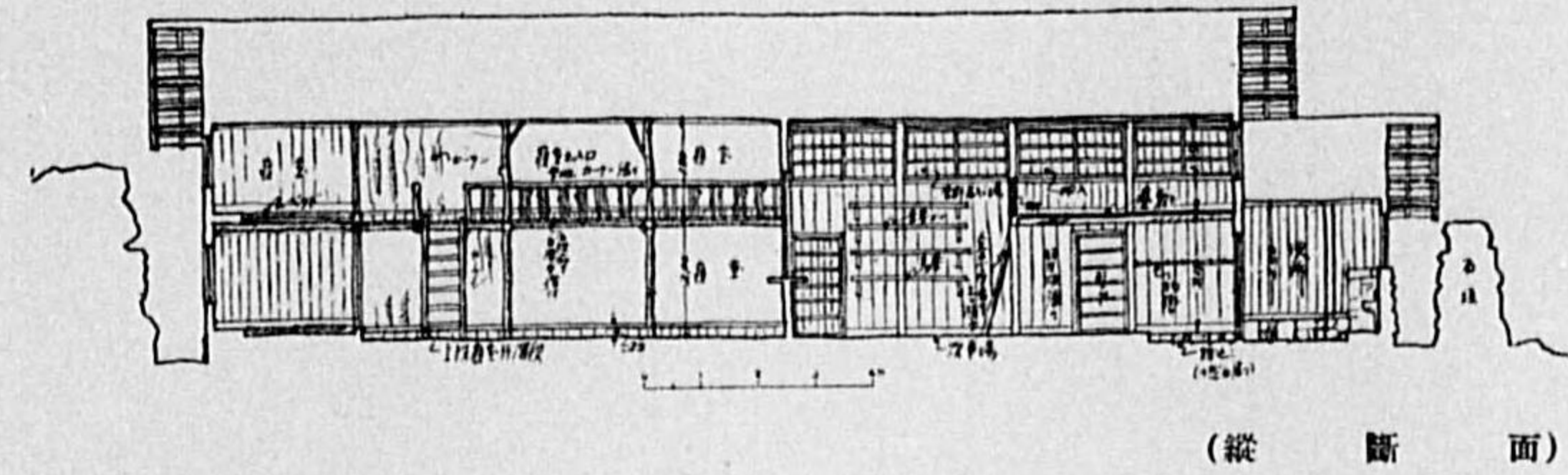
小 栗 武 夫 君 作



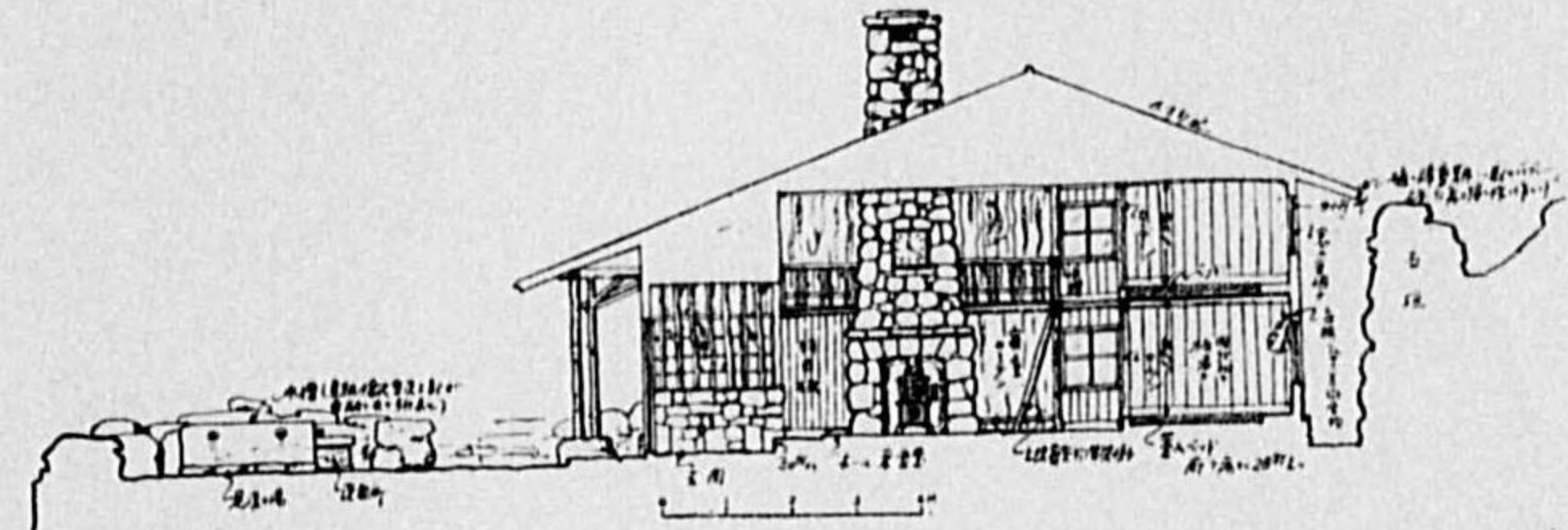
(南 側 面)



(東 側 面)



(縦断面)



(横断面)

設計説明

假定建設地 「日本アルプス」 槍ヶ嶽南東殺生小屋附近

概要

位置 日本アルプス槍ヶ嶽 (3,180米) 南東、現在殺生小屋のある附近。冬期雪崩の危険なき地点。

此の地点は一般登山者の夏期に於ける上高地より1日の行程として適度である。槍潭の大雪渓を過ぎて海拔 2,800米視界開けたる高原にして肩の小屋附近の如く土地狭小にして水便無く、又大槍小屋の如く冬期雪崩の危険のある様な地点にあらず。風當りの點でも地形上相當緩和される。

敷地 建坪 200 平方米 展望臺約 80 平方米

構造 木造平家建

收容人員 寢室及人夫小屋番室、上下二段造り收容人員 50 人

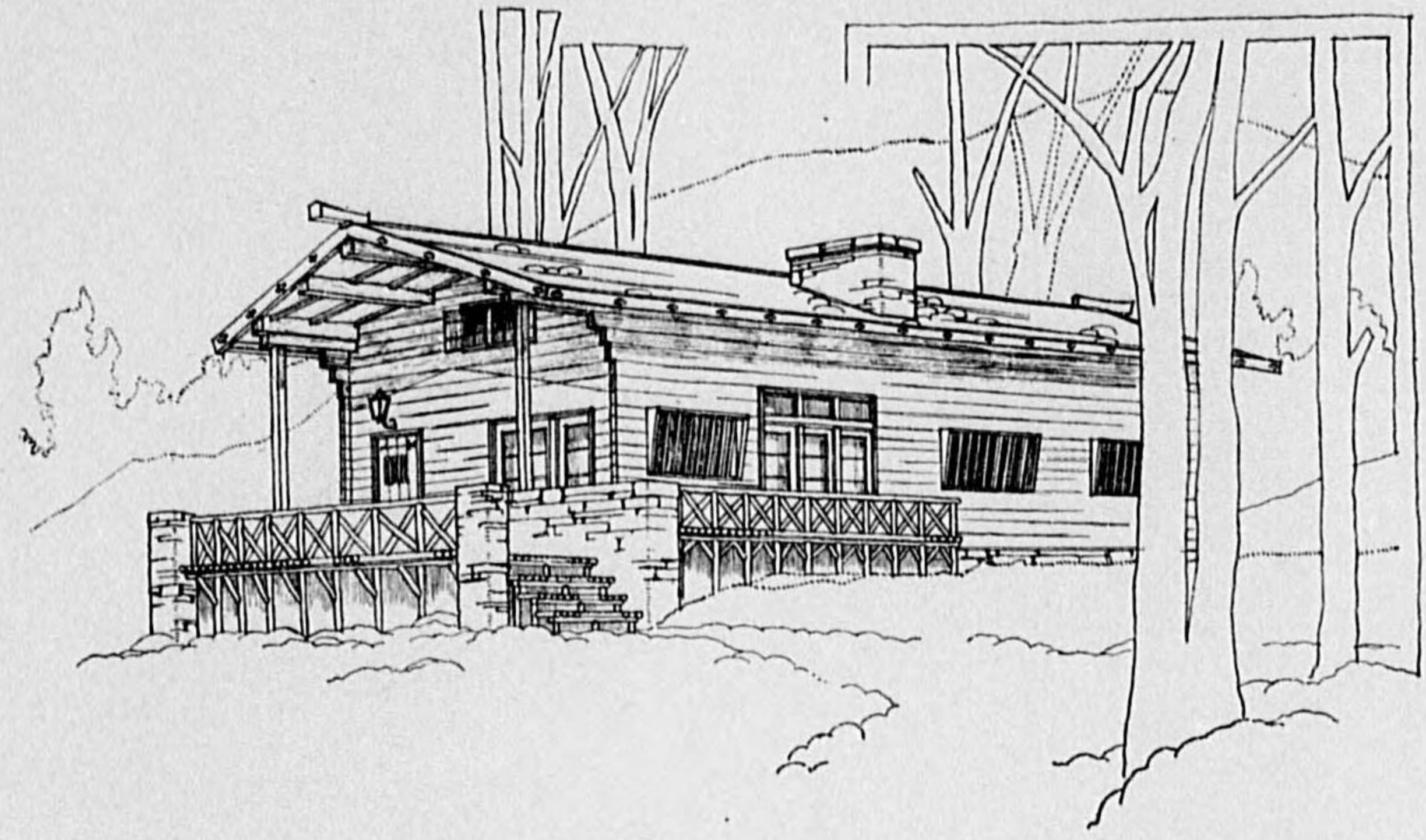
屋根 亜鉛鍍鐵板瓦葺、ペンキ塗仕上げ、勾配 4 寸、雨樋は降雪期は取り外し得る様にする。

外装 腰廻り下部、煙突自然石貼り、物置壁體自然石積み、其他外面落葉松木皮板張り。
内装 玄関床及ホール兼食堂ストーブ、人夫小屋番出入口及燃料置物床自然石敷き、便所乾燥室兼スキー置場床モルタル塗仕上げ、人夫小屋番室床畳敷き、ホール兼食堂、炊事場、廊下、床板張り、各室壁面羽目板張り、外壁中空部分オガクズ填充、各室天井板張り。

寢室 上下二段造り、ベッド軍隊用同様大き約 0.75 米 × 1.80 米室内壁部にはリュックサック、ピッケル、其他登山具衣類掛金を附ける。

給水 夏期、槍潭雪渓上部の雪融水をパイプにて誘導すること及屋根より雨水を樋により備付けの貯水槽に導き使用する。冬期水無き場合には冰雪を融かして用ふ。

採暖 寢室以外各室共効率高き大型ストーブを使用す。燃料は營林署拂ひ下げの木材を使用す。

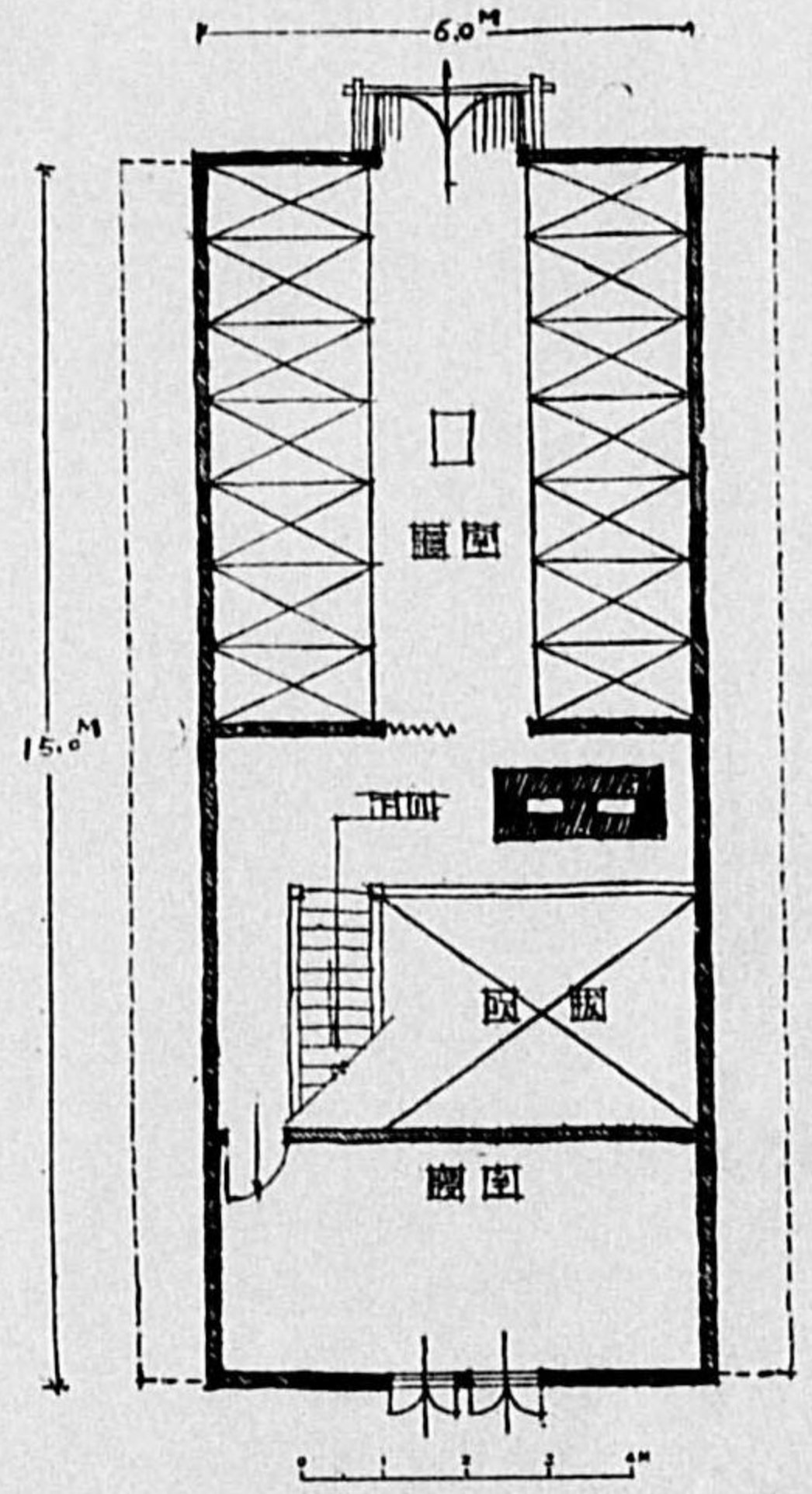
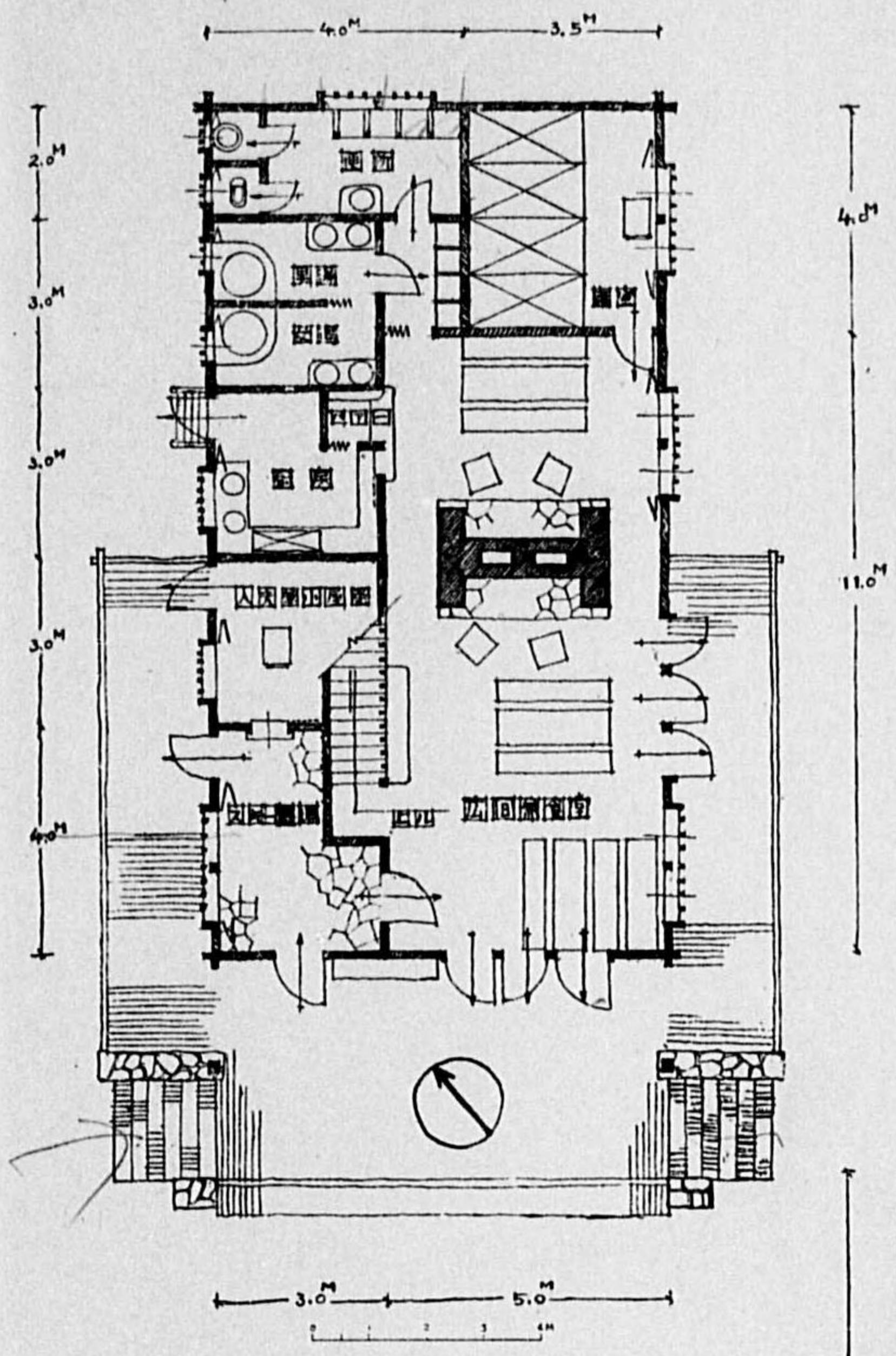


(透視圖)

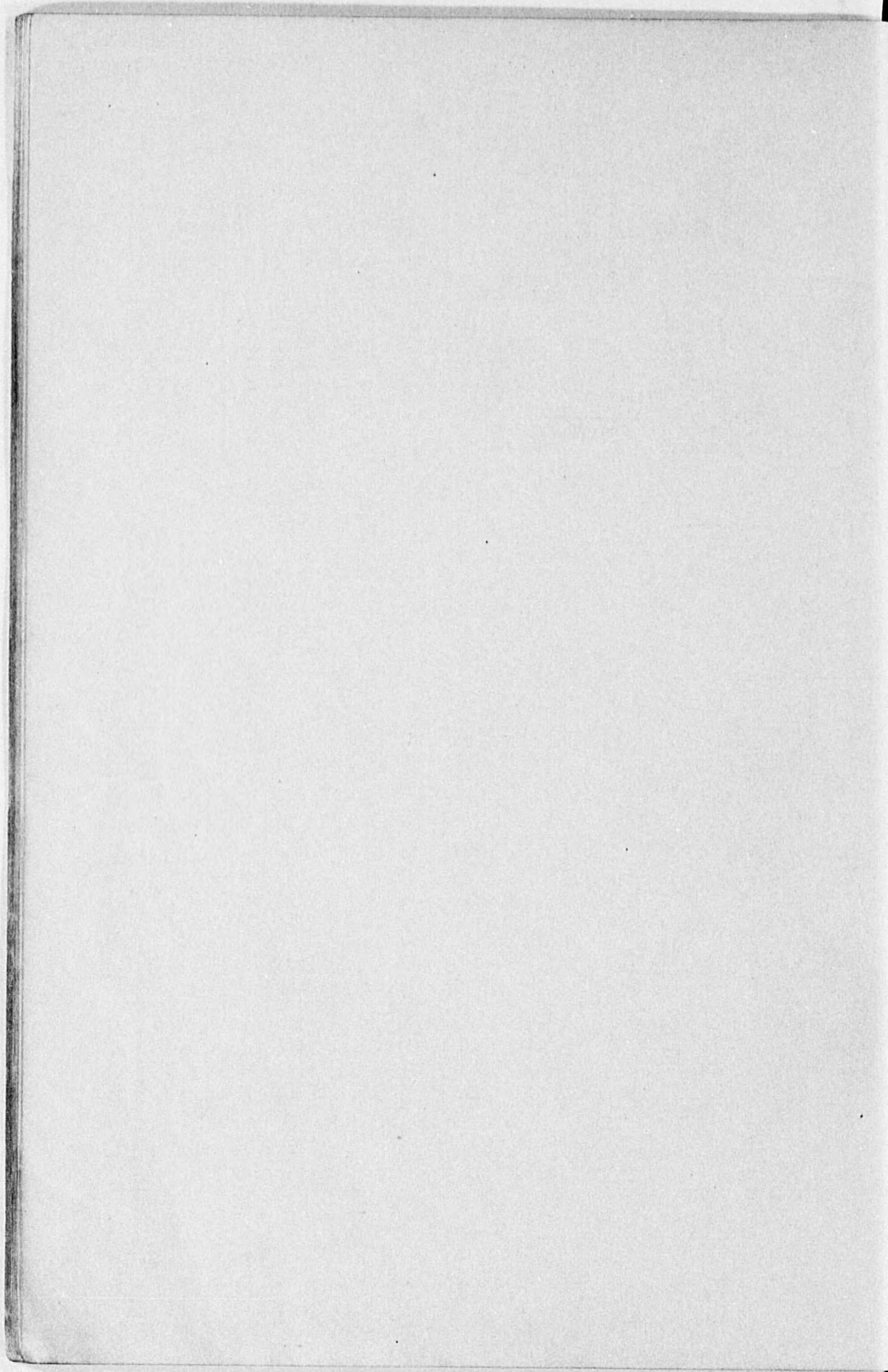
佳 作

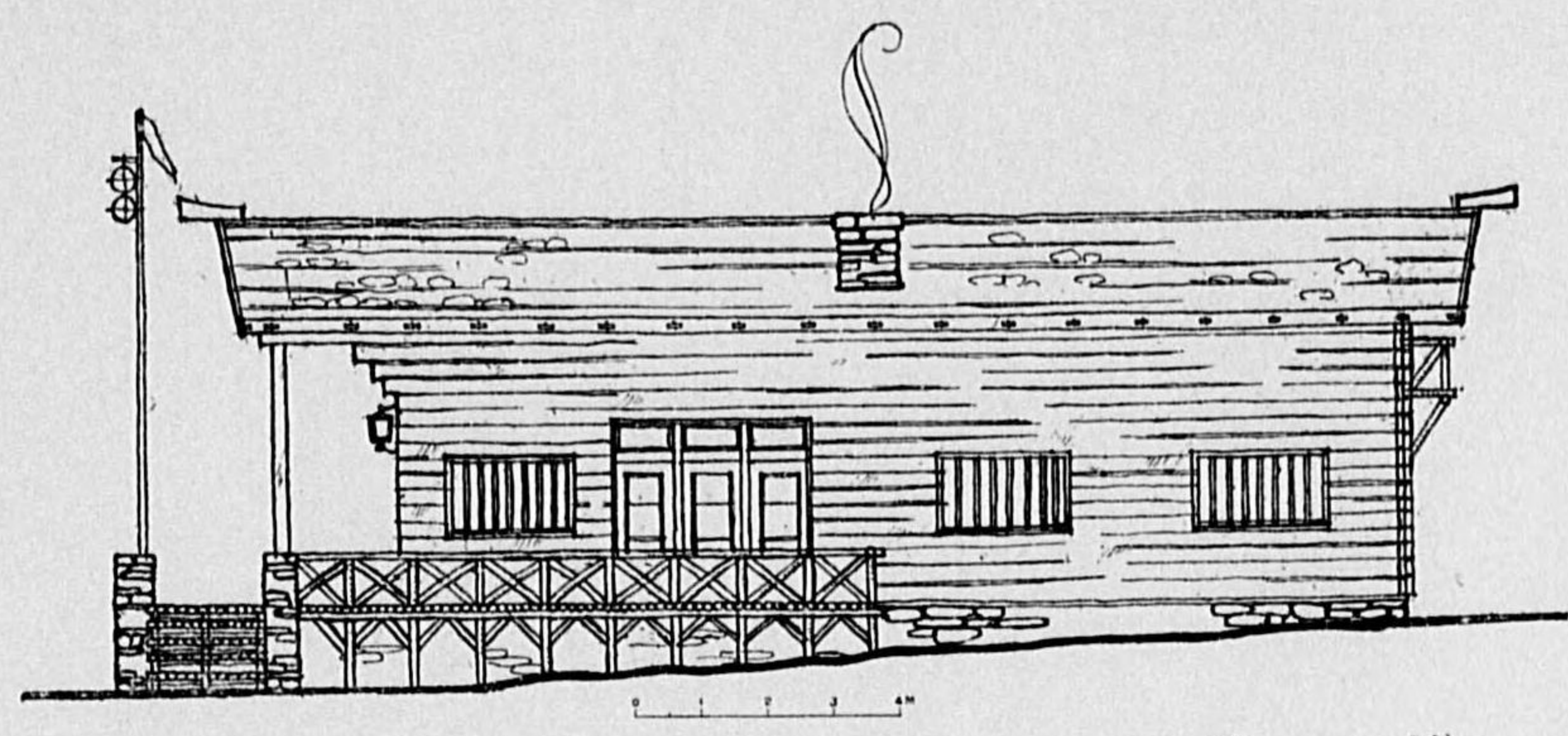
吉 田 治 德 君 作

(下部平面)

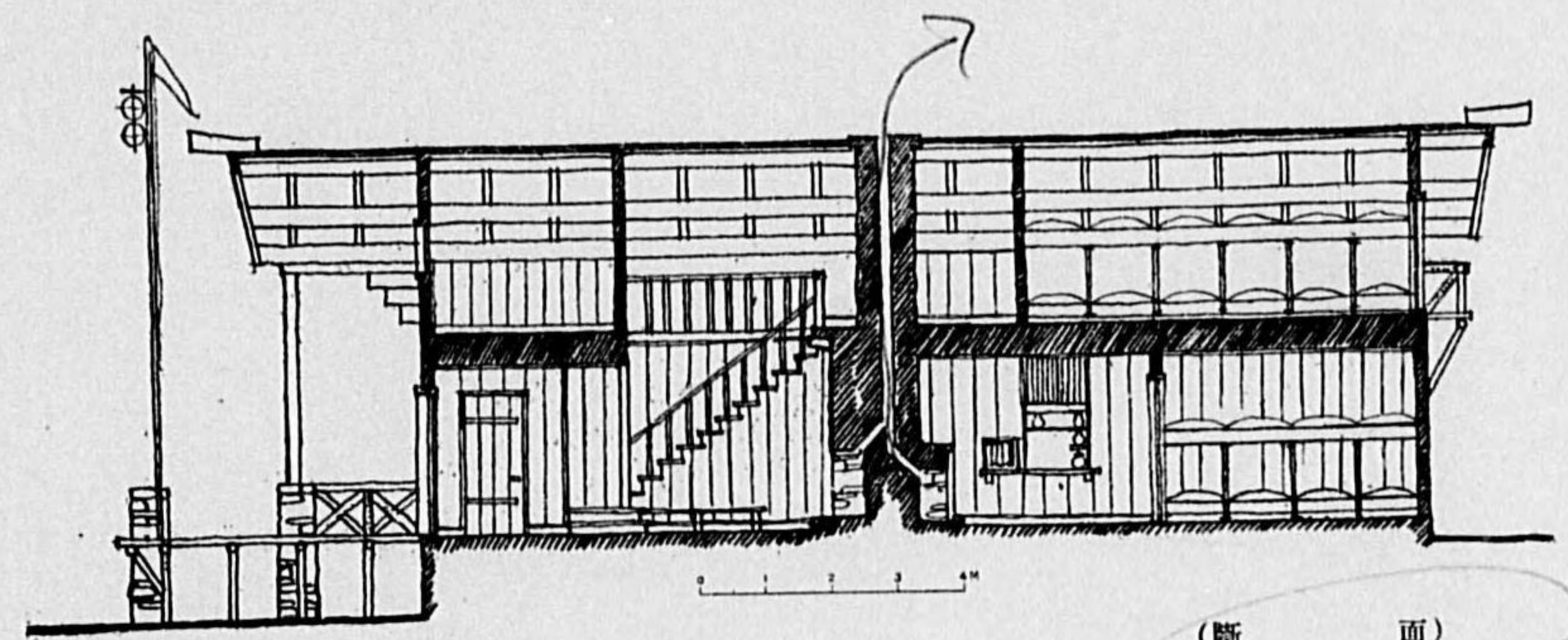


(上部平面)

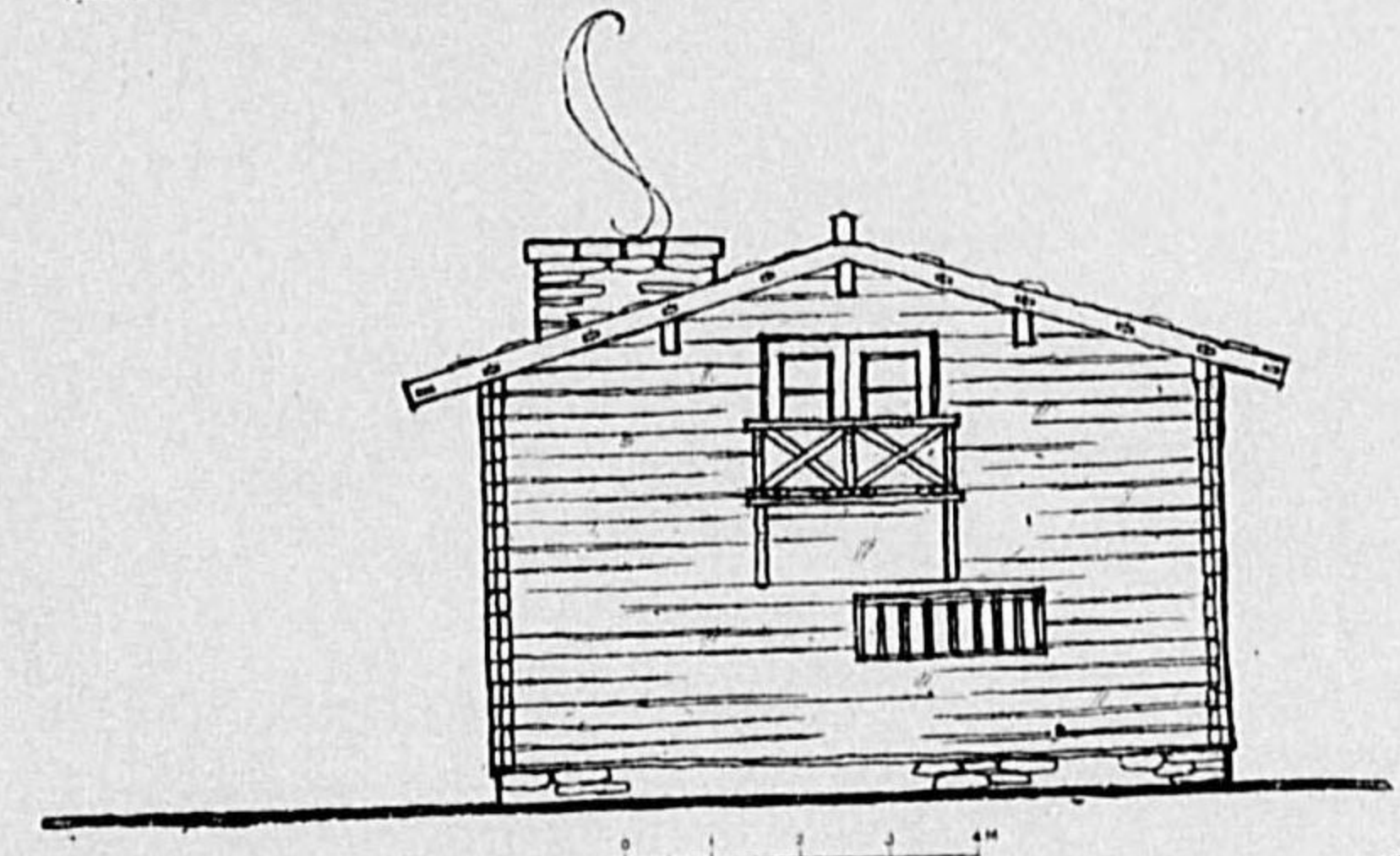




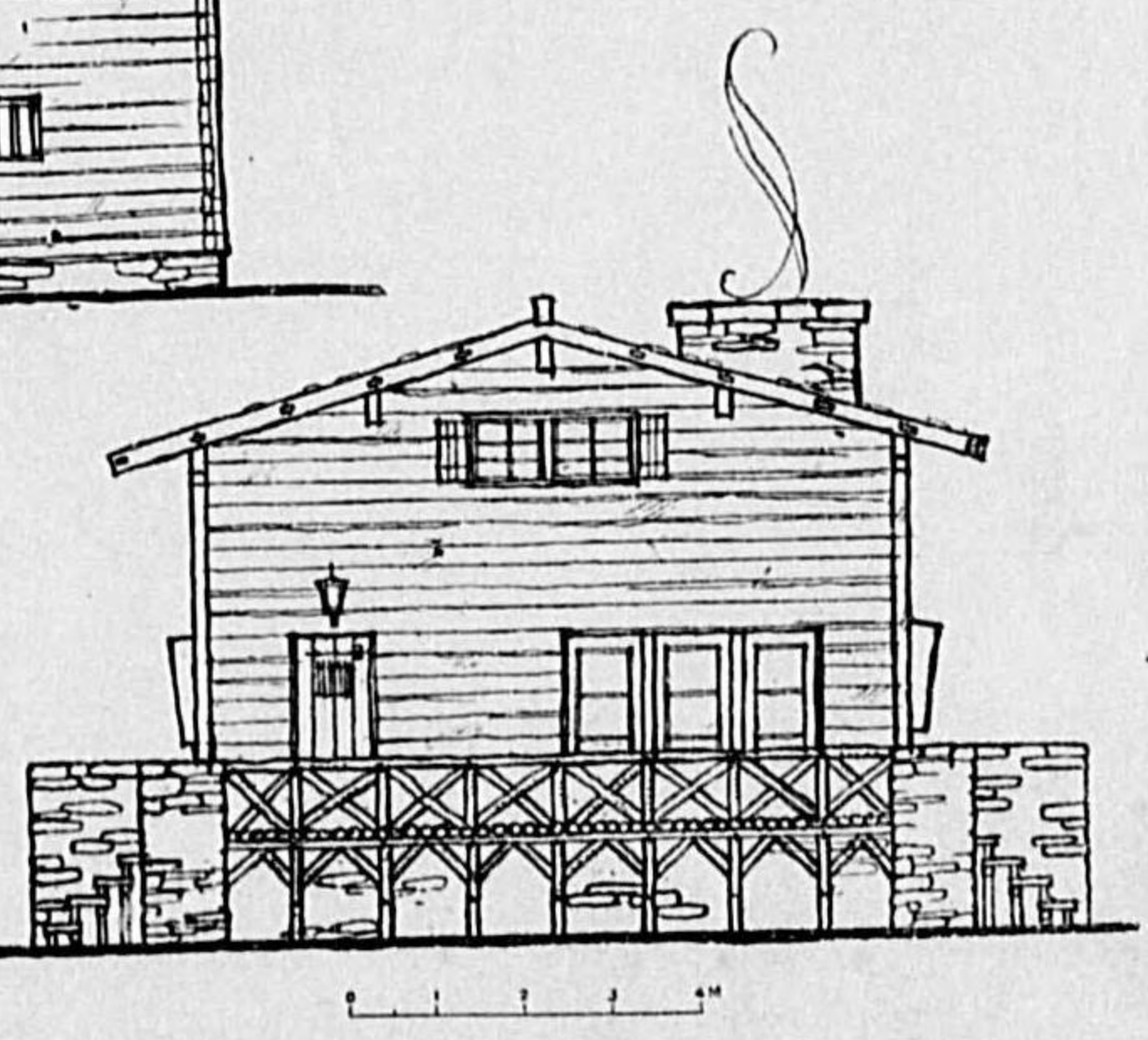
(側 面)



(斷 面)

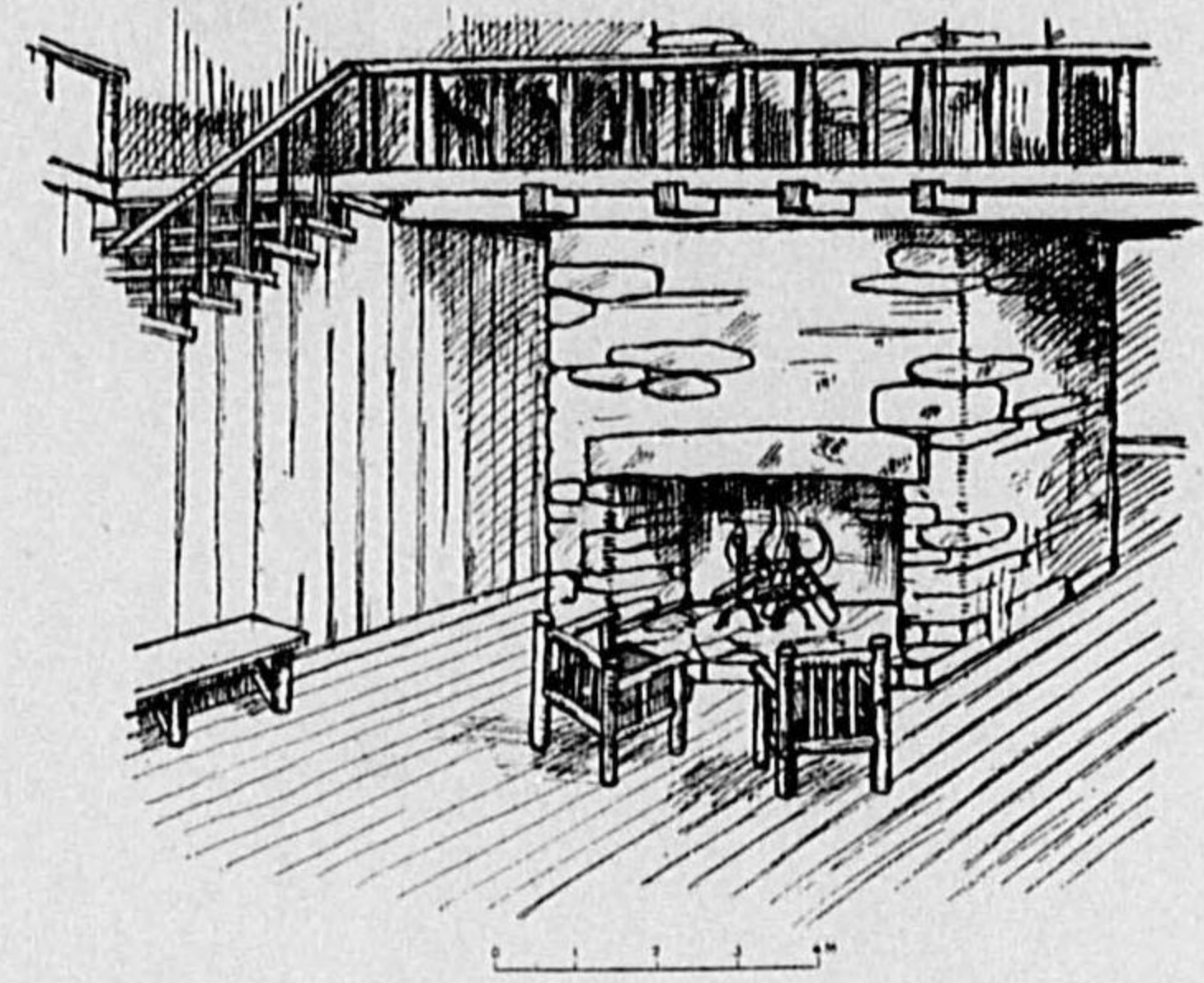


(背 面)



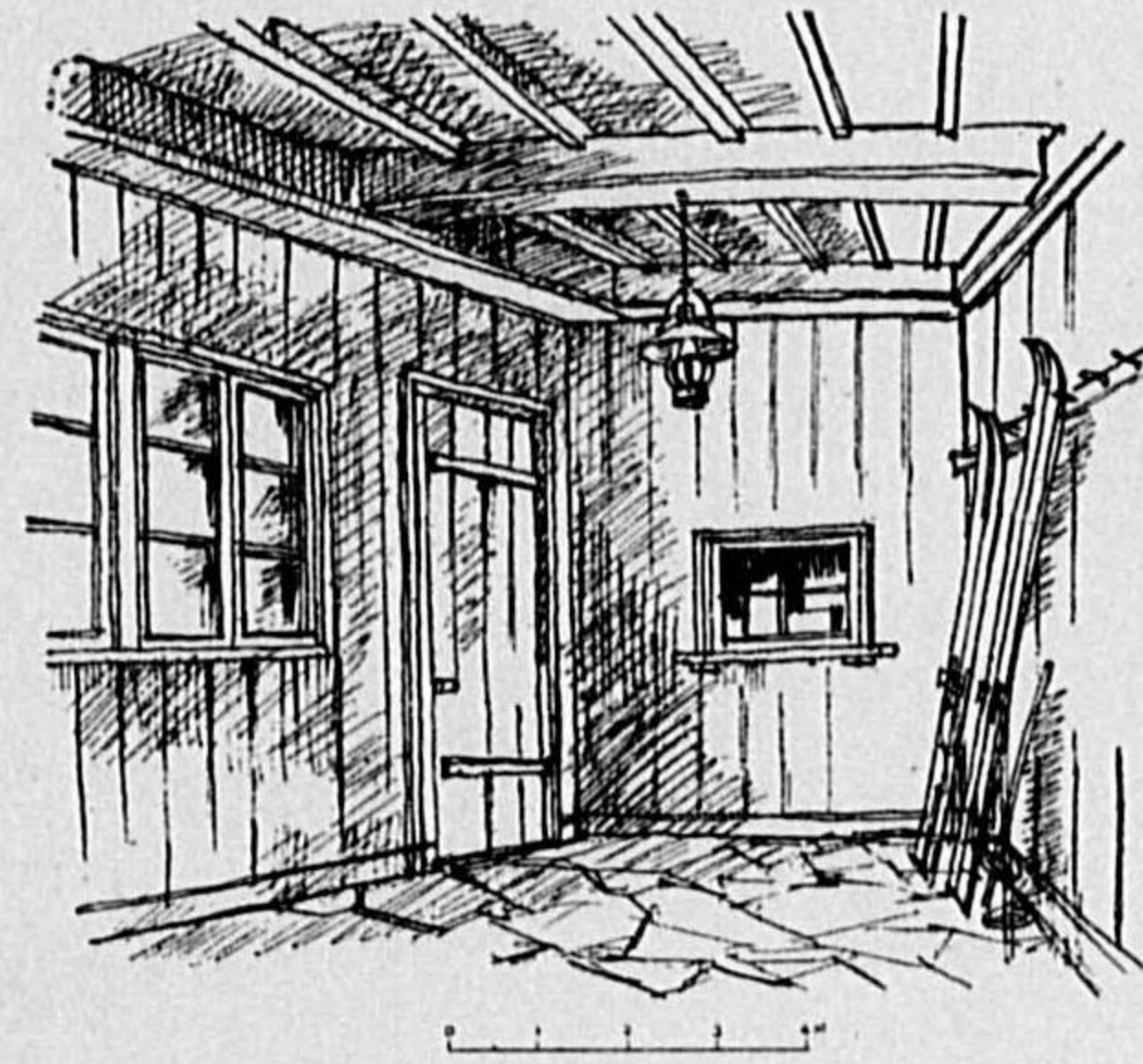
(正 面)

1.20 m
3.0 m
1.70 m



(スキー置物)

(廣間一部)

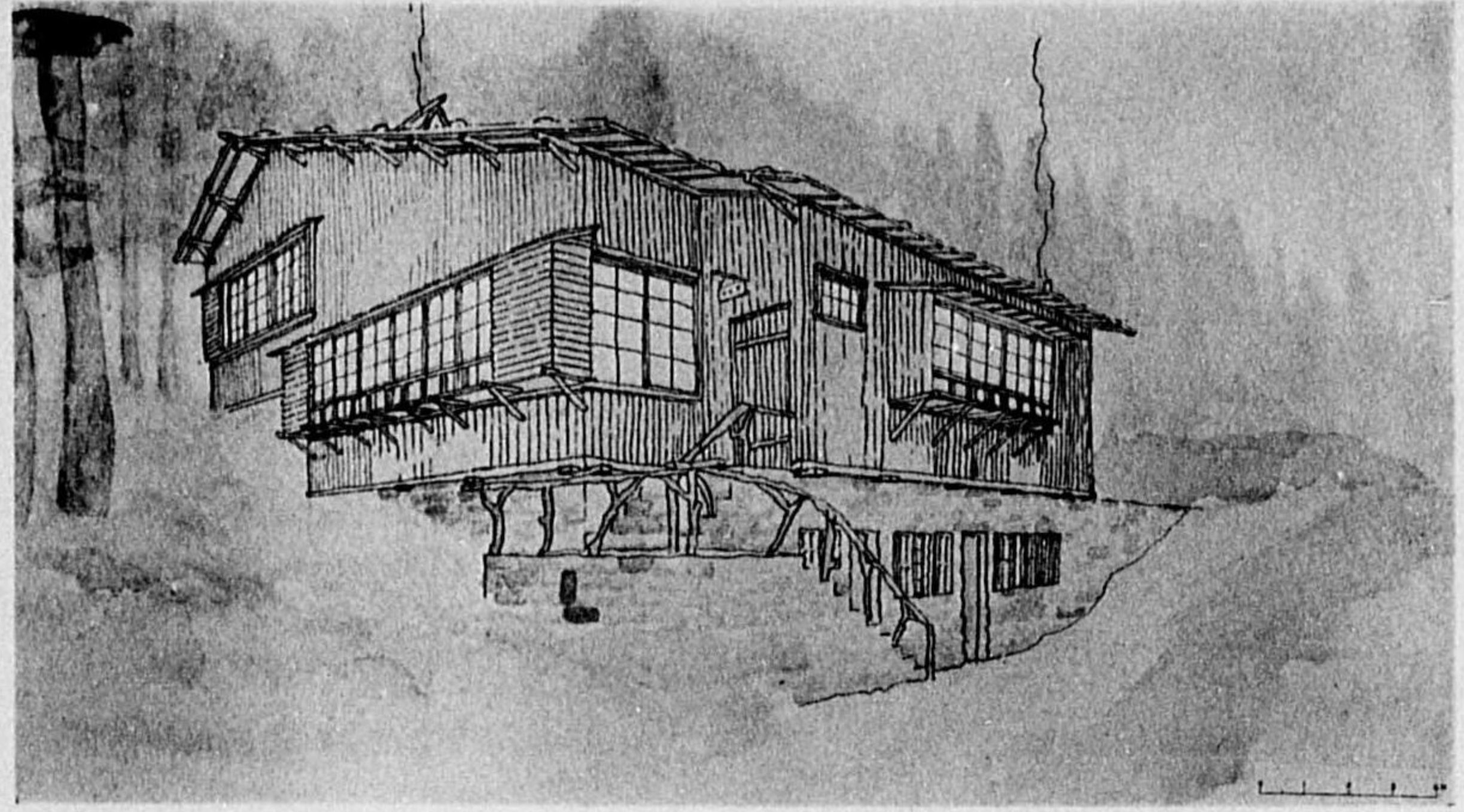


設計説明

假定建設地「日光」湯元附近森林地帯

概要

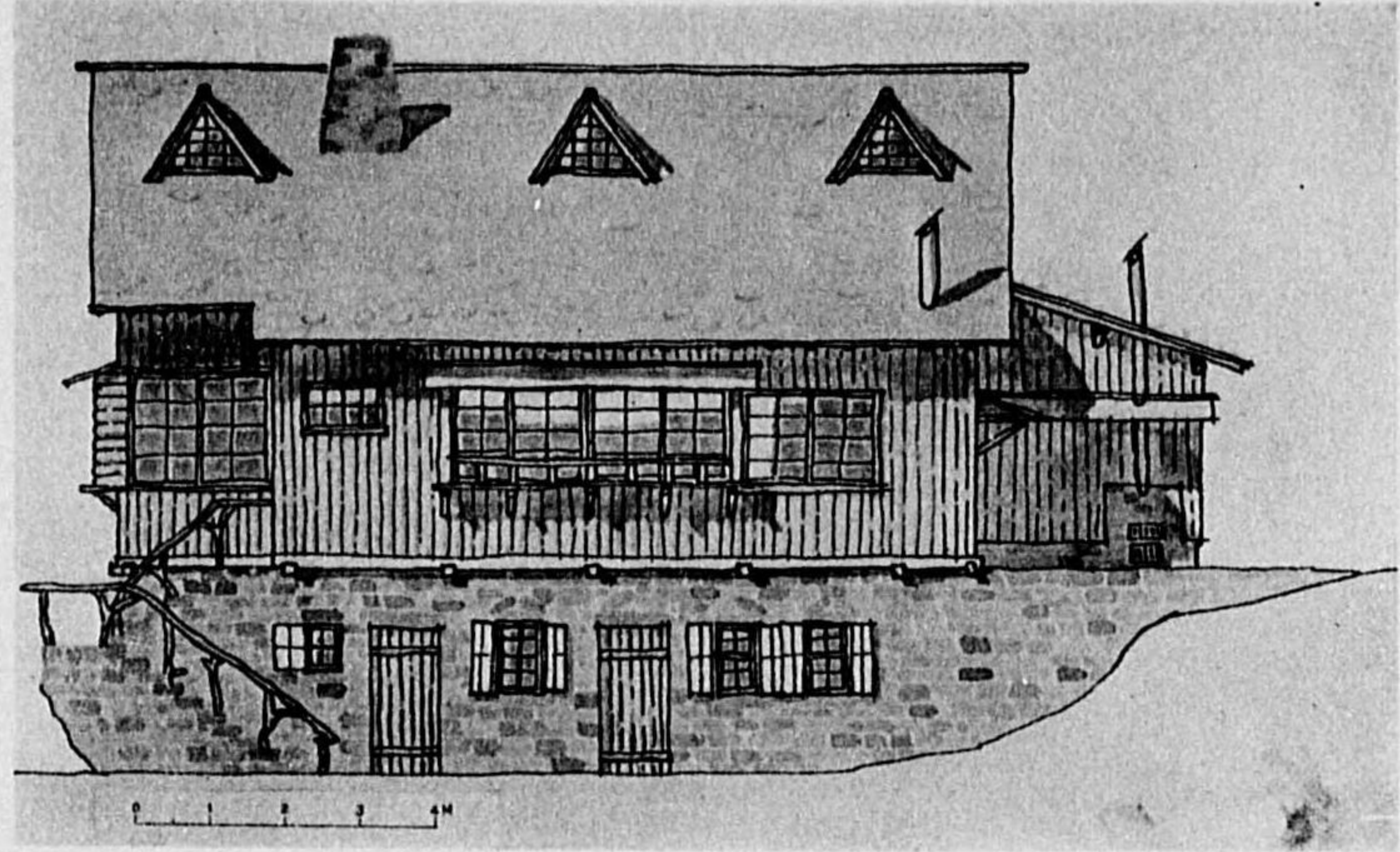
1. 計劃の主旨は應募規定に基て考案し、夏季と冬季との利用を考慮し、其容姿は郷土性を十分に取り入れ又周囲の森林地帯の自然風致とを融和せしむ。其の建設場所も都會より比較的近日光湯元附近森林地帯を選び、歴史的土壌と都會人及外國人の此の土地を多く訪ねる事を考慮し、郷土性必然的構造美を主眼として計劃せしものなり。
2. 延坪數は 195平方メートルとし、收容人員50人とし、寢臺を二段にとり、各室に「ストーブ」を設置し、照明は石油「ランプ」を使用し、給水は「ガソリンポンプ」を以て「タンク」まで揚げ、使用個所へ給水す。
3. 構造は木造とし、屋階を利用し寢室となし、外壁は松材掘立面取り「セイロ」組となす。仕上面は硫酸にて粗面にし、耐寒耐熱性塗料「ノーラスター」塗り仕上げとなし、窓廻りは白色「ペンキ」塗り仕上げとす。
 屋根は防寒防曇の爲め、吋厚「テックス」類を以て敷き「ラバロイド」類を以て水防體となし、杉皮を以て葺上げ杉皮押へ及雪止め等を兼て玉石を上ぐ。内部壁面は外壁との界には絶縁材料「テックス」類を以て貼り、「ブナ」厚5分巾8寸板を目板止め打ちに爲して貼る。床板は「ブナ」縁甲挽きに爲して貼るものとす。
 煖爐の主體は大谷石を使用、外部暖石等は玉石類を以て積み上げるものとす。
 「スキー」置場等の床は鐵平石を使用す。
4. 延坪數 195.0平方メートル
5. 收容人員50人



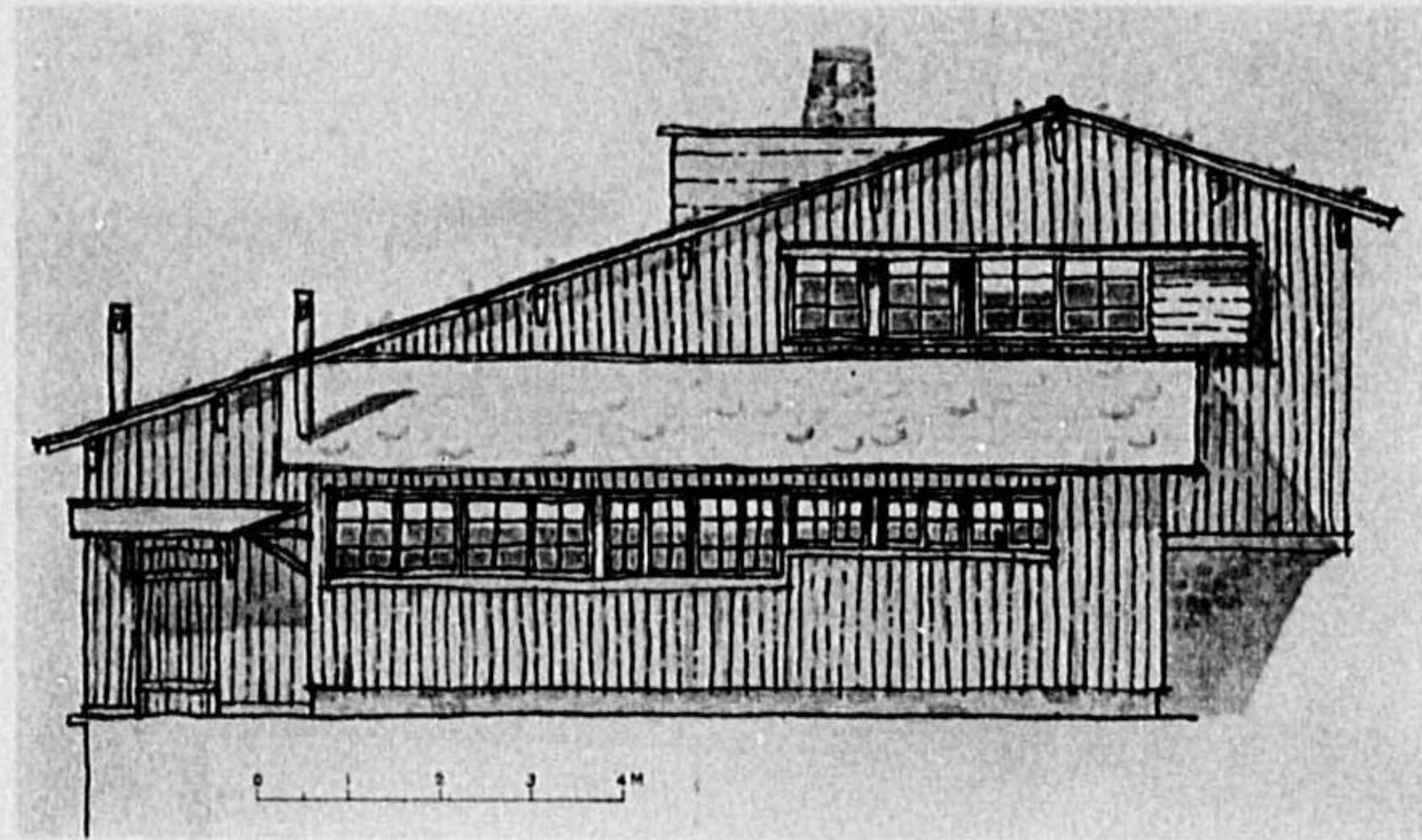
(透 視 圖)

佳 作

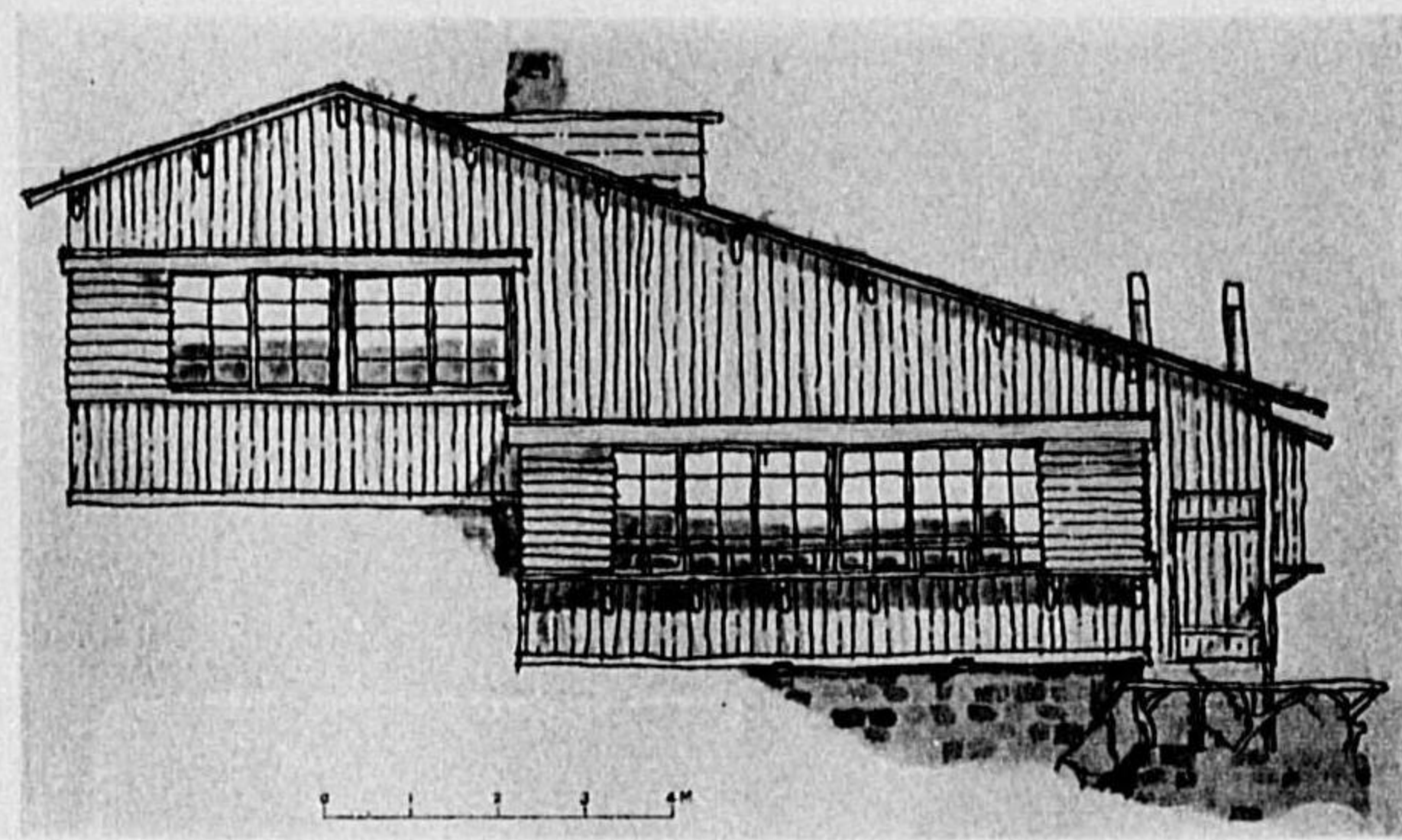
藤 岡 憲 吾 君 作



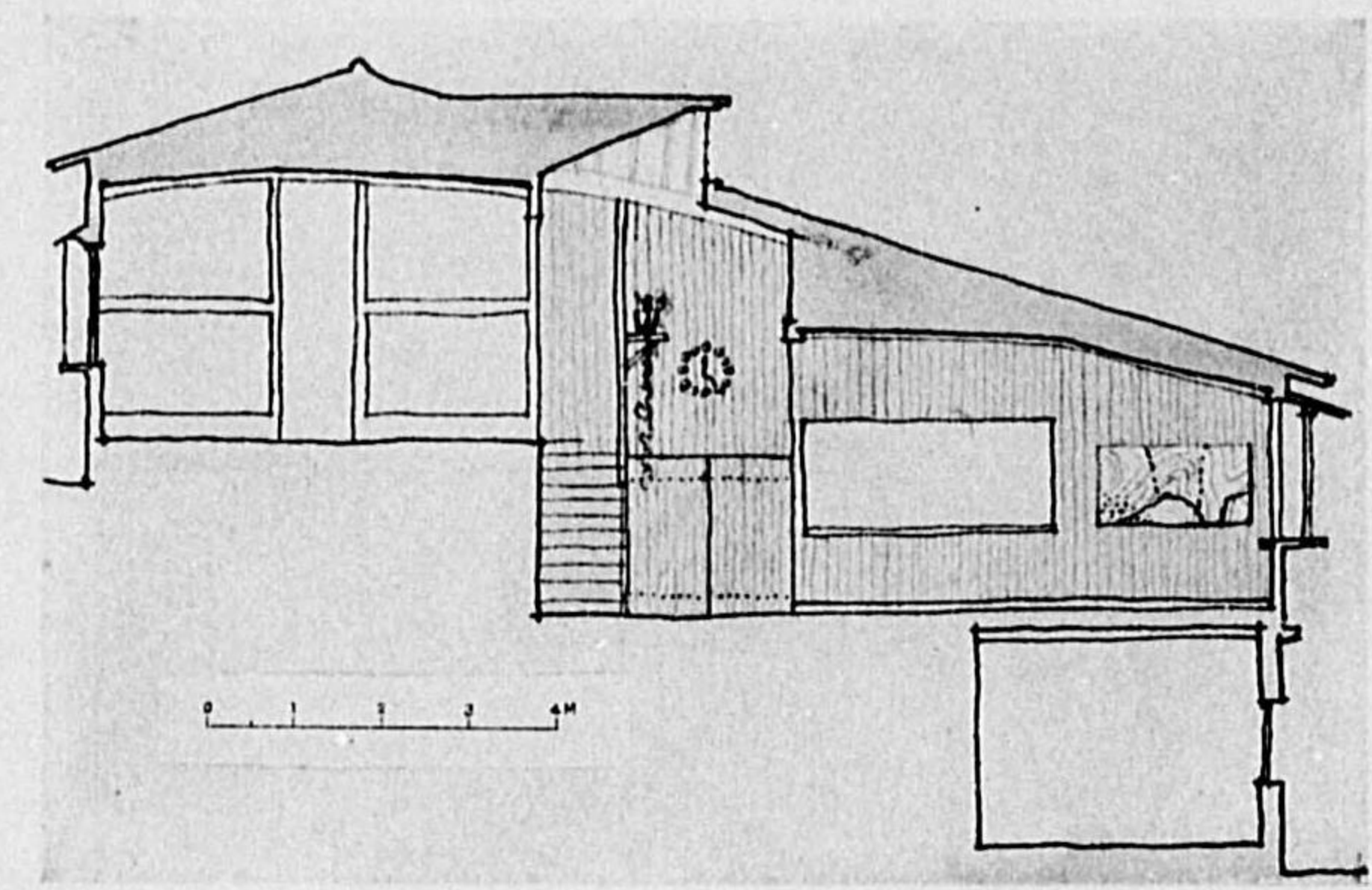
(正 面)



(侧 面)



(側面)



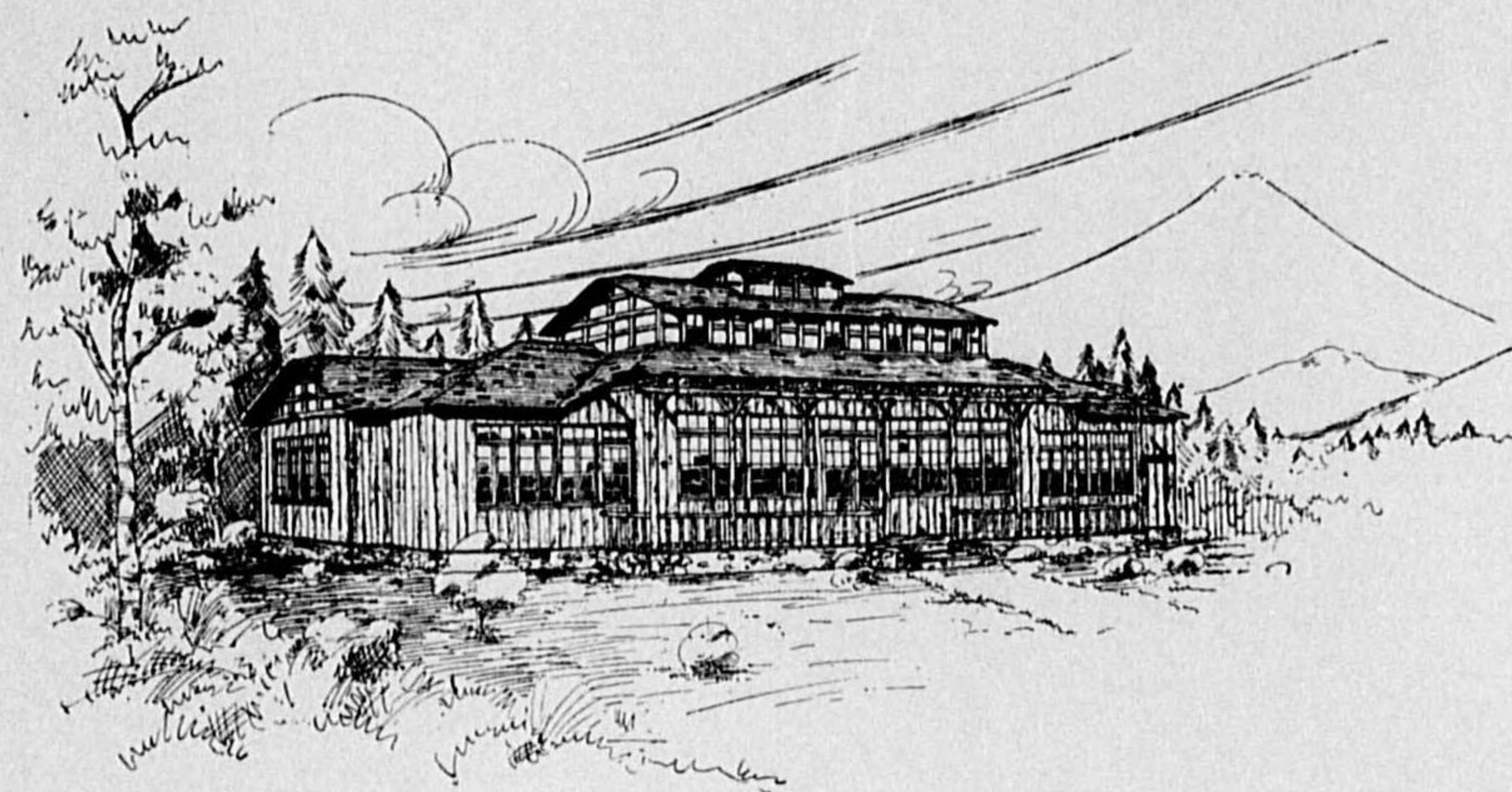
(横断面)

設計説明

假定建設地「大山」山林地帯

概要

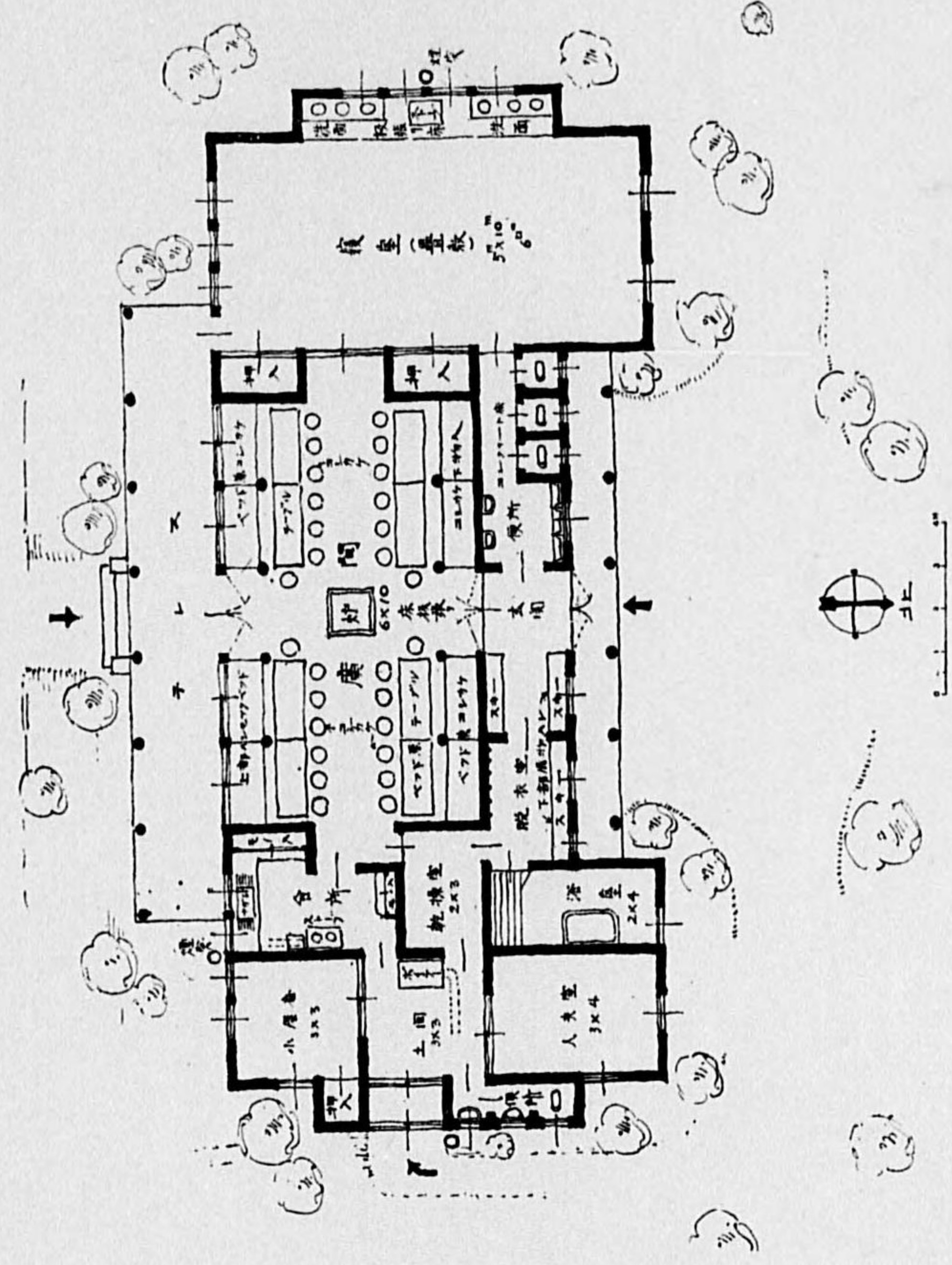
- | | | |
|--------|-----|--|
| 基
外 | 礎部 | 山地を均し、石畳は亂石積とす。 |
| | 壁。 | 眞壁とし其上に杉丸太を割りて大釘打とす。 |
| | 屋根。 | 小屋組は和小屋とし、杉皮を以て葺き、杉丸太にて押ふるものとす。 |
| 内
部 | 其他。 | 手摺、持送り等は自然木を利用して雅致を増さしむ。 |
| | 床。 | 板張とし、人夫部屋小屋番部屋は畳敷とす。 |
| | 天井。 | 梁見出とし、板張とす。 |
| | 窓。 | 總て二重窓とし、出窓には花等を置く。 |
| 寢
臺 | 壁。 | 羽目板張。 |
| | 臺 | 幅2尺の枳を作り、夫れを架の上に乗せ、並べて寢臺を作り、必要に応じて取除き得るものとす。 |



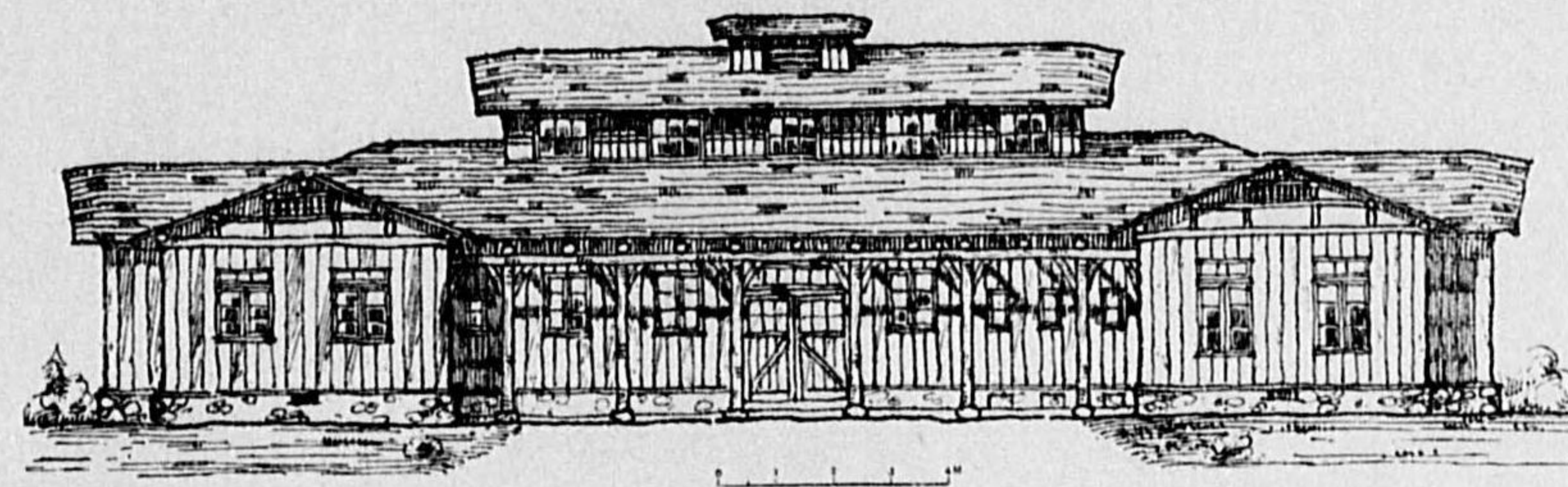
(透 視 圖)

佳 作

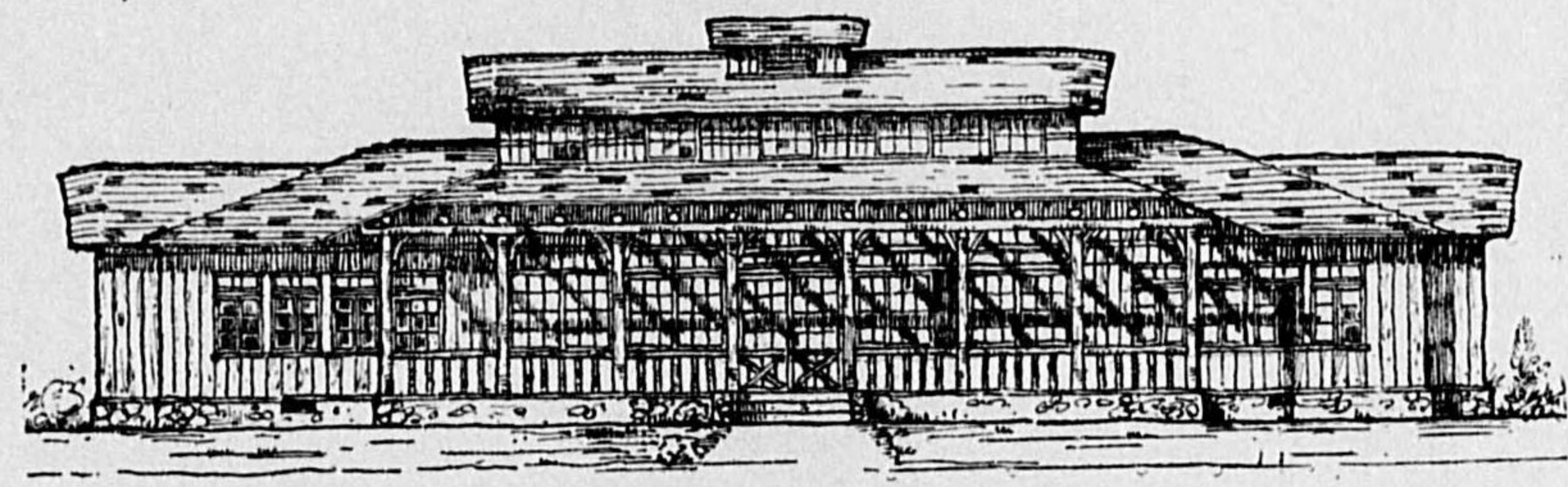
谷 一 東 君 作



(平面图)



(正面)



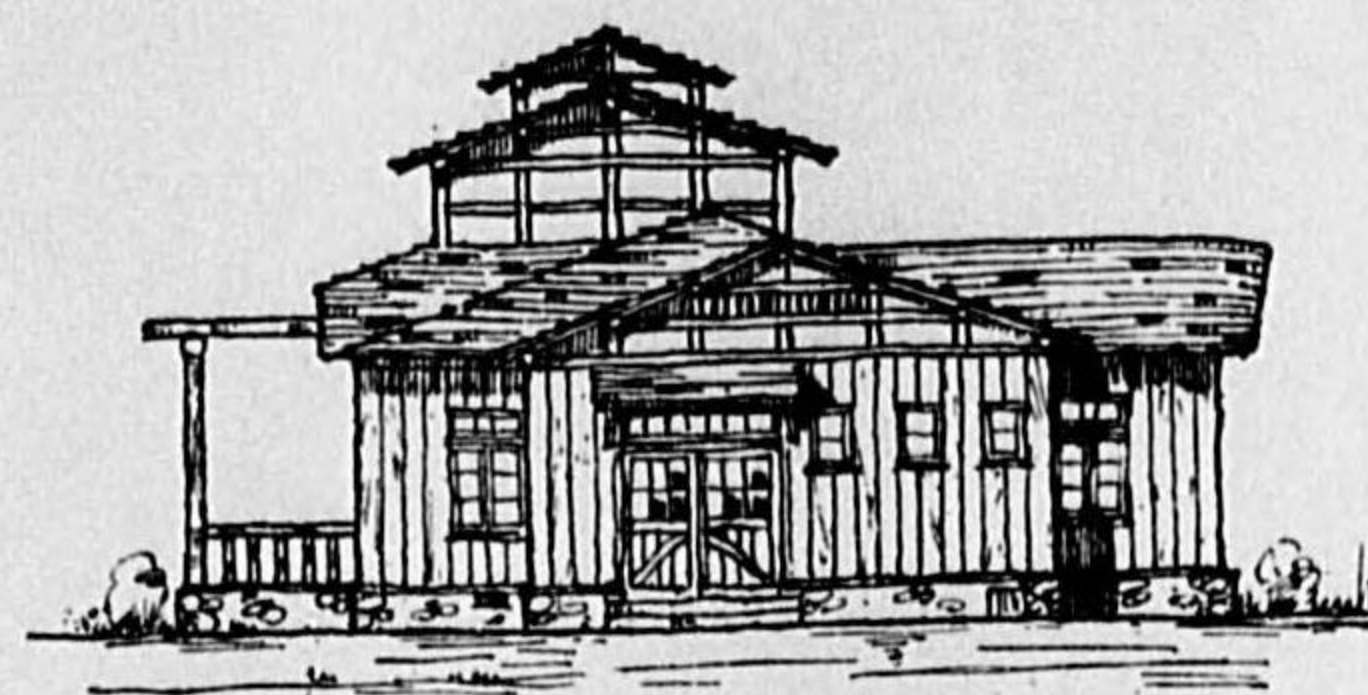
(背面)



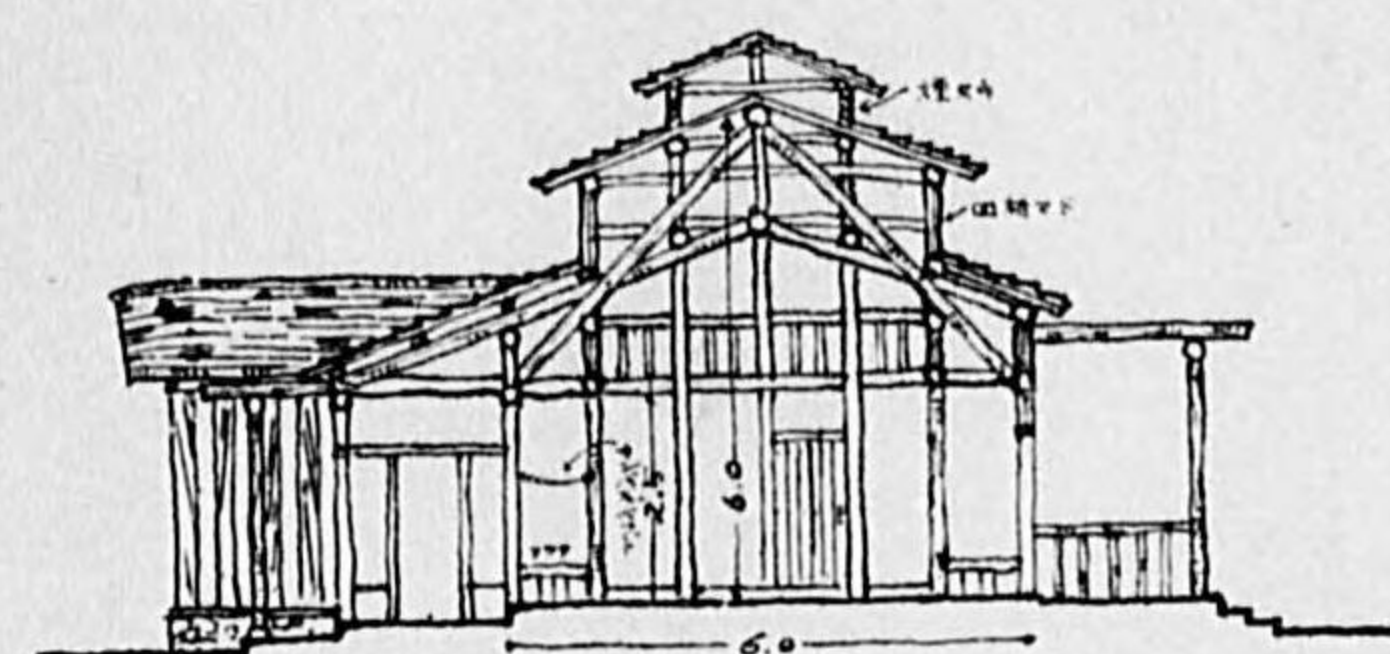
(腰掛上部帆布ベッドの圖)



(テーブルを開き床に使用の圖)



(側面)



(断面)

設計説明

假定建設地「富士」本栖湖附近の森林地帯の最上部

概要

面積	205 平方米 (但しテレスを含まず)	
收容人員	廣間 (ベッド)	24人
	寢室 (疊敷 50 平方米) 最大	60 "
	計	84 "
	食卓同時に	52人分

構造 基礎は地方産切石積とし、柱、小屋其他の木材は總て赤松、唐松、杉等を使用す。屋根は栗コバ葺とす。外壁は保温の爲め土壁を塗り、松6分板にて張廻す。内部廣間は高さ2米迄板張りとし、他の各室は土壁漆喰仕上とす。廣間天井は小屋を表はし、他は板天井とす。床は8分板張り、外部仕上は總て防腐剤塗りとし、内部は漆塗とす。

設備 暖房方法、廣間は中央爐により、寢室は置ストーブに依る。乾燥室は土間のボイラーに依る。同ボイラーにより臺所・浴室に温水を給水す。給水は井戸水をポンプによる。便所は水洗式とす。

38

國立公園=建ッ山小屋建築設計圖案集

昭和9年3月5日印刷

昭和9年3月10日發行

[定價金 50 錢]

編輯兼
發行人 高杉造酒太郎

東京市澁谷區代々木新町58

印刷人 松井方利

東京市澁川區白河町4丁目1番地ノ1

印刷所 東京印刷株式會社

東京市澁川區白河町4丁目1番地ノ1

發行所 國立公園協會
東京市麹町區外櫻田町內務省衛生局內振替東京 80313

“ 建築學會
東京市京橋區銀座西3ノ1建築會館 振替東京 17187

1701

526. 7-Ko49ㇿ



1200500745356

終